

IP OFFICE シリーズ

S/M/L タイプ
SⅡ/MⅡ/LⅡタイプ

取扱説明書

外部ボイスメール 機能編

- 本書は製品を安全にご使用いただくための注意事項が書かれています。
ご使用になる前に必ずお読みください。
- ご使用になる間は、本書を製品の近くに保管していつでもご活用できるようにしてください。

このたびは、「IP OFFICE」および CTstage Lite（または CTstage 6Mi Lite）をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。CTstage Lite（または CTstage 6Mi Lite）のボイスメールシステム（外部ボイスメール）を利用すると、充実したボイスメール管理機能を活用することができます。ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり正しくお使いください。

MEMO

- 本書では、CTstage Lite（または CTstage 6Mi Lite）を利用したボイスメール機能（外部ボイスメール）について説明しています。
主装置に標準搭載されているボイスメール（内蔵ボイスメール）の操作については、『取扱説明書（多機能電話機編）』をご確認ください。
- 本書では、CTstage 6Mi Lite 特有の機能を説明するときは「CTstage 6Mi Lite」、共通の機能を説明するときは「CTstage Lite」と記載します。
- 本書の中で主に説明の対象としている電話機は多機能電話機です。他の機種種の電話機の操作については、販売店にお問い合わせください。
- 本書は、パーソナルコンピュータ（以下、パソコン）および Internet Explorer[®]（以下 IE）についての概念や用語、使いかたについてすでに知識のある方を対象としています。

※本書では、IP OFFICE を「主装置」と記載しています。

ご注意

- 本製品は、電話に代表される、個人情報の保存または保持可能な商品です。設置工事、保守、廃棄、譲渡および返却される際は、本製品内に保存または保持された個人情報を消去する必要があります。
- ご使用の際は、本書に従って正しい取り扱いをしてください。
- 本製品は、日本国内向けとなっておりますので、海外ではご利用できません。
This equipment is designed for in Japan only and cannot be used in any other country.
- 本製品を分解したり改造することは、法律で禁止されていますので絶対に行わないでください。
- 本製品を設置するための配線工事および修理は、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故の元になりますので、絶対におやめください。
- 本書の内容につきましては、万全を期しておりますが、お気づきの点がございましたら、販売店にお申しつけください。
- 本書の内容、外観については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容の一部または全部を無断転載、無断複写することは禁止されています。
- Microsoft、Internet Explorer、および Windows は米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
- CTstage は沖電気工業株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名・ロゴ・製品名・ソフトウェア名は、各会社の商標または登録商標です。
- Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

免責事項




- 地震および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失、誤用、その他異常な条件下での使用により生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 本装置の使用または使用不能から生じる付随的な損害（記憶内容の変化・消失、事業利益の損失、事業の中断、通信機会の喪失など）に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 電話サービスを利用することによる金銭上の損害、および逸失利益について第三者からのいかなる請求についても当社はその責任を負いません。
- 取扱説明書の記載内容を守らないことにより生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。
- 当社が関与しない接続機器、ソフトウェアとの組み合わせによる誤動作などから生じた損害に関して、当社は一切の責任を負いません。

安全にお使いいただくために

必ずお読みください

本書には、あなたやほかの人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の説明



表示	説明
 危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷(※1)を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害(※2)を負う可能性が想定される内容および物的損害(※3)のみの発生が想定される内容を示しています。

※1： 重傷とは失明・けが・やけど(高温・低温)・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの、治療に入院・長期の通院を要するものをさします。









※2： 傷害とは治療に入院や長期の通院を要さない、けが・やけど・感電などをさします。

※3： 物的損害とは家屋・家財および家畜・ペットなどにかかわる拡大損害をさします。

図記号の説明

表示	説明
 禁止	禁止(してはいけないこと)を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は絶対に行わないでください。
 強制	強制(必ずすること)を示します。 この記号のついた警告・注意文が指定する行為は必ず実施してください。

⚠ 危険

 強制	<p>電池パックはプラス⊕・マイナス⊖の向きが決められています。コードレス電話機に接続するときは、プラス⊕、マイナス⊖の向きを確かめてください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 禁止	<p>電池パックを単体では充電しないでください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 禁止	<p>電池パックは、指定の電話機以外には使用しないでください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 禁止  分解禁止	<p>電池パックを分解・改造しないでください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p>
 強制	<p>電池パックを使用する場合は、以下のことを必ず守ってください</p> <p>電池パックの液もれ・発熱・破壊により、火災・感電・やけど・けがの原因となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火の中に投入したり、加熱しない ・直接はんだ付けしない ・プラス⊕・マイナス⊖を針金などの金属類で接触させない ・水・雨水・海水・薬品などにつけたり、ぬらさない ・ネックレスなどの金属製品と一緒に持ち運んだり、保管しない ・針を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたり、投げつけない
 強制	<p>電池パック内部の液が目に入ったときは、失明のおそれがあります。こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください</p>
 強制	<p>不要になったリチウムイオン電池を廃棄するときは、ショート防止のために、電極に絶縁テープを貼り、地方自治体の条例や規則に従うようにしてください</p> <p>電極がショートすると、破裂、発火の原因となります。</p>

 **警告**




 禁止	<p>取付位置を変更しないでください 火災・感電・けがの原因となります。 配線工事を行うには資格が必要です。販売店にご相談ください。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>主装置の通風孔や電話機の開口部などから、金属類を入れないでください 火災・感電・故障の原因となります。万一、金属類が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。</p>
 禁止  ぬれ手禁止	<p>主装置をぬれた手で操作したり、ぬれた布でふかないでください 感電の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>万一、内部に水などが入った場合、そのまま使用しないでください すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>主装置、電話機の上や近くに液体の入った容器(花びん・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・小さな金属など)を置かないでください 液体がこぼれて内部に入ると、火災・感電・故障の原因となります。万一、液体が内部に入ったときは、すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。</p>
 禁止  接触禁止	<p>雷が鳴り出したら、主装置・電源コードなどに触れないでください 感電の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>万一、煙が出ている、異常音がする、変なにおいがするなどの異常状態が発生した場合、そのまま使用しないでください すぐに主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。なお、お客様による修理は危険ですからおやめください。</p>
 禁止	<p>一般のゴミとして放置しないでください 火災・けがの原因となります。 廃棄するときは、販売店にご相談ください。</p>
 禁止	<p>AC100V ± 10V の商用電源以外は、絶対に使用しないでください 火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止	<p>内線・外線の各端子をショートさせないでください 火災・故障の原因となります。</p>
 強制	<p>電源プラグを電源コンセントへ直接接続してください 延長コードは過熱・発火の危険があるので使わないでください。</p>

 **警告**

 禁止	<p>テーブルタップや分岐コンセント・分岐ソケットを使用したタコ足配線はしないでください 火災・過熱の原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>主装置、電話機を傾いた台の上や、振動、衝撃の多いところに置かないでください 落下・転倒により、けがの原因となります。万一、落下・転倒により破損したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止  ぬれ手禁止	<p>ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください 感電・けがの原因となります。</p>
 禁止  火気禁止	<p>主装置、電話機に火の気を近づけたり、加熱しないでください 鉛蓄電池(バッテリー)が液もれ・発熱・破裂し、火災・けがの原因となります。</p>
 禁止  電源プラグを抜く	<p>電源コードおよび電話機コードを傷つけたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたり、高温部に近づけたり、重い物を載せたり、挟み込んだり、加工しないでください コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードが傷んだ場合は(芯線の露出、断線など)主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて販売店に交換をご依頼ください。</p>
 禁止	<p>工事者以外は、装置の蓋などを開けないでください 感電、故障の原因となります。</p>
 強制	<p>電源プラグは電源コンセントの奥までしっかり差し込んでください 電源プラグの刃に、金属などが触れると火災・感電・故障の原因となります。</p>
 強制	<p>電源プラグの刃および刃の取付面に、ほこりが付着している場合は、よくふいてください 火災の原因となります。</p>
 強制  電源プラグを抜く	<p>主装置に鉛蓄電池(バッテリー)を使用する場合、寿命は(使用頻度にもよりますが)設置後2～3年(長寿命バッテリーの場合は6年)です。交換時期になりましたら、販売店にまとめて交換をご依頼ください 寿命が過ぎた鉛蓄電池(バッテリー)を使用し続けるとバッテリー内部の液もれの原因となります。万一、バッテリー内部からもれた液が皮膚や衣服についたときは、すぐきれいな水で洗い流してください。皮膚がかぶれることがあります。また、バッテリー内部の液もれが発生したときは、主装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。</p>
 禁止	<p>機器で指定されていないバッテリーは使用しないでください。また、新しいバッテリーと古いバッテリーと混ぜての使用はしないでください 電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。</p>
 禁止  分解禁止	<p>分解・改造・修理しないでください 火災・感電・故障の原因となります。 電話機の改造は法令違反となります。故障のときは、販売店に修理をご依頼ください。</p>

 **警告**







 	強制 電源プラグを抜く	<p>万一異物が、本装置および電話機の内部に入った場合は、まず本装置の電源スイッチを切り、電源プラグを電源コンセントから抜いて、販売店にご連絡ください そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください。</p>
	強制	<p>主装置の内部の点検・修理は、販売店に依頼してください</p>
	禁止	<p>歩行中に電話機を操作したり見たりしないでください 転倒・交通事故などの原因となります。</p>
	禁止	<p>電話機を電子レンジや高圧容器に入れたりしないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	禁止	<p>引火性ガスが発生する場所では、電話機を絶対に充電しないでください 火災の原因となります。</p>
 	禁止 電源プラグを抜く	<p>万一、充電器が落下したり、破損した場合は、そのまま使用しないでください 必ず AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対におやめください。</p>
	禁止	<p>本装置を医療用電気機器（ペースメーカーなど）の近くで使用しないでください 電波により医療用電気機器に影響を与えることがあります。</p>
	禁止	<p>高精度な制御や、微弱な信号を取り扱う電子機器の近くで使用しないでください 電子機器が誤動作するなど影響が出る可能性があります。また、使用を制限された場所での使用はお控えください。 (ご注意ください電子機器の例：補聴器・医療用電子機器・ペースメーカー・火災報知機・自動ドア・自動制御機器など)</p>
	禁止	<p>充電器の開口部から金属類を入れないでください 万一、内部に異物が入った場合は、すぐに AC アダプタを電源コンセントから抜いて、お買い求めの販売店に至急ご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>充電端子を金属でショートさせないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	禁止	<p>充電端子に水滴のついたまま充電しないでください 火災・故障の原因となります。</p>
	強制	<p>電池パックが液もれしたり、異臭がするときは、すぐに火気から遠ざけてください</p>
	強制	<p>所定の充電時間を越えても充電が完了しない場合には、すぐに充電をやめて、お買い求めの販売店にご連絡ください</p>
 	禁止 ぬれ手禁止	<p>ぬれた手で電池パックを交換したり、ぬれた手で充電器の AC アダプタを抜き差ししないでください 感電の原因となります。</p>
	禁止	<p>付属の AC アダプタ、充電器以外を使用しないでください 火災・けがや周囲を汚染する原因となることがあります。</p>
	強制	<p>AC アダプタ、充電器は指定の電源コンセントに接続してください それ以外の電源コンセントに接続すると火災・感電・故障の原因となります。</p>

 警告	
 強制	電池パック内部の液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に傷害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください
 禁止	LAN ポートや PC ポートに接続したネットワークケーブルを電源コンセント、アナログ電話回線、デジタル電話回線 (ISDN)、PBX デジタル電話回線には接続しないでください 火災・感電・故障の原因となります。

 注意	
 強制	必ずアースを接続してください アース接続をしないで使用すると感電・故障の原因となることがあります。
 強制	主装置や電話機を壁掛けに変更するときは、販売店にご相談ください 配線工事を行うには資格が必要です。また、主装置や電話機の重みに耐える専用壁掛け金具を使用して適正な取り付けが必要です。
 禁止	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください 電源コードが破損し、火災・感電の原因となることがあります。電源プラグを持って抜いてください。
 禁止	振動・衝撃の多い場所に置かないでください 火災・感電・故障の原因となります。また落ちたり、倒れたりして、けがの原因となることがあります。
 禁止	主装置や電話機を上下逆さまの状態を設置しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	主装置、電話機の上に乗ったり、座ったりしないでください けがや故障の原因となることがあります。
 禁止	直射日光の当たるところや、暖房設備・ボイラーなどのため著しく温度が上昇するところに置かないでください 内部の温度が上がリ、火災の原因となることがあります。
 禁止	湿気やほこりの多い場所、潮風、腐食性ガスのかかる場所、化学反応を起こすような場所 (化学実験室など) には置かないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	風呂場や加湿器のそばなど、湿度の高いところでは使用しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	調理台のそばなど油煙や湯気が当たるような場所、ほこりが多い場所に置かないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。
 禁止	電源コードおよび電話機コードを熱器具に近づけないでください コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	落下させるほどの強い衝撃を与えないでください
 強制	移動させる場合は、電源プラグを電源コンセントから抜き、回線コードや電話機コードなど外部の接続線ははずしたことを確認の上、行ってください コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
 禁止	主装置や電話機の開口部をふさがらないでください 開口部をふさぐと、内部の熱が上昇し、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意

 禁止	<p>電気雑音を発生するものに近い場所に置かないでください 通話に雑音が入ったり、使用できなくなることがあります。</p> <p><電気雑音の原因としては></p> <ul style="list-style-type: none"> ・車やオートバイが近くを通る場合 ・放送局や無線局(アマチュア無線、CB 無線など)の近くで使用する場合 ・テレビ・ラジオ・蛍光灯・OA 機器・電子レンジ・電気コタツなどの近くで使用する場合 ・高周波溶接機・高周波ミシン・電気溶接機・ワイヤカッタなどの工作機械の近くで使用する場合
 禁止	<p>強い磁界の発生源の近くに設置しないでください 火災・感電・故障の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>火のそばや炎天下などの高温の場所で、充電はしないでください 高温になると危険を防止する保護装置が働き、充電できなくなったり、保護装置が壊れる原因となります。</p>
 強制	<p>電池パックは、事故防止のため、小さいお子様の手の届かないところに保管してください 誤飲、感電の原因となります。</p>
 強制	<p>長時間で使用にならないときは、安全のため必ず充電器の AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください 発火・故障の原因となります。 主装置については、常時電源を「ON」の状態にしておいても問題ありません。</p>
 強制	<p>AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜くときは、必ず AC アダプタまたは電源プラグを持って抜いてください 電源コードを引っ張ると、電源コードが傷つき、火災・感電・断線の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>コードレス電話機のアンテナを持って持ち運んだり、アンテナを無理に曲げたり引っ張ったりしないでください 故障の原因となります。</p>
 注意	<p>電話機等の底面には、ゴム製のスベリ止めを使用しています。ゴムとの接触面がまれに変色することがあります</p>
 注意	<p>コードレス電話機のアンテナを誤って目にささないようにしてください</p>
 注意	<p>アンテナなどの突起物を目や口などに入れないようにしてください。特に小さなお子様のいる家庭ではご注意ください</p>
 強制	<p>充電器をお手入れする際は、安全のため、あらかじめ AC アダプタまたは電源プラグを電源コンセントから抜いてください 感電の原因となることがあります。</p>
 禁止	<p>充電器の上に指輪、ネックレスなどの金属類を置かないでください 金属が熱くなり、火災・やけどなどの原因となることがあります。</p>
 強制	<p>充電は周囲温度 5℃～35℃の範囲で行ってください 正常な充電ができなかったり、故障の原因となります。</p>
 強制	<p>お手入れの際は安全のために、本装置の電源スイッチを切ってから電源プラグを電源コンセントから抜いて行ってください</p>

 注意	
 強制	水滴がついた場合は、乾いた布でふき取ってください 本装置および電話機の内部に水滴が入ると、火災・故障の原因となることがあります。
 禁止	表面が熱に弱い家具の上などの表面が熱に弱い場所には、本装置および電話機を置かないでください 家具等の表面が変色・変形する場合があります。
 禁止	本装置および電話機の上に手をついたり、ものを載せないでください 火災や故障の原因となります。
 禁止	ぬれた雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールおよびシリコン系クリーナーなどでふかないでください 本装置の変色や変形の原因となることがあります。汚れがひどいときは水で薄めた中性洗剤をつけた布をよくしぼって汚れをふき取り、柔らかい布でからぶきしてください。
 禁止	受話器用カールコードやモジュラープラグで差し込まれている電話機コードを強く引っ張らないでください 故障の原因となることがあります。

IP 回線の特性について

- 下記のような場合には、IP 電話サービスの通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
 - ・ WAN(ブロードバンド)回線の接続状態によって十分な帯域がとれない場合
 - ・ インターネット上で十分な帯域がとれない場合
 - ・ 主装置に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- 相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。
 - ・ ADSL 回線をご利用の場合は、下りの伝送速度よりも上りの伝送速度のほうが低いため、通話中にインターネット上のサーバへ大きなファイルを送信したり、他拠点との間でファイルを転送することは避けてください。また、LAN 内に、インターネットにアクセスできる Web サーバ、FTP サーバなどを設置しないでください。

SIP 電話機および IP 多機能電話機の特性について

- 下記のような場合には、電話機の通話品質が劣化したり、通信が切断される場合があります。
 - ・ LAN の接続状態によって、十分な帯域がとれない場合
 - ・ LAN に接続しているパソコンで、ファイル転送やストリーミングサービスのような大きな帯域を必要とするサービスを使用中の場合
- 相手の方からの音声品質がよい場合でも、こちらから相手への音声品質が劣化していることがあります。

取扱上のお願ひ / 主装置、電話機、他

停電などの外的要因、あるいは本装置の故障、誤動作、不具合によって通信などの機会を逸したために生じた逸失利益等の金銭的損害につきましては、当社はその責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください

本装置を人命や、危害に直接的または、間接的に高い安全性が必要とされる環境下では使用しないでください

本装置に登録された内容は故障・修理のときに消失する場合があります

テレビ、ラジオ、無線機、電子レンジ、インバータ形蛍光灯などの磁気、電波を発生する場所や違法無線を受ける場所に設置した場合、ノイズや誤動作を引き起こすことがあります

放送局の近くや違法 CB 無線など、強い電波を受ける場所では通話中に雑音が入ることがあります。通話に支障をきたす場合には、販売店にご相談ください

別売品の停電用電源を接続している場合は、電源スイッチが「ON」のまま、電源プラグを抜いたり、配電盤などの電源を切らないでください
バッテリーが放電してしまい、停電時に動作しなくなります。また、バッテリーの寿命を縮める原因となります。

コードレス電話機を設置するときは、親機から約 3m 以上離してください
親機にあまり近い場合は、コードレス電話機が正常に動作しないことがあります。

デジタルコードレス電話機(DC)の側面に取り付けられたゴムキャップを取り外さないでください
ゴムキャップがないまま、ぬれた手で使用すると、故障や感電の原因となります。

コードレス電話機は、防水対応ではありません

寒い戸外から急に暖かい室内にコードレス電話機を持ち込むと、急激な温度変化により、コードレス電話機内部に水滴(結露)がつくことがあります。結露が生じたときは電源を切って、水滴が蒸発するまでしばらく放置しておいてください
結露したまま使用すると、故障の原因となります。

コードレス電話機の通話は盗聴されにくくなっていますが、電波を利用しているため、通常の手段を超えた方法で第三者が故意に通話の内容を傍受する場合があります。この点を十分に留意して使用してください

目次

安全にお使いいただくために	i
---------------	---

お使いになる前に	xiv
-----------------	------------

取扱説明書の見かた	xiv
略図の説明	xvi
本書の構成	xviii

第1章 ご利用の前に	1
-------------------	----------

1-1 ボイスメールシステムとは	1
1-2 ボイスメールシステムの利用方法について	3
電話機から利用する	3
パソコンから利用する	5
使用上の注意事項	6

第2章 基本的な使いかた	7
---------------------	----------

2-1 通話を録音する	7
自分のメールボックスに通話を録音する	7
他のメールボックスに通話を録音する	8
自動で通話が録音されるように設定 / 解除する(自動通話録音)	9
録音メッセージにタイトル / コメントを付ける	10
通話録音を再生する	10
2-2 メールボックスを利用する	11
メールセンターに接続する	12
●メールセンターへの接続から切断までの流れ	13
●メールセンターへ接続して自分のメールボックスにログオンする	14
メールボックスに暗証番号を設定する	16
●暗証番号を設定または変更する	16
●暗証番号の設定を解除(暗証番号を削除)する	16
自分あてに録音された通話やメッセージを再生する	17
●通話録音やメッセージを再生する	17
●メッセージ再生中にできる操作	18
●再生したメッセージに返信する	19
●すでに聞いた(既読)メッセージを削除する	19
相手のメールボックスにメッセージを録音する(伝言録音)	20
複数のメールボックスにメッセージを録音する(ボイスメール録音)	21
通話相手に伝言メッセージを残してもらうには(録音転送)	22
録音された通話やメッセージを転送する	23
2-3 留守番電話として利用する(不在代行)	24
留守番電話機能を設定する	24
●不在時の転送先としてボイスメールを選択する	24
●不在転送を有効にする(不在モード設定)	26
応答メッセージを録音 / 設定する	27
●応答メッセージを新しく録音する	27
●応答メッセージの種類を切り替える	29

3-1 ボイスメールから電話転送機能を利用する	30
ガイダンスが流れているときに電話をかける	30
録音メッセージを再生しているときに電話をかける	31
3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する	32
ボイスメール着信時の着信通知を設定 / 解除する	32
●着信通知を受けるとように設定する	32
●着信通知を解除する	33
ボイスメール着信通知先の電話番号を設定する	34
●通知先の電話番号を設定する	34
●ボイスメール着信通知を受け取ったときには	34
ボイスメール着信通知先の電子メールアドレスを設定する	34
3-3 外出先からメッセージを確認する	35
外出先からメールセンターに接続する	35
●メールセンター接続番号(外線用)に電話をかける	35
●留守番電話(代行)の応答メッセージを利用する	36
●通話相手をメールセンターに接続させる	37
外出先から呼出回数でメッセージ録音の有無を確認する(トルサーバ機能)	38
メッセージ聞き取り時の折返し自動発信を行う	39
3-4 メールボックス用電話帳を利用する	40
●通話録音の録音先をメールボックス用電話帳で指定する	40
●メールボックスへの録音先や転送先をメールボックス用電話帳から指定する	41

4-1 CTstage アシスタントの利用	42
CTstage アシスタントを起動する(ログオン)	43
●CTstage アシスタントのトップ画面	44
CTstage アシスタントを終了する(ログオフ)	45
メールボックスに暗証番号を設定する	46
4-2 録音されたメッセージを再生 / 検索 / 転送する	48
録音された通話録音や伝言メッセージを再生する	48
●録音メッセージをパソコンで再生する	48
●録音メッセージを電話機で再生する	49
録音されたメッセージにタイトル / コメントを付ける	51
録音されたメッセージを検索する	53
他のメールボックスにメッセージを転送する	56
録音メッセージを削除する	59
4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する	61
メールボックスの設定内容を確認する	62
●[設定一覧の確認]画面	63
ボイスメールの各種設定を変更する	65
●[ボイスメール]画面	67
留守番電話機能の応答メッセージを変更する	69
●[応答メッセージの設定]画面	70
着信通知先や再生先の電話番号を指定する	71
●[電話番号の設定]画面	72
トルサーバ着信や折返し自動発信を利用する	73
特定の電話番号から着信したときの動作を設定する	76
メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する	79

付録 A **81**

A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン 81

A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧 82

索引 **83**

お使いになる前に

取扱説明書の見かた

この取扱説明書は次のフォーマットをベースに記載してあります。

■ 第1章～第3章のページフォーマット

見出し

機能を示す見出し
タイトルです。

機能概要

機能の内容を簡
単に説明してい
ます。

操作手順説明

操作や表示内容を
簡単に説明してい
ます。

補足説明

操作手順の補足
的な内容を説明
しています。

注意

特に注意する点を
説明しています。

2-2 メールボックスを利用する

● 自分あてに録音された通話やメッセージを再生する

新着メッセージがあると、 (メールボックス) のランプが点滅し、着信ランプが点灯 (ロイヤルブルー (初期設定)) してお知らせします (この機能を使うには、管理者にご相談ください)。そのほかにも、電子メールや携帯電話へ通知することもできます。「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(▶ P.32)、および「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(▶ P.71) を参照してください。

MEMO
 (メールボックス) はオートダイヤルボタンです。あらかじめ登録しておく必要があります。登録方法については、「取扱説明書 (多機能電話機編)」の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶ P.B1) を参照してください。

通話録音やメッセージを再生する

- 1 メールボックスにログオンする(▶ P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。
- 2 **5** を押す (メッセージ再生)
* 「新着のボイスメールは XX 件、全部で XX 件・・・」という保存されている通話録音や録音メッセージの数を通知するアナウンスが流れます。そのあと、種別選択ガイダンスが流れます。
- 3 再生したいメッセージの種類により、**1** または **2** を押す
* まだ聞いていないメッセージのみ再生する場合は **1** を押します。また、すでに聞いたメッセージも含めて再生する場合は **2** を押します。
* メッセージが再生されます。
* 再生が終わると、操作ガイダンスが流れます。
- 4 操作ガイダンスに従って、行う操作の番号を押す
* 前のメッセージに戻る場合は、**1** を押します。
* 次のメッセージに移る場合は、**3** を押します。
* 再生終了は **5** を押します。再生終了を選ぶと、種別選択ガイダンスが流れます。
- 5 受話器を置く

MEMO
メッセージ再生中に、メッセージのボリュームを上げたり、次のメッセージを再生したり、再生中のメッセージを削除したり、早回しをしたりするなどの操作を行うことができます。詳しくは、「メッセージ再生中にできる操作」(▶ P.18) を参照してください。

工事設定
この機能を使用するには販売店にご相談ください。

第2章
基本的な使いかた

章タイトル

MEMO
関連項目や注意点を説明しています。

工事設定
工事者による設定が必要なため、販売店にご相談いただきたいことを説明しています。

■ 第 4 章のページフォーマット

見出し
機能を示す見出し
タイトルです。

機能概要
機能の内容を簡
単に説明してい
ます。

操作手順説明
操作や表示内容を
簡単に説明してい
ます。

補足説明
操作手順の補足
的な内容を説明
しています。

4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する

メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する

メールボックスに録音されたメッセージを音声ファイルとして電子メールに添付して転送することができます。また、メールボックスに到着したメッセージが着信したときに、電子メールに通知することができます。ここでは、CTstage アシスタントを利用して、録音メッセージの転送先および着信通知先の電子メールアドレスを設定(変更)する方法について説明します。

参照)「ボイスメールの各種設定を変更する」(▶ P.65)の「電子メールへの自動転送」
参照)「ボイスメールの各種設定を変更する」(▶ P.65)の「受信時の処理」-「電子メールに通知」
参照)「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(▶ P.32)


注意
この機能を利用するには、事前に管理者による登録が必要です。登録の有無については管理者にお問い合わせください。

MEMO
この機能は、CTstage オペレーションセンタ(OPC)で、「メールシステム」に「使用する」が選択されている場合に設定できます。OPCの設定については、管理者にお問い合わせください。

CTstage アシスタントで電子メールアドレスを設定する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照)「CTstage アシスタントを起動する(ログオン)」(▶ P.43)
- 2 左メニューから「電子メール」をクリックします。

MEMO
「電子メール」メニューは、あらかじめ管理者により電子メールが利用できるように登録されていない場合は、表示されません。



[電子メールの設定] 画面が表示されます。

注意
特に注意する点を
説明しています。

MEMO
関連項目や注意
点を説明しています。

章タイトル

参照
関連する情報が記載
されている参照先を
示しています。

第 4 章
パソコンからの利用

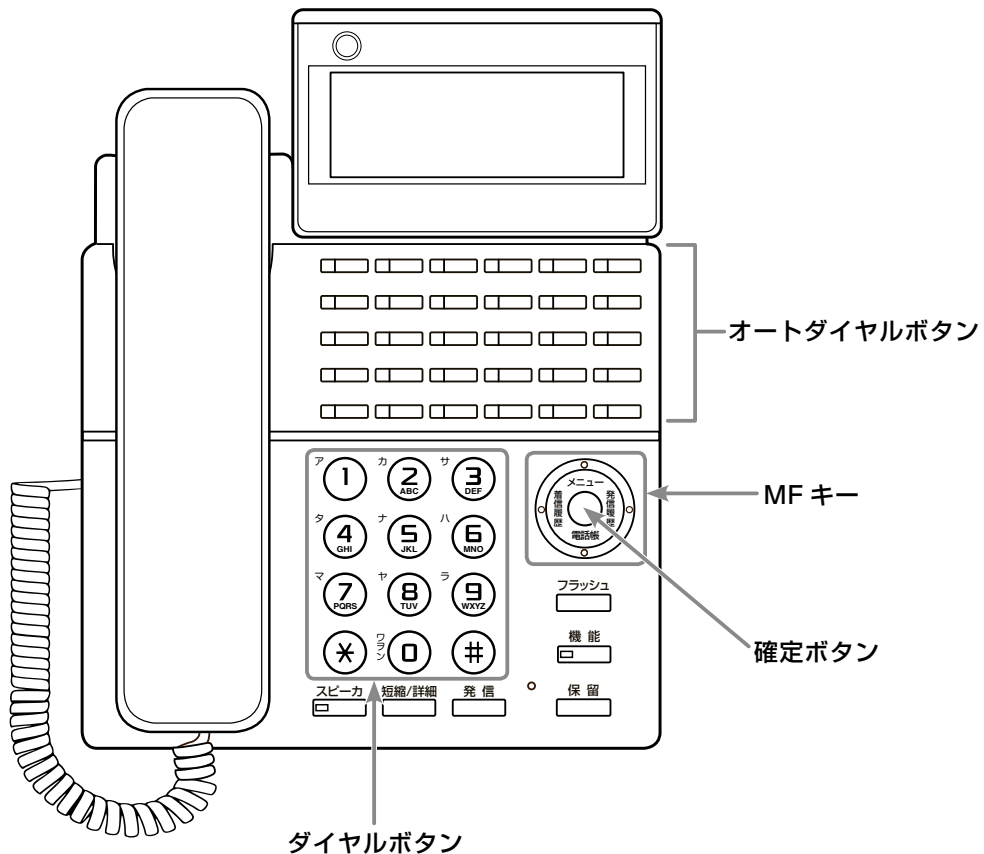
略図の説明

多機能電話機の操作説明での表記

受話器を置いている状態を基本とします。

略図	説明
	ダイヤルボタン
	各機能名称のボタン/ランプ
	機能を割り付けられた オートダイヤルボタン/ランプ (XXX は機能名)
	MF キーの確定ボタン

略図	説明
	MF キーの上下左右
	MF キーの左
	MF キーの右
	MF キーの上
	MF キーの下



- 各ボタンの操作の詳細やディスプレイの見かたについては、『取扱説明書（多機能電話機編）』の「第 1 章 電話機の取り扱い」を参照してください。

MEMO

本書では、MKT/ARC-30DKHF/P-W-02A の操作について説明しています。多機能電話機には、ボタンの形状が異なる機種もありますが、各機種の使いかたは同じです。

パソコン上の画面用語の表記

表記例	説明
[ファイル]メニューの[開く]	メニュー名やコマンド名は、角カッコ([])で囲んで表記しています。
[ファイルを開く]ダイアログボックス	ダイアログボックス名は、ダイアログボックスのタイトルバーに表示される文字列を、角カッコで囲んで表記しています。
[OK]、[キャンセル]	ダイアログボックスのボタン、ツールバーのボタン、ツールバー名、コントロール名、オプション名、および画面に表示される文字列などは、角カッコで囲んで表記しています。

本書の構成

安全にお使いいただくために

安全にお使いいただくための注意事項について、記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

お使いになる前に（本章）

本書の見かたと表記の説明について、まとめてあります。

第 1 章 ご利用の前に

CTstage Lite ボイスメールシステムは、通話録音や留守番電話の機能を充実させたシステムです。ここでは、CTstage Lite ボイスメールシステムの概要やしくみについて、図などを使用して簡単に説明します。

第 2 章 基本的な使いかた

通話録音や留守番電話としての使いかたや設定方法など、電話機からの利用するボイスメールの基本的な操作について説明します。また、録音されたメッセージを再生したり、転送する方法についても説明します。

第 3 章 便利な使いかた

ボイスメールが録音されたときに通知してもらえる機能や、外出先から利用する方法、メールボックス用電話帳の使いかたなど、ボイスメールを利用するのに便利な機能を説明しています。

第 4 章 パソコンからの利用 – CTstage アシスタント–

パソコンからボイスメールシステムを利用するときに使用する、Web ブラウザベースのツール「CTstage アシスタント」(ボイスメール管理ツール)について紹介し、操作方法と各画面について説明します。録音したメッセージの再生や転送、応答メッセージ(ガイダンス)の設定や通話録音の保存先などの各種設定を行うことができます。

付録 A

外部ボイスメール機能を扱うときに使用する、オートダイヤルや特番について、一覧表で示します。

第 1 章 ご利用の前に

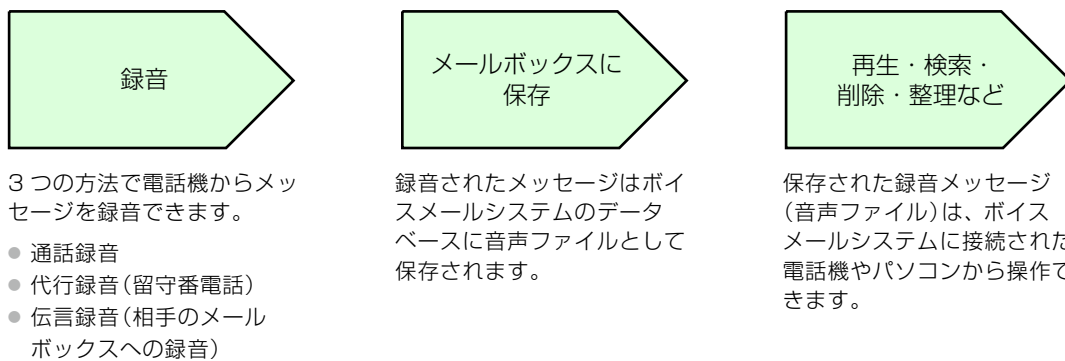
1-1 ボイスメールシステムとは

CTstage Lite (および CTstage 6Mi Lite) のボイスメールシステムは、通話録音や留守番電話の機能を充実させたシステムです。

ボイスメールシステムを利用すると、通話の内容や留守番電話のメッセージを録音して、個人あてのメールボックスに音声ファイルとして保存し、電話機やパソコン上の Web ブラウザから再生したり、検索・削除することができます。

これにより、電話の対応を簡単にしたり、容易に連絡がとれるようになります。

また、相手のメールボックスに声の伝言メッセージを直接送ったり、一度に複数の人にメッセージを送ることもできます。また、外出先からご自身のメールボックスを確認するなど便利な機能があります。



通話内容を録音 <通話録音>

外線から電話がかかってきたときやかけたときに、受話器を上げて通話を開始すると同時に通話内容の録音を開始することができます (自動録音)。

また、外線との通話中に、電話機の (通話録音) を押して、録音しておきたい部分だけを録音することもできます (手動録音)。

※録音時にあらかじめ指定しておいたコメントを付けることもできます。

留守番電話として利用 <留守番電話機能(代行録音)>

席を外したときや、夜間・休日など不在時にかかってきた電話を録音することができます。

不在時にかかってきた電話に対して音声ガイダンスを流して、相手にメッセージを録音してもらいます。

※応答メッセージを選択することもできます。

相手のメールボックスに録音 <伝言録音>

相手のメールボックスに直接伝言やメッセージを録音することができます。

※メールボックスを指定するだけで、録音が可能です。

録音されたメッセージの利用 -メールボックスを利用する-

(通話録音) で録音されたメッセージを再生するには、電話機 (携帯電話も含む) からメールセンターに電話します。メールセンターに電話をすると、音声で操作ガイダンスが流れます。再生したメッセージは削除することもできます。

また、パソコンや携帯電話から Web ブラウザベースのボイスメール管理ツール (CTstage アシスタント) を使って、保存された録音メッセージ (音声ファイル) を検索、再生、転送、削除することができます。CTstage アシスタントでは、録音メッセージをグループごとに一覧表示したり、コメントやタイトルを付けて検索・整理しやすくすることもできます。

また、録音メッセージを音声ファイルとして電子メールに添付して転送したり、メッセージが録音されたことを電話や電子メールで通知するように設定することもできます。

MEMO

こんなこともできます

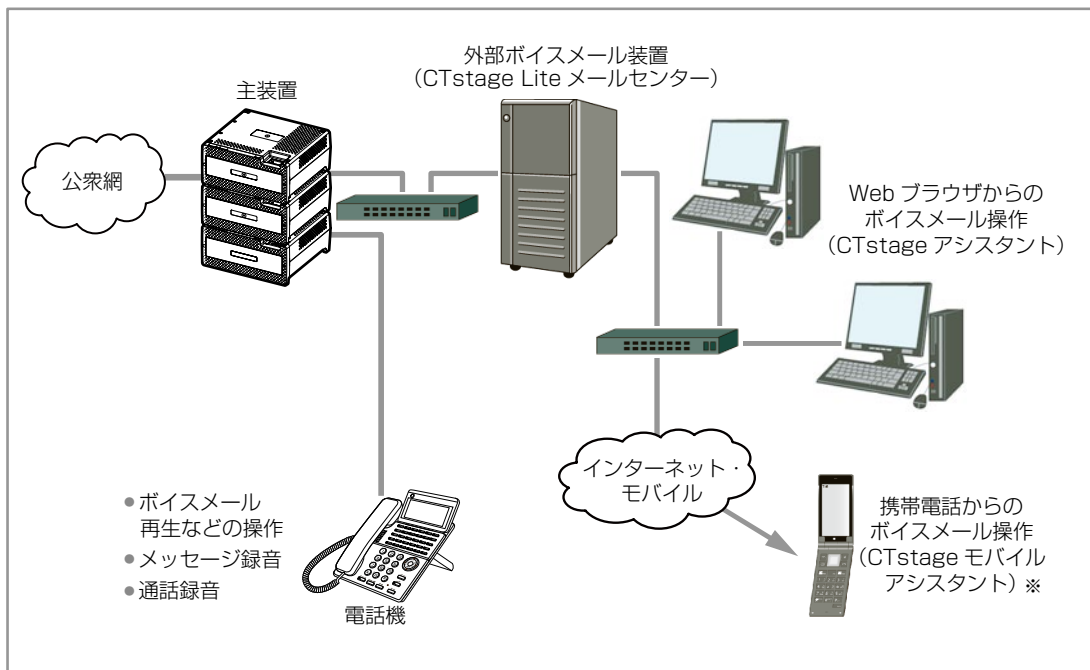
- 録音されたメッセージの倍速での再生
「2-2 メールボックスを利用する」の「メッセージ再生中にできる操作」(➡P.18)を参照してください。
- メールボックス用電話帳の利用
「3-4 メールボックス用電話帳を利用する」(➡P.40)を参照してください。
- 通話録音へのコメントやタイトルの追加
「2-1 通話を録音する」の「録音メッセージにタイトル/コメントを付ける」(➡P.10)を参照してください。
- トールサーバ機能と折返し自動発信
「3-3 外出先からメッセージを確認する」の「外出先から呼出回数でメッセージ録音の有無を確認する(トールサーバ機能)」(➡P.38)および「メッセージ聞き取り時の折返し自動発信を行う」(➡P.39)を参照してください。

以下の機能については、管理者にお問い合わせください。

- 通話録音時の発信者番号別メールボックスの利用
通話録音において、特定の顧客や担当者の外線番号を着信番号(発信者番号)として特定のメールボックスに最大20まで関連付けることができます。これにより、顧客や営業担当者の電話番号ごとに通話録音用のメールボックスを分けるといった運用ができます。
- 同報グループとユニファイドグループの作成

ボイスメールシステムの構成図

ボイスメールシステムは、主装置と外部ボイスメール装置(CTstage Lite メールセンター)と連動させることで実現しています。以下の図は、システムの接続例を示しています。



※ CTstage モバイルアシスタントは、CTstage 6Mi Lite ではサポートされていません。

1-2 ボイスメールシステムの利用方法について

ここでは、ボイスメールシステムを利用する方法や事前に必要な情報についてまとめています。

電話機から利用する

ボイスメールシステムで主に使用する電話機は、社内で使用している内線電話機(多機能電話機等)です。社外から利用する場合は、携帯電話(PHS やプッシュホン機能の付いた機種)などを使用することもできます。

MEMO

通話録音、代行録音(留守番メッセージ)の場合は、録音したファイルを保存する専用のメールボックスをあらかじめ指定しておきます。通話録音では、保存先のメールボックスを手動で指定しなおすこともできます。

伝言録音では、保存先のメールボックスを手動で指定します。

メールボックスとは、録音されたメッセージを音声ファイルとして保存する場所のことです。通常は、内線電話の内線番号がその利用者のメールボックス番号となります。

通話録音や伝言録音、代行録音など録音を行うときは、事前に以下の情報が必要です。お手元にご用意ください。

必要な情報	説明	メモ欄
相手のメールボックス番号	通話録音を転送するときや伝言録音する際に使用します。	

また、通話録音や伝言録音、代行録音などの録音を行うときは、事前に以下のオートダイヤルボタンの設定が必要です。ご自身で割り当てられないボタンについては、販売店にお問い合わせください。

必要なオートダイヤルボタン	説明	メモ欄
<input type="checkbox"/> (通話録音)	通話録音の開始などに使用します。 通話録音中はランプが点灯(緑)します。 ※外部ボイスメールの設定によって、通話録音ランプが赤になることがあります。詳細は管理者にお問い合わせください。	
<input type="checkbox"/> (コメント)	録音メッセージにタイトルやコメントを付与するときに使用します。	
<input type="checkbox"/> (メールボックス)	メールセンターに接続してメールボックスにログオンするときに使用します。	
<input type="checkbox"/> (一時停止)	通話録音中に録音を一時的に停止させるときに使用します。	
<input type="checkbox"/> (録音終了)	通話録音を終了して、音声ファイルを保存するときに使用します。	
<input type="checkbox"/> (PB 信号)	メールボックス番号を入力するときに使用します。 メールボックス番号を押す前に <input type="checkbox"/> (PB 信号) を押して、PB 送信モードを OFF にします。	

MEMO

各オートダイヤルボタンの割り当て方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」を参照してください。また、ボイスメールシステムで使用するオートダイヤルボタンの一覧については、本書の「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶ P.81)を参照してください。

(コメント)にはそれぞれ、タイトルまたはコメント(定型文)を「コメント番号」として登録しておきます。タイトルやコメントの内容とコメント番号との対応付けについては、管理者にお問い合わせください。

録音されたメッセージの再生など、社内の電話機からメールボックスを利用するときは、事前に以下の情報が必要です。

必要な情報	説明	メモ欄
メールアクセス特番	社内からメールセンターへ接続するための番号です。 特番の初期設定については、「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(→P.82)を参照してください。	
ご自身のメールボックス番号	通常は内線番号です。	
ご自身のメールボックスの暗証番号	ご自身あてのメールを他の人が勝手に取り出したりできないようにするため、暗証番号を設定することができます。	

注意

メールボックスの暗証番号は、初期設定では設定されていません。ボイスメールシステムを使用し始める前に、必ずご自身で設定してください。現在使用している暗証番号を忘れたときは、管理者にお問い合わせください。また、設定した暗証番号は他人に知られないように注意してください。

社外の電話機からボイスメールシステムを利用するときは、さらに、以下の情報が必要です。

必要な情報	説明	メモ欄
メールセンター接続番号(外線用)	社外からメールセンターへ接続するための電話番号です。 この番号は、販売店によって設定されています。販売店にお問い合わせください。	
外線暗証番号	外線からメールセンターへ接続する際の認証手段として設定されている暗証番号です。 この暗証番号は、管理者によって設定されています。音声ガイダンスでは「メールセンターアクセス用暗証番号」と呼ばれています。	
メール暗証番号	外出先から会社に電話をかけたとき、担当者が不在などの理由で不在応答メッセージが流れている間に、「 ■ 」、そのあと「暗証番号+ ■ 」を押すことで、メールセンターに接続することができます。 この暗証番号は、管理者によって設定されています。音声ガイダンスでは「メールセンターアクセス用暗証番号」と呼ばれています。	

パソコンから利用する

ボイスメールシステムに接続されているパソコンから、Web ブラウザベースのボイスメール管理ツール (CTstage アシスタント) を使ってメールボックスにログオンして、録音メッセージの再生や検索、メッセージの着信通知の設定、メールボックスの整理や設定を行うことができます。

MEMO

CTstage アシスタントは、Microsoft Internet Explorer に対応しています。

CTstage アシスタントは、Internet Explorer に CTstage アシスタントの URL を指定することで起動します。



※上図は CTstage Lite の画面です。画面のロゴは CTstage 5i のロゴです。

CTstage アシスタントを利用する前に、次のような情報が必要です。事前にお手元にご用意ください。

必要な情報	説明	メモ欄
CTstage アシスタントへ接続するための URL アドレス	パソコンの Web ブラウザを使って社内からメールセンターへ接続するための URL アドレスです。 管理者にご確認ください。	
ご自身のユーザ番号 (メールボックス番号)	メールボックス番号 (内線番号) と同じ番号です。 メールボックスの操作画面にログオンするためのユーザ番号として入力します。	
ご自身の暗証番号 (メールボックスの暗証番号)	ご自身あてのメールを他の人が勝手に取り出したりできないようにするためにメールボックスに設定されている暗証番号と同じものを入力します。	

MEMO

暗証番号は、メールボックスの暗証番号と同じです。電話機からすでに設定している場合は、同じ暗証番号を入力する必要があります。電話機から設定していない場合は、CTstage アシスタントで指定します。

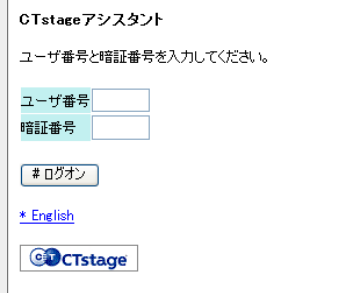
MEMO

CTstage モバイルアシスタント

携帯電話から利用できる Web ブラウザベースのボイスメール管理ツールです。

起動と操作の方法などの詳細は、管理者にお問い合わせください。

※ CTstage モバイルアシスタントは、CTstage 6Mi Lite ではサポートされていません。



● 使用上の注意事項

- ボイスメールシステムでは、オートダイヤルボタンのない内線電話機から利用できない機能があります。
- 外線からご利用になる場合は、携帯電話等、プッシュホン機能のある電話機をご利用ください。
- 通話録音をご利用の場合、相手に無断で通話録音すると、個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の方にお断りの上、通話録音するようにお願いします。
- このシステムでメールボックスに録音できるメッセージの件数や録音時間には制限があります。新しいメッセージがいつでも録音できるように、「聞き終わって不要になったメッセージは、すぐ削除する」などのルールを決めて運用することをお勧めします。

MEMO

不要なメッセージを削除する方法

- メッセージは、再生したあとに、ダイヤル操作によって保存または削除することができます。保存不要と判断したものは、その場で削除しておくことで、メールボックスに不要なメッセージが残りません。メッセージをその場で削除する方法については、「2-2 メールボックスを利用する」の「メッセージ再生中にできる操作」(▶ P.18)を参照してください。再生後のメッセージをまとめて削除する方法については、「すでに聞いた(既読)メッセージを削除する」(▶ P.19)を参照してください。
- CTstage アシスタントから、メールボックス内のメッセージを削除することができます。メッセージの一覧を画面に表示して、一度に複数のメッセージを削除することができます。詳しくは、「4-2 録音されたメッセージを再生 / 検索 / 転送する」の「録音メッセージを削除する」(▶ P.59)を参照してください。
- メッセージの保存期間を設定すると、その期間を過ぎたメッセージを自動的に削除することができます。削除されるのは、聞き終わったメッセージのみです。この設定を行う場合は、管理者にご相談ください。

第2章 基本的な使いかた

2-1 通話を録音する

お客様の声をそのまま録音してメールボックスに保存することで、通話内容を正確に伝えることができます。

注意

相手に無断で通話録音すると、個人のプライバシーの侵害にあたる場合があります。相手の方にお断りの上、通話録音するようにお願いします。

ここでは以下のような操作について説明します。

- 「自分のメールボックスに通話を録音する」(➡ P.7)
- 「自動で通話が録音されるように設定 / 解除する (自動通話録音)」(➡ P.9)
- 「他のメールボックスに通話を録音する」(➡ P.8)
- 「録音メッセージにタイトル / コメントを付ける」(➡ P.10)
- 「通話録音を再生する」(➡ P.10)

● 自分のメールボックスに通話を録音する

MEMO

この機能を使う前に、 (通話録音)、 (一時停止)、 (録音終了)、 (PB 信号)をあらかじめ登録しておく必要があります。登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(➡ P.81)を参照してください。

通話を自分のメールボックスに録音する

1 外線との通話中に (通話録音)を押す

- (通話録音)ランプが点灯(緑)し、録音が始まります。通話録音先として設定されているメールボックス番号(初期設定では自分のメールボックス)が電話機のディスプレイの4行目に表示されます。

通話録音	2:53
PB	1234567890
本社	
MBX: 12345678	A

- 通話録音中に (一時停止)を押すと、録音を一時停止します。再度 (一時停止)を押すと録音を再開します。
- 通話の途中で録音を中止したいときは、録音したい部分の通話が終わったところで (録音終了)を押します。

2 録音したい通話が終わったら、受話器を置く

- 録音が終了し、自分のメールボックスへ保存されます。
- (通話録音)のランプは消灯します。

MEMO

- 通話録音中に録音をキャンセルする場合は、 (通話録音)を押します(設定によりキャンセルできない場合もあります)。
- 録音されたメッセージは、パソコン上のメールボックスにデータとして保存され、パソコンからボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)を使って整理や検索ができます。「CTstage アシスタント」の利用については「第4章 パソコンからの利用 - CTstage アシスタント」(➡ P.42)を参照してください。
- 通話録音中に保留や転送を行った場合でも通話録音は継続しますが、保留時間があらかじめ指定した時間(10分)を経過した場合には、通話録音は自動終了します。
- 「自動通話録音」機能が設定されていると、通話開始と同時に自動的に通話録音が始まり、通話録音先として設定されているメールボックスに保存されます(この場合でも (通話録音)ランプは点灯します)。自動通話録音設定の操作手順については、「自動で通話が録音されるように設定 / 解除する (自動通話録音)」(➡ P.9)を参照してください。

● 他のメールボックスに通話を録音する

外線との通話内容を自分以外のメールボックスに録音(保存)することができます。

MEMO

この機能を使う前に、 (通話録音)、 (一時停止)、 (録音終了)、 (メールボックス)、 (PB 信号)をあらかじめ登録しておく必要があります。登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(→ P.81)を参照してください。

通話を他のメールボックスに録音する

1 外線との通話中に (通話録音)を押す

- (通話録音)ランプが点灯(緑)し、録音が始まります。通話録音先として登録されているメールボックス番号(初期設定では自分のメールボックス)が電話機のディスプレイの4行目に表示されます。

通話録音	2:53
PB	1234567890
本社	
MBX:12345678	A

2 (PB 信号)を押す

PB 信号を OFF にします。

MEMO

初期設定では、PB 送信モードが ON になっているので、メールボックス番号を押す前に (PB 信号)を押して、PB 送信モードを OFF にしてください。PB 送信モードについての詳細は『取扱説明書(多機能電話機編)』の「3-4 通話中の便利な使いかた」の「プッシュホン信号を送る(PB エンド・ツー・エンド通信)」を参照してください。

3 録音先(保存先)のメールボックス番号を押す(自分以外のメールボックス)

- メールボックス番号を押す代わりに、 を押してメールボックス用電話帳(→ P.40)を使用したり、録音先のメールボックス番号が登録されている (メールボックス)を押して選択することもできます。
- 指定した番号のメールボックスが、録音先(保存先)として指定されます。

通話録音	2:53
	1234567890
本社	
MBX:23456789	A

4 通話が終わったら、受話器を置く

- 録音が終了し、指定したメールボックスへ保存されます。
- (通話録音)のランプは消灯します。

MEMO

- 通話録音中に録音をキャンセルする場合は、 (通話録音)を押します(設定によりキャンセルできない場合もあります)。
- 録音されたメッセージは、パソコン上のメールボックスにデータとして保存され、パソコンからボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)を使って整理や検索ができます。「CTstage アシスタント」の利用については「第4章 パソコンからの利用 - CTstage アシスタント」(→ P.42)を参照してください。
- 通話録音中に保留や転送を行った場合でも通話録音は継続しますが、保留時間や転送時間があらかじめ指定した時間(10分)を経過した場合には、通話録音は自動終了します。
- 「自動通話録音」機能が設定されていると、通話開始と同時に自動的に通話録音が始まり、通話録音先として設定されているメールボックスに保存されます(この場合でも (通話録音)ランプは点灯します)。自動通話録音設定の操作手順については、「自動で通話が録音されるように設定/解除する(自動通話録音)」(→ P.9)を参照してください。

● 自動で通話が録音されるように設定 / 解除する(自動通話録音)

「自動通話録音」を設定しておく、外線からの電話に応答したとき、自動的に通話録音が始まります。通話は、通話録音先として指定されているメールボックスに保存されます。

オートダイヤルボタンで設定する

- 1 待受画面で **保留** を押す
ランプが点灯(赤)します。
- 2 消灯している (通話録音) を押す
 - 登録完了音が鳴り、自動通話録音を設定され、
 (通話録音) ランプが点灯(赤)します。
 - ランプが消灯します。

特番で設定する

- 1 受話器を上げ、自動録音特番を押す
 特番の初期値については「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(▶P.82)を参照してください。
- 2 ① (設定) を押す
 登録完了音が鳴り、自動通話録音を設定されます。
- 3 受話器を置く

MEMO

通話中に手で通話録音を開始する操作については、「自分のメールボックスに通話を録音する」(▶P.7)または「他のメールボックスに通話を録音する」(▶P.8)を参照してください。

オートダイヤルボタンで解除する

- 1 待受画面で **保留** を押す
ランプが点灯(赤)します。
- 2 点灯(赤)している (通話録音) を押す
 - 登録完了音が鳴り、自動通話録音が解除され、
 (通話録音) ランプが消灯します。
 - ランプが消灯します。

特番で解除する

- 1 受話器を上げ、自動録音特番を押す
 特番の初期値については「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(▶P.82)を参照してください。
- 2 ② (解除) を押す
 登録完了音が鳴り、自動通話録音が解除されます。
- 3 受話器を置く

録音メッセージにタイトル / コメントを付ける

録音中のメッセージに、あらかじめ決めておいたタイトルやコメントを付けることができます。例えば、お客様から問い合わせがあったときなどに、「問い合わせ」というタイトルをその場で付けておくと、あとでパソコン上のボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)を使ってメッセージを検索するときに便利です。

MEMO

ここで付けたタイトルは、パソコン上のメールボックスにデータとして保存されたメッセージをパソコン上のボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)を使って表示したとき、メッセージ一覧の画面に、録音メッセージデータ(ファイル)のタイトル(定型文)として表示されます。また、コメントは付加情報の一部として記録されます。CTstage アシスタントのメッセージ一覧画面については、「4-2 録音されたメッセージを再生 / 検索 / 転送する」(▶ P.48)を参照してください。

MEMO

この機能を使う前に、 (コメント)をあらかじめ登録しておく必要があります。登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶ P.81)を参照してください。

(コメント)にはそれぞれ、タイトルまたはコメント(定型文)を「コメント番号」として登録しておきます。タイトルやコメントの内容とコメント番号との対応付けについては、管理者にお問い合わせください。

録音メッセージにタイトル / コメントを付ける

1 通話や伝言メッセージの録音中に、付与したいタイトルが登録されている (コメント)を押す

録音メッセージにコメントも追加したい場合は、追加したいコメントが登録されている (コメント)をさらに押してください。1つの録音メッセージには、タイトルとコメントを1組、付与することができます。

2 通話や伝言メッセージの録音操作に戻る

MEMO

- 別のコメントやタイトルを付与する場合は、それぞれ別の (コメント)を押してください。最後に押したボタンに登録されているコメント / タイトルが、録音メッセージに付与されます。
- 付与した (コメント)を削除するには、何もコメントの入力されていない (コメント)を押してください。

通話録音を再生する

通話録音の再生は、録音されたメッセージの再生と同じ操作で行うことができます。「自分あてに録音された通話やメッセージを再生する」(▶ P.17)を参照してください。

新着メッセージがあると、 (メールボックス)ランプが点滅し、着信ランプが点灯(ロイヤルブルー(初期設定))してお知らせします(この機能を使うには、管理者にご相談ください)。そのほかにも、電子メールや携帯電話へ通知することもできます。「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(▶ P.32)および「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(▶ P.71)を参照してください。

2-2 メールボックスを利用する

電話機から操作ガイダンスに従って、メールボックスを利用することができます。ここでは、社内からの内線電話機の操作について説明します。以下のような操作について説明します。外出先の電話機（携帯電話など）からの操作については、「3-3 外出先からメッセージを確認する」(➡ P.35)を参照してください。

- 「メールセンターに接続する」(➡ P.12)
- 「メールボックスに暗証番号を設定する」(➡ P.16)
- 「自分あてに録音された通話やメッセージを再生する」(➡ P.17)
- 「相手のメールボックスにメッセージを録音する（伝言録音）」(➡ P.20)
- 「複数のメールボックスにメッセージを録音する（ボイスメール録音）」(➡ P.21)
- 「通話相手に伝言メッセージを残してもらうには（録音転送）」(➡ P.22)
- 「録音された通話やメッセージを転送する」(➡ P.23)

MEMO

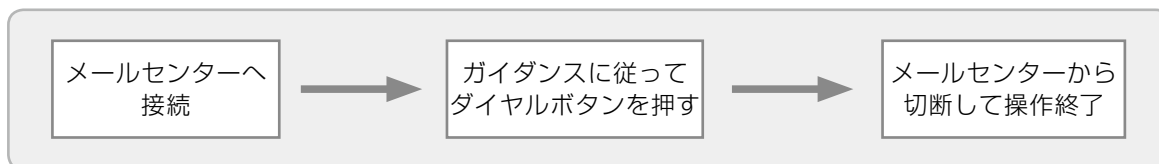
- 通常は、主装置の内線番号がメールボックス番号（ユーザ番号）として指定されます（指定範囲は 00000000 ～ 99999999）。また、メールボックスは内線の数より多く設定することもできます。メールボックス番号の設定については、販売店にご相談ください。
- パソコンからメールボックスを利用する方法については「第4章 パソコンからの利用－CTstageアシスタント」(➡ P.42)を参照してください。

以下の機能については、管理者にお問い合わせください。

- 発信者番号ごとにメールボックスを指定することにより、顧客ごとに通話録音を管理することができます。発信者番号ごとのメールボックスの指定については、販売店にお問い合わせください。
- メールボックス番号には、同報グループ番号という、グループのメンバーに一括でメッセージを送るための番号を用意することもできます。この番号あてにメッセージを送ると、同報グループとして登録されているすべてのメールボックスに同じメッセージが送られます。同報グループ番号の設定については、管理者にお問い合わせください。

● メールセンターに接続する

メールボックスを利用するときは、最初に、メールセンターに接続する操作が必要です。メールセンターの音声ガイダンスに従ってダイヤルボタンを押すだけで、メッセージの録音や再生などの操作を行うことができます。



内線電話機からメールセンターへ接続するには、以下の3つの方法があります。

メールセンターへの接続操作	こんなときに使う
<input type="checkbox"/> (メールボックス) を押す	<p>オートダイヤルボタンに <input type="checkbox"/> (メールボックス) が設定されている場合に使用できる方法です。</p> <p><input type="checkbox"/> (メールボックス) を使用すると、このボタンに登録されているメールボックスに直接アクセスできます(ワンタッチログオン)。メッセージの再生を行うときは、この方法が便利です。</p>
<input type="checkbox"/> (通話録音) を押す	<p>オートダイヤルボタンに <input type="checkbox"/> (通話録音) が設定されている場合に使用できる方法です。</p> <p>この方法でメールセンターに接続したときは、最初のガイダンスで、録音先のメールボックス番号を押します。特定の相手に伝言を送りたい場合は、この方法が一番早く操作できます。</p>
メールアクセス特番を押す または <input type="checkbox"/> (メールアクセス) を押す	<p>オートダイヤルボタンに <input type="checkbox"/> (メールボックス) や <input type="checkbox"/> (通話録音) を設定していない電話機から、メールセンターに接続する場合にこの方法を使います。</p> <p>この方法で接続すると、最初のガイダンスで、メールボックスアクセスか伝言録音かを選択できます。メールボックスアクセスを選んだ場合は、<input type="checkbox"/> (メールボックス) を押したときと同じ操作ができ、伝言録音を選んだ場合は、<input type="checkbox"/> (通話録音) を押したときと同じ操作ができます。</p> <p>オートダイヤルボタンに <input type="checkbox"/> (メールアクセス) を登録すると、メールアクセス特番を押すのと同じ操作ができます。</p>

MEMO

- ボイスメールシステムで使用するオートダイヤルボタンの一覧については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶ P.81)を参照してください。また、オートダイヤルボタンの登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」を参照してください。
- メールアクセス特番の初期設定値については、「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(▶ P.82)を参照してください。
- 携帯電話などで、外出先からメールセンターに接続する方法については、「3-3 外出先からメッセージを確認する」の「外出先からメールセンターに接続する」(▶ P.35)を参照してください。

メールセンターへの接続から切断までの流れ

メールセンターに接続し、メールセンターから切断するまでの流れは、下の図のようになります。

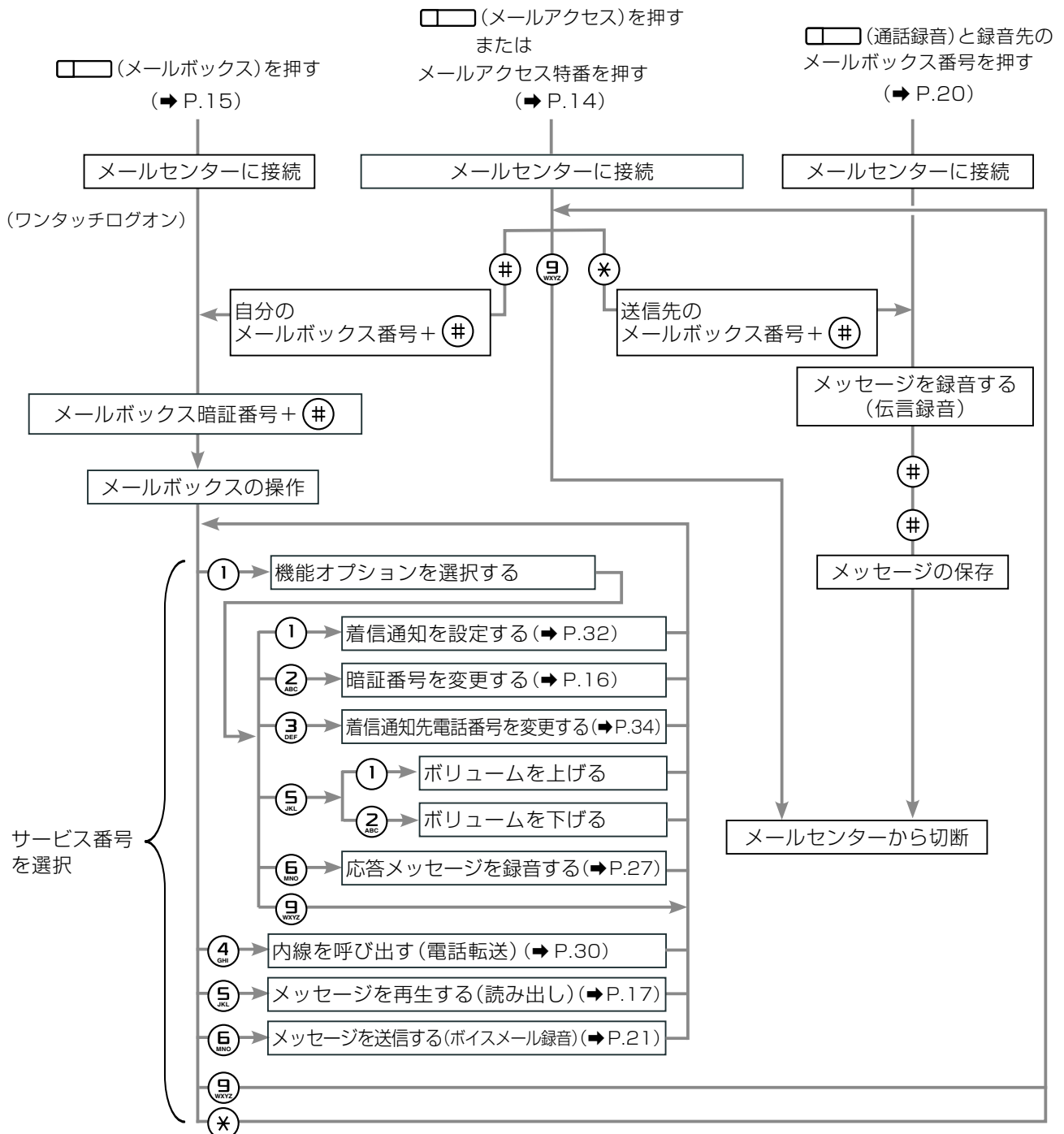
※下の図に記載されていないサービス番号については、管理者にご相談ください。

□□□ (メールボックス) や □□□□ (メールアクセス)、または「メールアクセス特番」を押した場合は、メールボックスの操作をサービス番号で選択します。下の図では選択できるサービス番号も示しています。

共通の操作は以下のとおりです。

ボタン	処理
⑨ WXYZ または * (※)	<ul style="list-style-type: none"> 音声ガイダンスが流れているときに押すと、実行している処理を終了します。 メールセンターから切断するときは、⑨ WXYZ を押します。また、受話器を置くことでもメールセンターから切断できます。
#	音声ガイダンスを再度聞く場合に押します。

※ 操作している内容によっては、使用できないこともあります。



メールセンターへ接続して自分のメールボックスにログオンする

内線電話機からメールセンターへ接続して、自分のメールボックスへログオンするには、以下のいずれかの方法で行います。

- (メールアクセス) またはメールアクセス特番を押す
- (メールボックス) を押す (ワンタッチログオン)

この操作には以下の情報が必要です。あらかじめお手元にご用意ください。

- メールアクセス特番またはメールアクセス機能が登録された (メールアクセス)
- 自分のメールボックス番号が登録された (メールボックス)
- 自分のメールボックス番号とメールボックス暗証番号

(メールアクセス) またはメールアクセス特番でログオンする

1 受話器を上げる

2 (メールアクセス) または、メールアクセス特番を押す

- 特番の初期設定については「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(▶P.82)を参照してください。
- 音声ガイダンス(操作案内ガイダンス)が聞こえてきます。

3 (自分のメールボックスを利用する場合) (＃) を押す

4 メールボックス番号を押して、 (＃) を押す

メールボックス番号を押す代わりに、 (確定) を押してメールボックス用電話帳(▶P.41)を使用したり、自分のメールボックス番号が登録されている (メールボックス) を押して選択することもできます。

5 暗証番号(パスワード)を設定している場合は、暗証番号を押して、 (＃) を押す

- メールボックスの暗証番号は、0～9までの数字で、4～8桁以内で指定します。「メールボックスに暗証番号を設定する」(▶P.16)を参照してください。
- メールボックスにログオンします。
- メールボックスに新しいメッセージが届いている場合は、その旨のガイダンスが最初に流れます。そのあと、「オプション選択は・・・」というアナウンスが流れます。

MEMO

- (メールアクセス) および (メールボックス) はオートダイヤルボタンです。あらかじめ割り当てておく必要があります。オートダイヤルボタンの一覧については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶P.81)を参照してください。また、オートダイヤルボタンの登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」を参照してください。
- 手順3で (＊) を押すと、指定したメールボックスに直接メッセージを録音(送信)することができます(伝言録音)。「相手のメールボックスにメッセージを録音する(伝言録音)」(▶P.20)を参照してください。

メールボックスボタンでログオンする(ワンタッチログオン)

- 1 受話器を上げる
- 2 自分のメールボックスが登録されている□□(メールボックス)を押す
音声ガイダンスが聞こえてきます。
- 3 暗証番号(パスワード)を設定している場合は、暗証番号を押して、**(#)**を押す
 - メールボックスの暗証番号は、0～9までの数字で、4～8桁以内で指定します。「メールボックスに暗証番号を設定する」(▶P.16)を参照してください。
 - メールボックスにログオンします。
 - メールボックスに新しいメッセージが届いている場合は、その旨のガイダンスが最初に流れます。そのあと、「オプション選択は・・・」というアナウンスが流れます。

MEMO

□□(メールボックス)はオートダイヤルボタンです。あらかじめ割り当てておく必要があります。□□(メールボックス)にはメールボックス番号も合わせて割り当てます。オートダイヤルボタンの一覧については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶P.81)を参照してください。また、オートダイヤルボタンの登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する」を参照してください。

● メールボックスに暗証番号を設定する

メールボックスを使い始める前に、メールボックスには必ず暗証番号(パスワード)を設定してください。暗証番号は、自分のメールボックスに他人がアクセスできないようにするためのものです。設定した暗証番号は他人に知られないように注意してください。

注意

暗証番号は、0～9までの数字で、4～8桁以内で指定してください。

暗証番号を設定または変更する

1 メールボックスにログオンする(⇒P.14)

サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 ①を押す(機能オプション選択)

機能ガイダンスが流れます。

3 ②を押す(暗証番号の変更)

暗証番号変更ガイダンスが流れます。

4 新しい暗証番号を押して、③を押す

- 暗証番号の再入力を求めるガイダンスが流れます。
- 暗証番号は、0～9までの数字で、4～8桁以内で指定してください。

5 もう一度暗証番号を押し、④を押す

暗証番号変更完了ガイダンスが流れたあと、サービス機能入力ガイダンスに戻ります。

6 操作を終了するときは、⑤を押す

- 操作案内ガイダンスが流れます。
- ここで受話器を置いて、メールセンターから切断できます。

7 メールセンターから切断する場合は、⑥を押す

サービス終了ガイダンスが流れます。

8 受話器を置く

暗証番号の設定を解除(暗証番号を削除)する

1 メールボックスにログオンする(⇒P.14)

サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 ①を押す(機能オプション選択)

機能ガイダンスが流れます。

3 ②を押す(暗証番号の変更)

暗証番号変更ガイダンスが流れます。

4 ⑦+⑧を押す(暗証番号削除)

暗証番号削除確認ガイダンスが流れます。

5 ⑦+⑧、⑨、または⑩を押す

- ⑦+⑧: 暗証番号の設定が解除(暗証番号が削除)され、機能ガイダンスが流れます。
- ⑨: 暗証番号の変更が中止され、暗証番号未変更ガイダンスが流れます。
- ⑩: 暗証番号削除確認ガイダンスが再度流れます。

6 操作を終了するときは、⑪を押す


操作案内ガイダンスが流れます。
ここで受話器を置いて、メールセンターから切断できます。

7 メールセンターから切断する場合は、⑫を押す


サービス終了ガイダンスが流れます。

8 受話器を置く

自分あてに録音された通話やメッセージを再生する


新着メッセージがあると、 (メールボックス)のランプが点滅し、着信ランプが点灯(ロイヤルブルー(初期設定))してお知らせします(この機能を使うには、管理者にご相談ください)。そのほかにも、電子メールや携帯電話へ通知することもできます。「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(→P.32)、および「4-3 メールボックスの各種設定を確認/設定する」の「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(→P.71)を参照してください。

MEMO

 (メールボックス)はオートダイヤルボタンです。あらかじめ登録しておく必要があります。登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(→P.81)を参照してください。

通話録音やメッセージを再生する

1 メールボックスにログオンする(→P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2  を押す(メッセージ再生)

- 「新着のボイスメールはXX件、全部でXX件・・・」という保存されている通話録音や録音メッセージの数を通知するアナウンスが流れます。そのあと、種別選択ガイダンスが流れます。

3 再生したいメッセージの種類により、**①** または **②** を押す

- まだ聞いていないメッセージのみ再生する場合は**①**を押します。また、すでに聞いたメッセージも含めて再生する場合は**②**を押します。
- メッセージが再生されます。
- 再生が終わると、操作ガイダンスが流れます。

4 操作ガイダンスに従って、行う操作の番号を押す

- 前のメッセージに戻る場合は、**①**を押します。
- 次のメッセージに移る場合は、**③**を押します。
- 再生終了は**⑨**を押します。再生終了を選ぶと、種別選択ガイダンスが流れます。

5 受話器を置く

MEMO

メッセージ再生中に、メッセージのボリュームを上げたり、次のメッセージを再生したり、再生中のメッセージを削除したり、早回しをしたりするなどの操作を行うことができます。詳しくは、「メッセージ再生中にできる操作」(→P.18)を参照してください。

メッセージ再生中にできる操作

押すボタン	できる操作
①	前のメッセージを再生する
②	今のメッセージを再度、再生する
③	次のメッセージを再生する
④	再生中のメッセージを巻き戻す(時間飛ばし)
⑤	再生中のメッセージを一時停止 / 一時停止解除する
⑥	再生中のメッセージを早送りする(時間飛ばし)
⑦ + ①	<p>設定により、動作が異なります。初期設定では「自動削除しない」が設定されているので、この操作で削除しない場合は、再生後のメッセージは保存されます(再生後に他の操作で削除することもできます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自動削除しない」(初期設定)が設定されている場合、再生中のメッセージを消去する 「自動削除する」が設定されている場合、メッセージを保存する <p>「自動削除する」が設定されている場合は、一度聞き終わったメッセージが自動的に削除されるので、保存したい場合にこのボタンを押します。「自動設定する / 自動削除しない」の設定については、管理者にお問い合わせください。</p> <p>※既読メッセージをまとめて削除する場合は、「すでに聞いた(既読)メッセージを削除する」(➡P.19)を参照してください。</p>
⑦ + ②	<p>再生中のメッセージを他のメールボックスに転送する</p> <p>※操作の詳細については、「録音された通話やメッセージを転送する」(➡P.23)を参照してください。</p>
⑦ + ③	<p>再生中のメッセージに返信する</p> <p>※操作の詳細については「再生したメッセージに返信する」(➡P.19)を参照してください。</p>
⑦ + ④	<p>メールセンターの接続を終了して、内線電話をかける(内線呼出)</p> <p>※操作の詳細については「録音メッセージを再生しているときに電話をかける」(➡P.31)を参照してください。</p>
⑦ + ⑦	ボリュームを上げる
⑦ + ⑧	ボリュームを下げる
⑧	再生速度を速くする
⑨	再生速度を元に戻す
⑨	再生を終了する

再生したメッセージに返信する

受け取ったメッセージに、返信することができます。

MEMO

再生したメッセージに返信できるのは、メールボックスにログオンしたあとに **⑥** を押して送信されたメッセージのみです。「複数のメールボックスにメッセージを録音する(ボイスメール録音)」(▶P.21)を参照してください。

1 メッセージの再生中または再生後に、**⑦** + **③** を押す

- 返信確認ガイダンスが流れます。
- メッセージ再生中の操作については、「メッセージ再生中にできる操作」(▶P.18)を参照してください。

2 **①** を押す(返信録音開始)

返信を中止する場合は、**②** を押します。

3 返信メッセージを録音したあと、**⑧** を押す

- 受話器に向かって話します。
- **⑧** を押すと、録音確認ガイダンスが流れて、録音した返信メッセージが再生されます。
- 返信メッセージ確認ガイダンスが流れます。

4 **①** を押す(メッセージ返信)

- 返信完了ガイダンスが流れます。
- 次のメッセージが再生されます。
- 再生するメッセージがない場合は種別選択ガイダンスに戻ります。
- 返信の送付を中止する場合は、**②** を押します。

5 受話器を置く

すでに聞いた(既読)メッセージを削除する

1 メールボックスにログオンする(▶P.14)

サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 **⑤** を押す(メッセージ再生)

「新着のボイスメールはXX件、全部でXX件…」という保存されている通話録音や録音メッセージの数を通知するアナウンスが流れたあと、種別選択ガイダンスが流れます。

3 **③** を押す(すでに聞いたメッセージを削除)

既読削除確認ガイダンスが流れます。

4 削除してよい場合は**①**(はい)を押す

- 削除を中止する場合は、ここで**①**の代わりに**②**を押します。
- 既読削除ガイダンスが流れたあと、種別選択ガイダンスに戻ります。

5 受話器を置く

● 相手のメールボックスにメッセージを録音する(伝言録音)

指定した相手のメールボックスにメッセージを録音します。相手のメールボックスに伝言メッセージを録音するにはこの方法が一番早く操作できます。簡単に素早く特定の相手へ伝言メッセージを録音したいときに便利な方法です。

MEMO

- この機能を利用するには、オートダイヤルボタンに (通話録音) を登録しておく必要があります。登録方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶ P.81)を参照してください。
- 相手のメールボックスにメッセージを録音するには、 (通話録音) を使用方法のほか、 (メールアクセス) やメールアクセス特番を押して **(*)** を押す方法もあります。
- 複数のメールボックスにメッセージを録音したり、メールの再生中に返信してもらいたい場合は、「複数のメールボックスにメッセージを録音する(ボイスメール録音)」(▶ P.21)を参照してください。

相手のメールボックスにメッセージを録音する

1 受話器を上げる

2 (通話録音) を押す

3 録音先のメールボックス番号を押す

- 録音先のメールボックスが登録された (メールボックス) を押して指定することもできます。
- 「ピーという発信音のあとにメッセージをお残してください」とアナウンスされ、ビープ音が聞こえます。
- 録音できないとアナウンスされた場合は、以降の操作はできません。

4 受話器に向かって用件を話し、**(#)** を押す

用件を話したあとに、すぐ受話器を置いて、録音操作を完了することができます。

MEMO

録音中に (コメント) を押すと、録音メッセージにタイトルやコメントを付けることができます。録音メッセージにタイトルやコメントを付けておくと、あとでパソコンからボイスメール管理ツール(CTstageアシスタント)を使ってメッセージを検索するときなどに便利です。

タイトルやコメントについての詳細は「録音メッセージにタイトル/コメントを付ける」(▶ P.10)および「4-2 録音されたメッセージを再生/検索/転送する」の「録音されたメッセージにタイトル/コメントを付ける」(▶ P.51)を参照してください。

5 相手のメールボックスにメッセージを送信(録音)する場合は、**(#)** または **①** を押す

- 相手のメールボックスにメッセージが録音されます。
- 「メールを承りました」とアナウンスされたあと、電話は自動的に切断されます。

6 受話器を置く

MEMO

- 手順2の代わりに、 (メールアクセス) またはメールアクセス特番を押したあと、**(*)** を押しても伝言録音の操作を行うことができます。その場合は、手順3でメールボックスを指定したあと、**(#)** を押してください。
- 手順5でメッセージを送信する前に、メッセージの内容を確認することができます。また、メッセージの送信を中止することもできます。ガイダンスに従って操作ください。

● 複数のメールボックスにメッセージを録音する(ボイスメール録音)

指定した相手のメールボックスにメッセージを録音します。メッセージを話したあとに相手先を指定することができます。同時に複数のメールボックスを指定してメッセージを録音する場合に便利な方法です(メッセージ録音/グループ同報録音)。

MEMO

録音先を同報グループ番号にすると、一度に複数のメールボックスにメッセージを録音することができます。同報グループ番号の設定については、管理者にお問い合わせください。

1 メールボックスにログオンする(⇒P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 **Ⓔ**を押す(メッセージ録音)
「ピーという発信音のあとにメッセージをお残してください。メッセージの最後に**Ⓝ**を押してください」とアナウンスされ、ピーブ音が聞こえます。

3 受話器に向かってメッセージを話し、**Ⓝ**を押す
再生確認ガイダンスが流れます。

MEMO

- 録音中に **□** (コメント) を押すと、録音メッセージにタイトルやコメントを付けることができます。録音メッセージにタイトルやコメントを付けておくと、あとでパソコンからボイスメール管理ツール(CTstageアシスタント)を使ってメッセージを検索するときなどに便利です。
タイトルやコメントについての詳細は「録音メッセージにタイトル/コメントを付ける」(⇒P.10)および「4-2 録音されたメッセージを再生/検索/転送する」の「録音されたメッセージにタイトル/コメントを付ける」(⇒P.51)を参照してください。
- Ⓝ**の代わりに**✳**を押すと、録音操作は中断され、サービス終了ガイダンスまたはサービス機能入力ガイダンスが流れます。

4 **①**を押す(メッセージ保存)
録音したメッセージが保存されます。

5 相手先のメールボックス番号を押し、**Ⓝ**を押す

- メールボックス番号を押す代わりに、**Ⓝ**を押してメールボックス用電話帳(⇒P.41)を使用したり、相手先のメールボックス番号が登録されている **□** (メールボックス) を押して選択することもできます。
- メールボックス番号入力中に**✳**を押すと、メールボックス番号を押しなおすことができます。
- 複数のメールボックス番号と**Ⓝ**を押して指定する場合は、ガイダンスに従って、順にメールボックス番号を押しします。

例) メールボックス 111、112 に録音

① ① ① **Ⓝ** ① ① **2** **Ⓝ**
↑ ↑
ガイダンスを聞く ガイダンスを聞く

6 **Ⓝ**を押す
あて先が確定されます。
ガイダンスが流れ、相手先のメールボックスへの録音(送信)が完了します。

7 受話器を置く

MEMO

手順4でメッセージを保存する前に、メッセージの内容を確認することができます。また、メッセージの保存を中止することもできます。ガイダンスに従って操作してください。

● 通話相手に伝言メッセージを残してもらうには(録音転送)

通話中の相手に伝言メッセージを残してもらうことができます。

例えば、担当者が不在の場合に、電話を受けた人がこの方法で通話相手にメッセージを録音してもらいます。この機能は、外線 / 専用線 / 内線のいずれからかかってきた場合にも利用できます。

MEMO

この機能を使う前に、オートダイヤルボタン (録音転送) をあらかじめ登録しておく必要があります。登録方法は、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」を参照してください。また、登録に必要な付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(→ P.81) を参照してください。

電話を受けた人の操作

1 通話中の相手に、メールセンターに接続することを伝える

2 (録音転送) を押す

3 録音先のメールボックス番号を押す
録音先のメールボックスが登録された (メールボックス) を押して指定することもできます。

4 音声ガイダンスが始まったら、すぐに フラッシュ を押す
通話相手には、ここで聞こえているガイダンスの続きが聞こえるようになります。ガイダンスが始まったら、なるべく早く フラッシュ を押します。

5 受話器を置く

電話をかけてきた人の操作

1 保留音が聞こえる

2 メールセンターのガイダンスが聞こえる

3 受話器に向かって用件を話し、 # を押す

4 音声ガイダンスに従って操作する

5 受話器を置く

MEMO

設定によっては、手順 4 で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「A-3 各種機能の初期設定値」を参照してください。設定を変更したい場合は、販売店にご相談ください。

録音された通話やメッセージを転送する

メールボックスに録音されているメッセージを、他のメールボックスに転送することができます。その際、自分でコメントを追加録音することができます。同時に指定できる転送先メールボックスは 10 個までです。

MEMO

転送先を同報グループ番号にすると、一度に複数のメールボックスにメッセージを録音することができます。同報グループ番号の設定については、管理者にご相談ください。

録音された通話やメッセージを転送する

1 転送するメッセージを再生する
「通話録音やメッセージを再生する」(▶P.17)の手順 1～3 を行ってください。

2 メッセージの再生中または再生後に、**7** + **2** を押す

- 転送確認ガイダンスが流れます。
- メッセージ再生中の操作については、「メッセージ再生中にできる操作」(▶P.18)を参照してください。

3 **1** を押す (転送開始)

- 転送開始ガイダンスが流れたあと、ピーブ音が鳴ります。
- 転送を中止する場合は、**2** を押します。

4 受話器に向かって、追加する音声コメントを話したあと、**#** を押す
録音内容確認ガイダンスが流れて、録音した音声コメントと転送するメッセージが再生されます。内容を確認してください。

5 内容を確認したら、**1** を押す (転送先を入力)
転送を中止する場合は、**2** を押します。

6 転送先のメールボックス番号を押して、最後に **#** を押す

- メールボックス番号を押す代わりに、**確定** を押してメールボックス用電話帳(▶P.41)を使用したり、転送先のメールボックス番号が登録されている (メールボックス) を押して選択することもできます。
- メールボックス番号入力中に ***** を押すと、メールボックス番号を押しなおすことができます。
- 複数のメールボックス番号と **#** を押して指定する場合は、ガイダンスに従って、順にメールボックス番号を押します。すべてのメールボックス番号を指定したあと、最後に **#** を押します。

例) メールボックス 111、112 に録音

1 **1** **1** **#** **1** **1** **2** **#**
 ↑ ↑
 ガイダンスを聞く ガイダンスを聞く

7 **#** を押す
メールボックスの指定が完了します。

8 受話器を置く

2-3 留守番電話として利用する（不在代行）

留守番電話機能を設定しておく、不在のときに電話をかけてきた相手に、応答メッセージを流してメッセージを録音してもらうことができます（不在代行）。

ここでは、ボイスメール機能を留守番電話として利用するための電話機からの設定 / 操作について説明します。

- 「留守番電話機能を設定する」(→ P.24)
- 「応答メッセージを録音 / 設定する」(→ P.27)

留守番電話機能を設定する

留守番電話としてボイスメールを使用するには、まず不在時の転送先としてボイスメールを選択します。そのあとで、実際に席を外すなどで不在になるとき「不在 ON」に切り替えると、留守番電話機能が設定されます。

不在モードの ON/OFF については、「不在転送を有効にする（不在モード設定）」(→ P.26)を参照してください。

MEMO

本書で説明している外部ボイスメール機能の留守番電話機能は、内蔵ボイスメールの留守番機能とは異なります。

工事設定

着信形式と昼夜モードを組み合わせることによって、時間帯によって自動的に留守番電話に切り替えることもできます。また、応答メッセージのみを流して録音しないように設定することもできます。これらの機能を利用するには、販売店にお問い合わせください。

不在時の転送先としてボイスメールを選択する

席を外して電話に出られないときの転送先としてボイスメールを選択（転送先種別に「ガイダンス応答録音」を選択）しておく、かかってきた電話はメールセンターへ接続されます（不在代行）。転送先の設定では、メッセージの録音先のメールボックスも選択します。通常は自分のメールボックス（内線番号、ユーザ番号）を選択します。

MEMO

不在転送の設定は内線電話機ごとに設定します。電話機のサービスメニューと特番、および Web 設定から設定できます。一般ユーザ電話機では自内線のみ設定でき、システム管理電話機では自テナントグループ内の内線を指定して設定できます。ここでは、電話機のサービスメニューからの設定について説明します。特番を利用した操作については、『取扱説明書（多機能電話機編）』を参照してください。Web 設定での操作については、『取扱説明書（Web 設定編）』を参照してください。

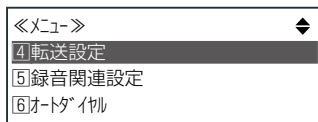
1

待受画面で、**確定**を押す

電話機のディスプレイにメインメニューが表示されます。

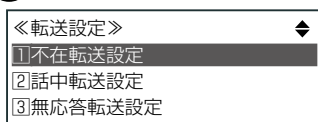
2

4で [4: 転送設定] を選択して、**確定**を押す



3

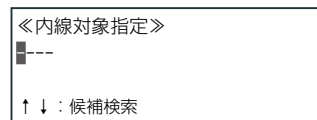
1で [1: 不在転送設定] を選択して、**確定**を押す



4

不在転送を設定する内線電話を指定して、**確定**を押す

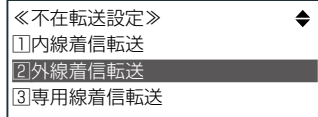
- 一般ユーザ電話機の場合、「内線対象指定」画面は表示されません。手順 5 へ進みます。
- 内線番号を入力する代わりに **4** で内線番号を順番に検索することができます。



入力した内線番号に内線名称が登録されている場合は、3 行目に内線名称が表示されます。

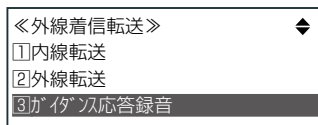
5 5で着信種別を選択して、(確定)を押す

- 代行機能の操作ができるのは、[2：外線着信転送]、[3：専用線着信転送]のいずれかの場合のみです。
- ここでは、[2：外線着信転送]を選択した場合について説明しますが、[3：専用線着信転送]を選択した場合でも手順は同じです。



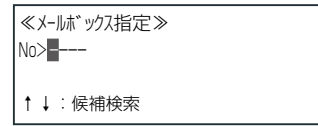
6 6で[3：ガイダンス応答録音]を選択して、(確定)を押す

転送先種別として、ガイダンス応答録音を選択します。



7 録音先のメールアドレスを指定する

メールアドレスを入力する代わりに、(点滅)で、メールアドレスを順番に検索することができます。



入力したメールアドレス番号にメールアドレス名称が登録済みの場合には3行目にメールアドレス名称が表示されます。

8 (確定)を押す

不在代行が設定され、「不在転送設定」メニューに戻ります。

MEMO

不在時のほか、以下の場合にも転送先としてボイスメールを指定することができます。詳細については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「5-3 基本的な使いかた」の「各種代行機能」を参照してください。

- 着信した内線が話し中のとき(話中代行)
- 一定時間応答がないとき(応答遅延代行 / 無応答代行)
- 圏外にいるときや電話の電源が入っていないとき(圏外代行)
- 特定の電話番号に外線がかかってきたとき(外線着信代行)

不在転送を有効にする（不在モード設定）

MEMO

この機能を使うには、あらかじめオートダイヤルボタンに （不在）を登録しておく必要があります。

登録方法については、『取扱説明書（多機能電話機編）』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」を参照してください。また、オートダイヤルボタンを登録するための付加情報については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(➡ P.81)を参照してください。

1

（不在）を押す

受話器を置いたまま操作します。

2

不在理由を選択する

不在理由は、9種類（1: 外出中、2: 会議中、3: 来客中、4: 食事中、5: 出張中、6: 休暇中、7: 帰宅、8: 直帰、9: 直行直帰）の中から選択できます（初期設定の場合）。

不在理由選択	
<input checked="" type="checkbox"/>	1 外出中
<input type="checkbox"/>	2 会議中
<input type="checkbox"/>	3 来客中

3

確定を押す

- 登録完了音が鳴り、不在状態（不在モード ON）となります。
- （不在）ランプは点灯（赤）します。
- 電話機のディスプレイには、「不在登録< XXX >」と表示されます（XXX は不在理由）。不在理由を選択していない場合は、「不在登録< 不在 >」と表示されます。

MEMO

- 留守番電話機能で流れる応答メッセージは、システムで用意されています。独自のメッセージを用意したい場合は、「応答メッセージを録音/設定する」(➡ P.27)を参照してください。
- 不在モードを解除するには、点灯（赤）している （不在）を押します。
- 不在モードが設定されているときは、電話をかけてきた相手には、「ただいま席を外しております。発信音のあとにメッセージをどうぞ」のようにアナウンスが流れます（標準応答メッセージ選択時）。相手が用件を話したあと **(#)** を押すと、「しばらくお待ちください。メッセージを承りました」とアナウンスが流れます。

● 応答メッセージを録音 / 設定する

留守番電話機能で流れる応答メッセージを自分で録音しておくことができます。何も録音していない場合は、システムで用意されている応答メッセージ（標準メッセージ）が流れます。応答メッセージは、メールボックスごとに用意することができます。

MEMO

応答メッセージには、音声メッセージ（自分で独自に録音したファイル）、テキストメッセージ（テキスト音声合成）、デフォルトメッセージ（標準メッセージ）の3種類のいずれかを設定できます。

応答メッセージの設定は、電話機から、またはパソコンからボイスメール管理ツール（CTstage アシスタント）を使って設定することができます。ここでは、電話機から設定する操作手順について説明します。電話機からテキストメッセージを設定する場合は、あらかじめCTstage アシスタントでテキスト音声合成メッセージを登録しておく必要があります。

CTstage アシスタントからの応答メッセージの設定方法については、「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「留守番電話機能の応答メッセージを変更する」(▶ P.69)を参照してください。

注意

ここで録音 / 設定できる応答メッセージは、内蔵ボイスメールで録音して利用できる「ユーザ応答ガイドンス」とは別のものであります。

応答メッセージを新しく録音する

自分独自の音声メッセージは、次のように録音します。

- 1 **メールボックスにログオンする(▶P.14)**
サービス機能入力ガイドンスが流れます。
- 2 **①を押す(機能オプション選択)**
機能ガイドンスが流れます。
- 3 **⑤を押す(応答メッセージ設定)**
現在の応答メッセージの設定状況(音声、テキストまたはデフォルト)がアナウンスされたあと、設定選択ガイドンスが流れます。
- 4 **①を押す(音声メッセージ設定)**
音声で登録されている応答メッセージがある場合には、登録されている代行種別がアナウンスされたあと、代行種別選択ガイドンスが流れます。

5 代行種別を指定します。

以下のいずれかを選択します。

- すべての代行を同じにするには①、
- 不在代行は②、
- 話中代行は③、
- 圏外代行は④、
- 外線着信代行応答 1 は⑤①、
- 外線着信代行応答 2 は⑤②、
- 外線着信代行応答 3 は⑤③、
- 外線着信代行応答 4 は⑤④、
- 応答遅延代行は⑥①、
- 応答遅延代行応答 1 は⑥②、
- 応答遅延代行応答 2 は⑥③、
- 応答遅延代行応答 3 は⑥④、
- 応答遅延代行応答 4 は⑥⑤、

指定した代行種別に音声メッセージが登録されていない場合は、すぐに録音処理に入ります。代行種別を選択したあと、手順7へ進んでください。

指定した代行種別に音声メッセージが登録されている場合は、既存の応答メッセージが再生されたあと、そのメッセージに対する操作ガイドンスが流れます。

※ここで再生されたメッセージを、その代行種別の応答メッセージとして使用するときは①、削除するときは③を押します。新しく応答メッセージを録音する場合は、手順6へ進んでください。

6 (新しく応答メッセージを録音する場合は) ② を押す

「応答メッセージを録音します。ピーという発信音のあとに、メッセージをお残してください。メッセージの最後に(＃)を押してください」とアナウンスされます。

7 受話器に向かって応答メッセージを話し、最後に(＃)を押す

音声データ設定ガイダンス「応答メッセージを音声メッセージに設定しました」が流れます。

録音した応答メッセージが、手順5で選択した代行種別の応答メッセージとして設定されます。

8 受話器を置く

選択できる代行種別と説明

代行種別	ボタン操作	操作内容
全代行同一メッセージ	①	すべての代行で、同じメッセージを指定する この代行種別で応答メッセージを設定した場合は、他の種別の応答メッセージを録音しても、この応答メッセージが優先されます。代行種別ごとに異なる応答メッセージが流れる状態に戻したい場合は、全代行同一メッセージを削除してください。
不在代行	② ABC	不在時に流すメッセージを指定する
話中代行	③ DEF	話し中に流すメッセージを指定する
圏外代行	④ GH	電話機が圏外の場合に流すメッセージを指定する
外線着信代行 1	⑤ JKL + ①	「昼モード」中に外線から着信があった場合に流すメッセージを指定する
外線着信代行 2	⑤ JKL + ② ABC	「夜間モード A-1」、「夜間モード B」中に外線から着信があった場合に流すメッセージを指定する
外線着信代行 3	⑤ JKL + ③ DEF	「夜間モード A-2」中に外線から着信があった場合に流すメッセージを指定する
外線着信代行 4	⑤ JKL + ④ GH	「夜間モード A-3」中に外線から着信があった場合に流すメッセージを指定する
応答遅延代行	⑥ MNO + ①	個別着信への無応答転送が設定されているとき、着信時に応答が遅延した場合に流すメッセージを指定する
応答遅延代行 1	⑥ MNO + ② ABC	一般着信への無応答転送が設定されているとき、「昼モード」中に着信時に応答が遅延した場合に流すメッセージを指定する
応答遅延代行 2	⑥ MNO + ③ DEF	一般着信への無応答転送が設定されているとき、「夜間モード A-1」、「夜間モード B」中に着信時に応答が遅延した場合に流すメッセージを指定する
応答遅延代行 3	⑥ MNO + ④ GH	一般着信への無応答転送が設定されているとき、「夜間モード A-2」中に着信時に応答が遅延した場合に流すメッセージを指定する
応答遅延代行 4	⑥ MNO + ⑤ JKL	一般着信への無応答転送が設定されているとき、「夜間モード A-3」中に着信時に応答が遅延した場合に流すメッセージを指定する

MEMO

外線着信代行 1～4 および応答遅延代行 1～4 では、昼夜モードごとに応答メッセージ（音声）を設定します。設定できる昼夜モードは「昼」、「夜間 A-1」、「夜間 A-2」、「夜間 A-3」、「夜間 B」の 5 種類です。あらかじめ、各モードに着信音や着信先または応答メッセージやガイダンスの種類などについて設定しておく、ワンタッチで昼夜モードを切り替えることができます。また、時間帯（最大 10）によって、自動的にモードを切り替えることもできます。

昼夜モード設定および昼夜モード設定の内容、着信先やガイダンスの種類の設定については、販売店にお問い合わせください。

昼夜モードを電話機で手で切り替える方法については、『取扱説明書（多機能電話機編）』の「3-8 便利な機能設定」の「時間帯により着信形式を切り替える（夜間モード切替）」を参照してください。

応答メッセージの種類を切り替える

応答メッセージの種類を、音声メッセージ(自分で独自に録音)、テキストメッセージ(テキスト音声合成)、デフォルトメッセージ(標準メッセージ)の3種類から選択して切り替えることができます。
また、すべての音声メッセージを一括でデフォルトメッセージに戻すことができます。

MEMO

電話機からテキストメッセージに変更するには、あらかじめパソコン上のボイスメール管理ツール(CTstageアシスタント)から、テキスト音声合成のメッセージを設定しておく必要があります。詳しくは「4-3 メールボックスの各種設定を確認/設定する」の「留守番電話機能の応答メッセージを変更する」(▶P.69)を参照してください。

1 メールボックスにログオンする(▶P.14)

サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 ①を押す(機能オプション選択)

機能ガイダンスが流れます。

3 ⑥を押す(応答メッセージ設定)

現在の応答メッセージの種類の設定状況(音声、テキストまたはデフォルト)がアナウンスされたあと、設定選択ガイダンスが流れます。

4 応答メッセージの種類を選択する

- 音声メッセージを選択する場合は、①を押します。
以降の手順は「応答メッセージを新しく録音する」(▶P.27)を参照してください。
代行種別ごとに録音した応答メッセージを削除すると、その代行種別の応答メッセージのみをデフォルトメッセージに戻すことができます。
- テキストメッセージを選択する場合は、②を押します。
「応答メッセージをテキストメッセージに設定しました」とアナウンスされます。
- すべての応答メッセージをデフォルトメッセージに戻す場合は、③を押します。
「応答メッセージをデフォルトメッセージに設定しました」とアナウンスされます。
- 録音済みの音声メッセージを再生するときは⑤を押します。
以降の操作はガイダンスに従って操作してください。

5 受話器を置く

第3章 便利な使いかた

3-1 ボイスメールから電話転送機能を利用する

メールボックスにログオンしているときに、内線に電話をかけることができます。この機能は、ボイスメールの内容について、社内の担当者と話したいときなどに利用します。ただし、電話をかけ終わったあとは、メールボックスの操作には戻りませんのでご注意ください。

- 「ガイダンスが流れているときに電話をかける」(→ P.30)
- 「録音メッセージを再生しているときに電話をかける」(→ P.31)

● ガイダンスが流れているときに電話をかける

メールボックスへのログオン直後や、ログオン中に何か操作をしてからサービス機能入力ガイダンスに戻ったときに電話をかける場合は、次のように操作します。

電話をかける人の操作

- 1 メールボックスにログオンする(→ P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。
- 2 **4**を押す(電話転送)
「電話に転送します。転送先電話番号と**4**を押してください。転送操作を中止するときは*****を押してください」とアナウンスされます。
- 3 相手の内線番号をダイヤルし、**4**を押す
保留音が流れます。
- 4 相手が応答したら、相手と通話する
- 5 通話が終了したら、受話器を置く
待受状態になります(メールボックスの操作には戻りません)。

MEMO

手順3で、内線番号をダイヤルする代わりに、**4**を押して電話帳を使用することもできます。

工事設定

外線 / 専用線に電話をかけることもできます。販売店にご相談ください。

電話を受ける人の操作

- 1 着信音が鳴る
- 2 受話器を上げる
「こちらは、メールセンターです。メールセンターから電話を転送します」とアナウンスされます。
- 3 相手の声が聞こえたら、相手と通話する
- 4 通話が終了したら、受話器を置く

録音メッセージを再生しているときに電話をかける

録音メッセージの再生中に電話をかける場合は、次のように操作します。

電話をかける人の操作

- 1 メールボックスにログオンする
サービス機能入力ガイダンスが流れます。
- 2 メッセージを再生する(➡ P.17)
録音メッセージの数を通知するアナウンスが流れます。第2章の「通話録音やメッセージを再生する」(➡ P.17)に従って操作してください。
- 3 メッセージの再生中に、
⑦ + ④ を押す(電話転送)
「電話に転送します。転送先電話番号と⑧を押してください。転送操作を中止するときは⑨を押してください」とアナウンスされます。
- 4 相手の内線番号をダイヤルし、⑧を押す
保留音が流れます。
- 5 相手が応答したら、相手と通話する
- 6 通話が終了したら、受話器を置く
待受状態になります(メールボックスの操作には戻りません)。

MEMO

- メッセージ再生中にできる操作については、第2章の「メッセージ再生中にできる操作」(➡ P.18)を参照してください。
- 手順4で、内線番号をダイヤルする代わりに、⑩を押して電話帳を使用することもできます。

工事設定

外線 / 専用線に電話をかけることもできます。販売店にご相談ください。

電話を受ける人の操作

- 1 着信音が鳴る
- 2 受話器を上げる
「こちらは、メールセンターです。メールセンターから電話を転送します」とアナウンスされます。
- 3 相手の声が聞こえたら、相手と通話する
- 4 通話が終了したら、受話器を置く

3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する

通話録音や伝言メッセージが自分のメールボックスに録音(保存)されたときに、携帯電話または電子メールで通知を受けることができます。

MEMO

本書では、自分のメールボックスに通話や伝言メッセージが録音(保存)されることを「ボイスメールが着信した」と表現します。

ここでは、内線電話機を使用して、着信通知を設定する方法について説明します。パソコン上のボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)からの設定については、「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(→ P.71)を参照してください。

ここでは、次の操作について説明します。

- 「ボイスメール着信時の着信通知を設定 / 解除する」(→ P.32)
- 「ボイスメール着信通知先の電話番号を設定する」(→ P.34)
- 「ボイスメール着信通知先の電子メールアドレスを設定する」(→ P.34)

● ボイスメール着信時の着信通知を設定 / 解除する

ボイスメールが着信したときに、携帯電話や電子メールで通知を受けるかどうかを設定します。

MEMO

電子メールによる通知を行う場合は、管理者によってあらかじめメールシステムを使用するように設定されている必要があります。管理者にお問い合わせください。詳細は、「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する」(→ P.79)を参照してください。

着信通知を受けるように設定する

1 メールボックスにログオンする(→ P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 ①を押す(機能オプション選択)
機能ガイダンスが流れます。

3 ①を押す(着信通知の変更)
着信通知の設定状況がアナウンスされます。

4 ①を押す(着信通知の設定操作)

5 電話による通知を設定する場合は①、
電子メールによる通知を設定する場合は②_{ABC}
を押す

電話または電子メールによる通知を設定したことがアナウンスされたあと、サービス機能入力ガイダンスに戻ります。

6 受話器を置く

MEMO

電話による通知が設定されている場合には、メールボックス番号の横に「A」と表示されます。通知が設定されていない場合、「-」が表示されます。

通話録音	2:53
PB	1234567890
本社	
MBX:12345678	A

着信通知を解除する

- 1 メールボックスにログオンする(⇒P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。
- 2 ①を押す(機能オプション選択)
- 3 ①を押す(着信通知の変更)
着信通知の設定状況がアナウンスされます。
- 4 ②を押す(着信通知の解除操作)
- 5 電話による通知を解除する場合は①、
電子メールによる通知を解除する場合は②、
すべての通知を解除する場合は③
を押す
電話または電子メールによる通知を解除したことが
アナウンスされたあと、サービス機能入力ガイ
ダンスに戻ります。
- 6 受話器を置く

● ボイスメール着信通知先の電話番号を設定する

ボイスメールが着信したときに通知する、通知先の電話番号(固定電話、携帯電話などの電話番号)を設定します。この設定を行うと、ボイスメールが着信するたびに、メールセンターから自動的に、登録先の電話番号に電話がかかります。かかってきた電話に応答することで、メールセンターへの接続操作を行うことなく、メッセージ再生などの操作を行えます。これにより、外出先から電話料金の負担もなく、新着ボイスメールを常に自動的に確認できます。

通知先の電話番号を設定する

1 メールボックスにログオンする(➡P.14)
サービス機能入力ガイダンスが流れます。

2 ①を押す(機能オプション選択)

3 ③を押す(電話通知先番号の変更)
すでに電話番号が登録されている場合は登録されている電話番号がアナウンスされます。

4 着信時の通知先の電話番号と④を押す
ボイスメール着信時の通知先が設定され、電話番号が登録されたことがアナウンスされます。

通知先が外線の場合は、電話番号の前に自動選局特番(例えば0)を押してください。特番の初期設定は「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(➡P.82)を参照してください。

5 受話器を置く

MEMO

通知先の電話番号を解除する場合は、ボイスメールの着信を通知しないように設定してください。
参照》「ボイスメール着信時の着信通知を設定 / 解除する」の「着信通知を解除する」(➡P.33)

ボイスメール着信通知を受け取ったときには

ボイスメールが着信したことを通知する電話が、固定電話、携帯電話などにかかってきたときは、かかってきた電話に応答するだけで、自動的にメールセンターに接続されます。ガイダンス「こちらはメールセンターです。新着のボイスメールが到着しています。処理を開始するにはキーを押してください」に従って、いずれかのボタン(キー)を押すと、メールボックスにログオンします。そのあとは、内線電話機からのメールボックスの操作と同じです(➡P.13)。ガイダンスに従って操作してください。

MEMO

最初の着信通知のときに電話に応答できなかった場合、再度通知の電話がかかってきます。再通知の回数は、管理者が設定します。設定や変更については、管理者にお問い合わせください。

● ボイスメール着信通知先の電子メールアドレスを設定する

ボイスメールが着信したときに通知する、通知先の電子メールアドレスは、パソコン上のボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)から設定します。「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する」(➡P.79)を参照してください。

3-3 外出先からメッセージを確認する

ここでは、外出先から自分のメールボックスに録音されているメッセージ(ボイスメール)を確認する方法や、外出先から利用するときに便利な機能について説明します。

- 「外出先からメールセンターに接続する」(➔ P.35)
- 「外出先から呼出回数でメッセージ録音の有無を確認する(トールサーバ機能)」(➔ P.38)
- 「メッセージ聞き取り時の折返し自動発信を行う」(➔ P.39)

● 外出先からメールセンターに接続する

外出先からメールセンターに接続して、自分のメールボックスへの録音内容を確認したり、伝言メッセージを録音することができます。

MEMO

外出先からは、プッシュホン(PB)信号が送れる電話機を使用する必要があります。

外出先からメールボックスを利用するには、以下のいずれかの方法で、メールセンターに接続します。

- 「メールセンター接続番号(外線用)に電話をかける」(➔ P.35)
- 「留守番電話(代行)の応答メッセージを利用する」(➔ P.36)

MEMO

- メールセンター接続番号(外線用)は、外出先からメールサービスを利用するための電話番号です。電話番号は管理者または販売店にお問い合わせください。
- 外線暗証番号は、外出先からメールサービスを利用する際に、メールサービスにアクセスするための認証手段として使用します。外線暗証番号は管理者にお問い合わせください。
- メール暗証番号は、内線に代行(ボイスメール)を設定している状態で、外出先から内線に電話をかけた際に、不在の音声ガイダンスに割り込んでメールサービスを利用するときに使用します。メール暗証番号は管理者にお問い合わせください。
- 音声ガイダンスでは、外線暗証番号とメール暗証番号はどちらも「メールセンターアクセス用暗証番号」と呼ばれています。

メールセンター接続番号(外線用)に電話をかける

1 メールセンター接続番号(外線用)に電話をかける

音声ガイダンス(操作機能ガイダンス)が聞こえてきます。

2 外線暗証番号が設定されている場合は、外線暗証番号を押して、**[#]**を押す

「外線暗証番号」は、管理者にお問い合わせください。

3 ガイダンスに従って、操作を選択する

ここでは以下の操作を選択できます。

- 伝言メッセージを録音する：**[*]**
→「**[■]**伝言メッセージを録音する」(➔ P.36)
- メールボックスを操作する：**[#]**
→「**[■]**メールボックスを操作する(ログオン)」(➔ P.36)

MEMO

外線からかけた電話機の電話番号が、ボイスメールシステムの発信者番号情報(メールボックスのアクセス先)に登録されていた場合は、手順2~4は省略され、「**[■]**メールボックスを操作する(ログオン)」(➔ P.36)の手順5へ進みます。

メールボックスへの発信者番号の登録は、パソコン上のボイスメール管理ツール(CTstage アシスタント)から行います。以下を参照してください。

- 第4章の「特定の電話番号から着信したときの動作を設定する」(➔ P.76)
- 第4章の「トールサーバ着信や折返し自動発信を利用する」(➔ P.73)

■ 伝言メッセージを録音する

- 4 あて先のメールボックス番号を押して、最後に **#** を押す
- 5 受話器に向かって用件を話し、最後に **#** を押す
- 6 受話器を置く

■ メールボックスを操作する (ログオン)

- 4 自分 (または操作対象) のメールボックス番号 (ユーザ番号) を押して、**#** を押す
- 5 暗証番号 (パスワード) を設定している場合は、暗証番号を押して **#** を押す
- 6 ガイダンスに従って操作する
詳しくは「自分あてに録音された通話やメッセージを再生する」(▶ P.17)を参照してください。
- 7 操作が終了したら、受話器を置く

留守番電話 (代行) の応答メッセージを利用する

外出先から社内担当者に電話したときに、不在などで、留守番電話機能が設定されていて応答メッセージが流れている場合、**#** とメール暗証番号を押すと、外出先からメールボックスにアクセスし、メッセージの再生 / 消去 / 録音などを行うことができます。

MEMO

- 外出先からこの機能を利用するには、アクセスするメールボックスに「外線着信代行」または「不在代行」が設定されている必要があります。外線着信代行および不在代行の設定については、販売店にご相談ください。
- 外出先からは、プッシュホン (PB) 信号が送れる電話機を使用する必要があります。

注意

メール暗証番号を設定していない場合には、本機能は利用できません。メール暗証番号については、管理者または販売店にお問い合わせください。

応答メッセージを利用してメールセンターに接続するには

- 1 社内の担当者などに電話をかける
不在の場合などは留守応答メッセージが流れます。
- 2 応答メッセージが流れている間に、**#** を押す
- 3 メール暗証番号を押して、**#** を押す
メールセンターに接続され、操作案内ガイダンスが聞こえてきます。

「メール暗証番号」は、管理者にお問い合わせください。
- 4 ガイダンスに従って、操作を選択する
以降の操作は、「メールセンター接続番号 (外線用) に電話をかける」(▶ P.35)の手順3以降の操作と同じです。

通話相手をメールセンターに接続させる

通話中の相手をメールセンターに接続させることができます。メールセンターに接続された相手は、そのあとガイダンスを聞きながらメールボックスの再生などの操作を行うことができます。

例えば、外出先からメールボックスを確認したい人を、この方法でメールセンターに接続させることができます。

なお、この機能は、外線 / 専用線 / 内線のいずれからかかってきた場合にも利用できます。

電話を受けた人の操作

- 1 通話中の相手に、メールセンターに接続することを伝える
- 2 (保留) を押す
- 3 メールアクセス特番を押す
または、
 (メールアクセス) を押す
特番の初期設定については、「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(▶P.82)を参照してください。
- 4 ガイダンスが始まったら、すぐに (フラッシュ) を押す
通話相手には、ここで聞こえているガイダンスの続きが聞こえるようになります。ガイダンスが始まったら、なるべく早く (フラッシュ) を押します。
- 5 受話器を置く

電話をかけてきた人の操作

- 1 保留音が聞こえる
- 2 メールセンターのガイダンスが聞こえる
- 3 音声ガイダンスに従って操作する
- 4 受話器を置く

MEMO

- この機能を使う前に、 (メールアクセス) をあらかじめ に登録しておきます。オートダイヤルボタンの一覧については、「A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン」(▶P.81)を参照してください。また、オートダイヤルボタンの登録方法は、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能を登録する」を参照してください。
- 設定によっては、手順4で受話器を置いて転送することもできます。初期設定については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「A-3 各種機能の初期設定値」を参照してください。設定を変更したい場合は、販売店にご相談ください。

● 外出先から呼出回数でメッセージ録音の有無を確認する(トールサーバ機能)

外出先からメールセンターに接続して、応答するまでの呼出回数によって新着のボイスメールがあるかどうかを確認することができます。この機能をトールサーバ機能と呼びます。

これにより、新着メールがない場合にメールボックスに接続することでかかる通話料金を節約できます。

MEMO

- この機能を使用するには、あらかじめ、外出先からメールセンターに接続する電話機の電話番号を発信者番号として登録しておく必要があります。
- 登録はパソコンからボイスメール管理ツール (CTstage アシスタント) を使って行います。「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「ボイスメールの各種設定を変更する」(→ P.65)および「トールサーバ着信や折返し自動発信を利用する」(→ P.73)を参照してください。

注意

この機能は、メールセンターに接続した際に発信者番号が通知されなかった場合は利用できません。

1 メールセンター接続番号(外線用)に電話をかける

- トールサーバ機能が設定されている場合は、新着のメッセージがある場合にはすぐに応答します。新着のメッセージがない場合には、一定時間応答しません。
- メールセンター接続番号(外線用)は、管理者または販売店にお問い合わせください。

2 一定時間応答がない場合は、電話を切る

- ガイダンスが聞こえる前に電話を切ります。
- 応答する前に電話を切れば、通話料金がかかりません。
- 応答時間の変更については、管理者にお問い合わせください。

● メッセージ聞き取り時の折返し自動発信を行う

外出先からメールセンター接続番号に電話して、一旦電話を切ったとき、メールボックス内に新着メッセージがある場合は、メールセンターから自動的に電話を折返し、発信してくれます。この機能を折返し自動発信機能と呼びます。これにより、外出先からの電話料金がかからないようにすることができます。

MEMO

- この機能を使用するには、あらかじめ、外出先からメールセンターに接続する電話機の電話番号を発信者番号として登録しておく必要があります。
- 登録はパソコンからボイスメール管理ツール (CTstage アシスタント) を使って行います。「4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する」の「ボイスメールの各種設定を変更する」(▶ P.65) および「ツールサーバ着信や折返し自動発信を利用する」(▶ P.73) を参照してください。

注意

メールセンターに接続した際に発信者番号が通知されなかった場合は、自動発信されません。

1 メールセンター接続番号 (外線用) に電話をかける

- 呼び出し音が鳴ります。
- メールセンター接続番号 (外線用) は、管理者または販売店にお問い合わせください。

2 メールセンターが応答する前に、電話を切る

- アナウンスが聞こえる前に電話を切ります。メールセンターが応答する前に電話を切ると、通話料金はかかりません。
- 新着のボイスメールがある場合は、メールセンターから電話がかかってきます。

3 メールセンターから折返し電話がかかってきたら、電話に出る

メールセンターとつながります。ガイダンスに従って、メッセージの再生などの操作を行ってください。

MEMO

新着メッセージ (ボイスメール) が着信するたびにメールセンターと接続したい場合は、電話への着信通知の機能を使用すると便利です。「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(▶ P.32) を参照してください。

3-4 メールボックス用電話帳を利用する

メールボックス用電話帳に、録音先のメールボックス番号と名前を登録しておく、録音したいときや再生したいときにメールボックス番号をダイヤルしなくても、登録した名前をメールボックス用電話帳から検索して、保存先や再生先を指定することができます。

メールボックス用電話帳は、共通電話帳の一部として登録します。「電話番号」にはメールボックス番号(内線番号または共通メールボックスの番号)を登録し、「名前」にはメールボックスの持ち主の名前(例えば「開発田中さんのMBX」「開発部門共通 MBX」など)や、特定の製品名(お客様からのコメントなどの録音用の場合など)を登録します。

また、電話帳を登録するときのグループ分けとして、メールボックス用電話帳を1つのグループとして作成しておく、電話帳を利用するとき便利です(例えば、電話帳グループ名として「MBX 電話帳グループ」を設定するなど)。共通電話帳への電話番号と名前の登録、およびグループ名の設定については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-7 電話帳の登録」を参照してください。

ここでは、登録したメールボックス用電話帳を利用する方法について、説明します。

通話録音の録音先をメールボックス用電話帳で指定する

通話録音で録音先を指定または変更するとき、メールボックス番号を入力する代わりに、メールボックス用電話帳で検索して、指定することができます。

1 通話録音を開始する(⇒ P.8)

2 メールボックス番号を入力する画面、または録音中の画面で、**確定**を押す

例: 「MBX12345678」のメールボックスへ
通話録音中の画面

通話録音	2:53
PB	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
お客様 A	
MBX: 1 2 3 4 5 6 7 8	A

3 [共通電話帳] を選択して、**確定**を押す

《外線通話中メニュー》
共通電話帳
個別電話帳
迷惑電話番号

4 [一覧表示] を選択して、**確定**を押す

《共通電話帳》
一覧表示
番号検索

5 [グループ選択] を選択して、**確定**を押す

《共通電話帳一覧》
全グループ表示
グループ選択

6 メールボックス用電話帳として作成された電話帳グループを選択して、**確定**を押す

《共通-グループ選択》
社内
お客様の声
協力会社

7 録音先として指定したいメールボックス(例えば担当者 B) を選択して、**確定**を押す

《共通-お客様の声》
0005: 担当者 B
0006: 部門 1
0007: 部門 2



通話録音	3:03
PB	1 2 3 4 5 6 7 8 9 0
お客様 A	
MBX: 8 7 6 5 4 3 2 1	

録音先のメールボックスが指定または変更されます。

8 録音が終わったら、受話器を置く

ランプ表示などの詳細は、「他のメールボックスに通話を録音する」(⇒ P.8)を参照してください。

MEMO

- グループ選択以外の操作方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「3-10 電話機使用中に使えるメニュー」の「外線通話中メニュー」の「共通電話帳 / 個別電話帳を表示・検索する」を参照してください。
- 検索途中で **フラッシュ** を押すとメールボックス用電話帳を終了することができます。

メールボックスへの録音先や転送先をメールボックス用電話帳から指定する

メッセージ録音で録音先を指定するとき、メールボックス番号を入力する代わりに、メールボックス用電話帳で検索して、指定することができます。

1 メールボックスへのログオン操作中(⇒P.14)、
メールボックスへの録音操作中(⇒P.21)、
またはメールボックスへの転送操作中(⇒P.23)

2 メールボックス番号を入力する画面で、
確定を押す

メールサービス

3 [一覧表示]を選択して、**確定**を押す

《共通電話帳》
一覧表示
番号検索

4 [グループ選択]を選択して、**確定**を押す

《共通電話帳一覧》
全グループ表示
グループ選択

5 メールボックス用電話帳として作成された電話帳グループを選択して、**確定**を押す

《共通-グループ選択》
社内
お客様の声
協力会社

6 録音先として指定したいメールボックス(例えば担当者 B)を選択して、**確定**を押す

《共通-お客様の声》
0005: 担当者 B
0006: 部門 1
0007: 部門 2

メールボックスが指定されます。

7 メールボックス指定後のそれぞれの操作をする

以下のそれぞれの操作のメールボックス指定後の操作をします。

- メールボックスへのログオン操作(⇒P.14)
- メールボックスへの録音操作(⇒P.21)
- メールボックスへの転送操作(⇒P.23)

MEMO

- グループ選択以外の操作方法については、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「3-10 電話機使用中に使えるメニュー」の「外線通話中メニュー」の「共通電話帳 / 個別電話帳を表示・検索する」を参照してください。
- 検索途中で **フラッシュ** を押すとメールボックス用電話帳を終了することができます。
- メールボックス用電話帳を使用できるのは、メールボックス番号を指定する状態のときです。

第4章 パソコンからの利用 – CTstage アシスタント –

4-1 CTstage アシスタントの利用

パソコンからボイスメールシステムを利用するには、Web ブラウザベースのツールである「CTstage アシスタント」(ボイスメール管理ツール)を使用します。

CTstage アシスタントでは、録音されたメッセージの再生、削除や、各種設定などを行うことができます。また、録音されたメッセージに対して付加情報(タイトル/コメント)を追加したり、検索したり、別のメールボックス間でメッセージを転送(コピーまたは移動)することなどもできます。

この章では、CTstage アシスタントを使って、メールボックスに録音されたメッセージやメールボックスの各種設定を行う方法について説明します。

MEMO

- CTstage アシスタントは、ボイスメールシステムに接続されたパソコン上から利用できます。
- CTstage アシスタントは、Internet Explorer に対応しています。使用可能なバージョンについては、管理者にお問い合わせください。
- CTstage アシスタントで各種操作を行うには、利用するメールボックス番号(ユーザ番号)や電話番号などを確認しておく必要があります。実際に操作を始める前に「1-2 ボイスメールシステムの利用方法について」の「パソコンから利用する」(▶ P.5)を参照して、これらの情報を確認してください。

工事設定

- 携帯電話の Web ブラウザからボイスメールシステムを利用することもできます。携帯電話から利用する場合は、「CTstage モバイルアシスタント」を使用します。
- 「CTstage モバイルアシスタント」は、CTstage 6Mi Lite ではサポートされていません。
- 「CTstage モバイルアシスタント」の詳細については、管理者または販売店にお問い合わせください。

注意

この章の CTstage アシスタントの説明は、CTstage Lite の画面で説明しています。CTstage 6Mi Lite 特有の画面項目については、該当箇所それぞれ説明しています。CTstage5i と CTstage 6Mi のロゴの違いについては、説明を省いています。

● CTstage アシスタントを起動する(ログオン)

メールボックスの内容を操作したいときは、Web ブラウザ (Internet Explorer) で CTstage アシスタントを起動して、利用したいメールボックスの番号を指定してログオンします。

※ CTstage アシスタントのログオン画面は、Internet Explorer の [お気に入り] などに登録しておくとう便利です。

注意

CTstage アシスタントのログオン画面以外の画面は、[お気に入り] などに登録しないでください。

CTstage アシスタントを起動(ログオン)する

1 Internet Explorer で CTstage アシスタントのアドレス (URL) を指定します。

CTstage アシスタントの URL:

http://<CTstage サーバのコンピュータ名>/CtAssist

MEMO

<CTstage サーバのコンピュータ名> がわからない場合は、管理者にお問い合わせください。

CTstage アシスタントが起動して、ログオン画面が表示されます。



2 ログオン画面の [ユーザ番号] と [暗証番号] に、利用したいメールボックスのメールボックス番号 (ユーザ番号) と暗証番号を入力します (半角数字)。

3 [ログオン] をクリックします。

MEMO

暗証番号は、メールボックスの暗証番号と同じです。電話機からすでに設定している場合は、同じ暗証番号を入力する必要があります。電話機から設定していない場合は、CTstage アシスタントで指定します。そのまま [ログオン] をクリックしてください。

ログオンが正常に行われると、次ページのようなトップ画面が表示されます。

MEMO

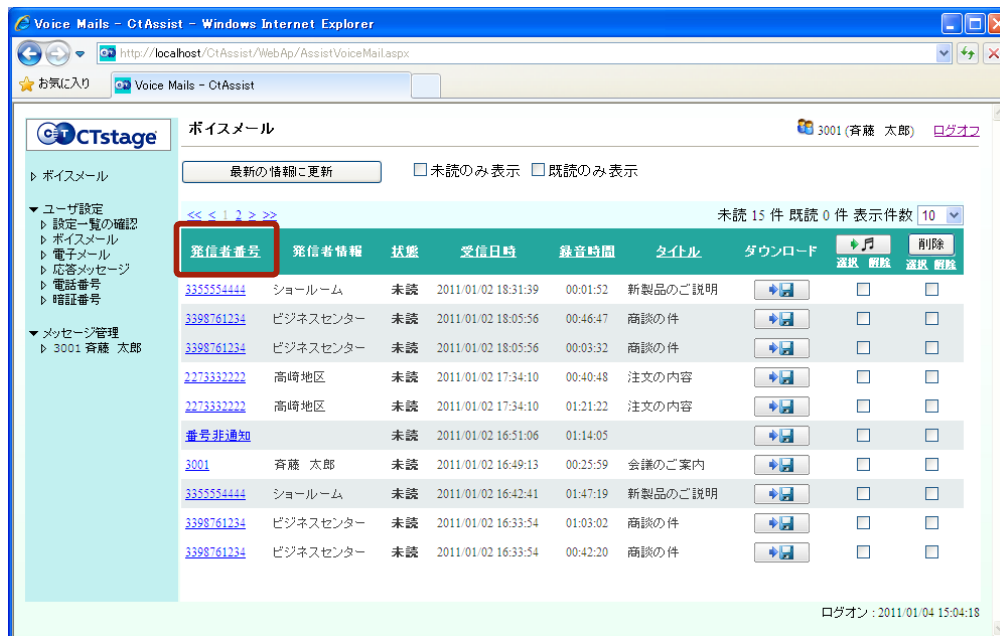
暗証番号が設定されていない場合は、暗証番号を設定してください。設定手順については「メールボックスに暗証番号を設定する」(▶ P.46) を参照してください。

CTstage アシスタントのトップ画面

この画面には、ログオン時に指定したメールボックスに保存されているメッセージが一覧表示されます。

MEMO

このメールボックスに録音(保存)されたメッセージがまだない場合は、一覧表示されません。



注意

上図は CTstage Lite の画面です。CTstage アシスタントのトップ画面の[発信者番号] (上図の赤枠部分)は、CTstage 6Mi Lite では[差出人]と表示されます。

- メッセージ一覧(ボイスメール)の表示件数は、[表示件数] ドロップダウンリストから 10、20、50、100、500 を選択して切り替えることができます。また、[未読のみ表示] または [既読のみ表示] 欄をチェックすることによって、未読と既読のメールの表示を切り替えることができます。
- [発信者番号] (または [差出人])、[状態] などのタイトルをクリックすると、そのタイトルで並べ替えができます。
- メールボックスの設定内容を確認するには、「メールボックスの設定内容を確認する」(➡P.62)を参照してください。
- メッセージ一覧の行は、メッセージごとにグレーまたは白で示されます。同じ色の行が連続して表示されている場合は、1つのメッセージが複数の録音(例えば通話録音の途中での保留や転送による録音の分割)で構成されていることを示しています。

MEMO

[発信者番号] (または [差出人]) でソートすると、番号非通知、発信者番号の順でソートされます。

CTstage アシスタントを終了する(ログオフ)

席を離れるような場合は、CTstage アシスタントを終了(ログオフ)します。

注意

CTstage アシスタントでの作業が終わったら、必ず CTstage からログオフしてください。

CTstage アシスタントを終了(ログオフ)する

1 画面の右上にある[ログオフ]をクリックします。



ログオフが完了すると、次の画面が表示されます。



● メールボックスに暗証番号を設定する

自分のメールボックスに録音されたメッセージを他人が取り出したりできないようにするための暗証番号を設定できます。

メールボックスを使い始める前に、暗証番号が設定されているかを確認し、設定されていない場合は、必ず暗証番号を設定してください。すでに暗証番号が設定されている場合は、必要に応じて変更することもできます。設定した暗証番号は他人に知られないように注意してください。

MEMO

暗証番号は、0～9までの半角数字で、4～8桁で指定してください。

ここでは、CTstage アシスタントで、メールボックスの暗証番号を変更する手順について説明します。

メールボックスの暗証番号を設定または変更する

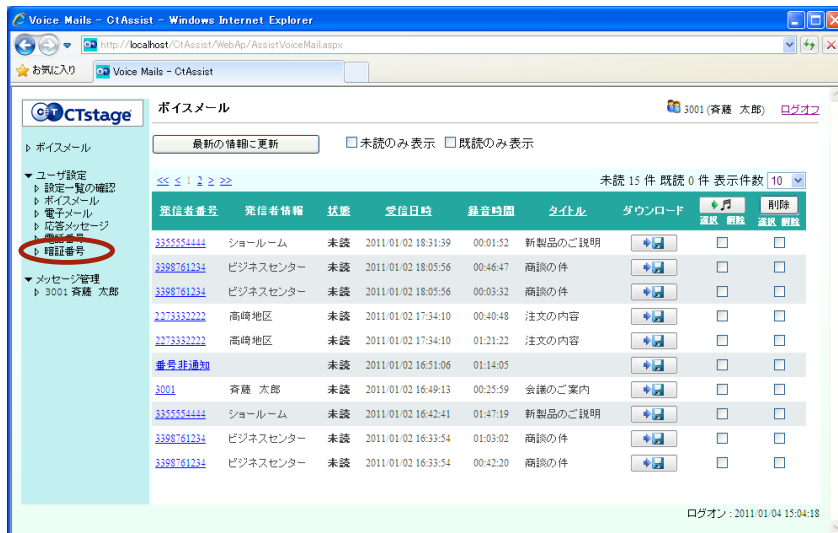
1

CTstage アシスタントを起動します。

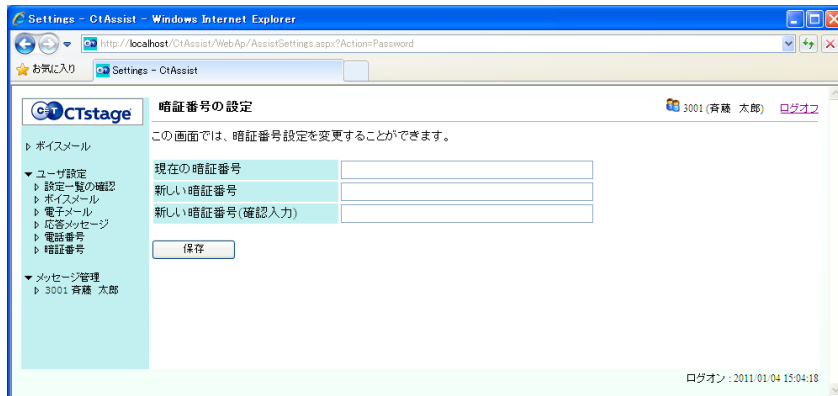
参照)「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(➡ P.43)

2

左メニューから[ユーザ設定] - [暗証番号]をクリックします。



[暗証番号の設定] 画面が表示されます。



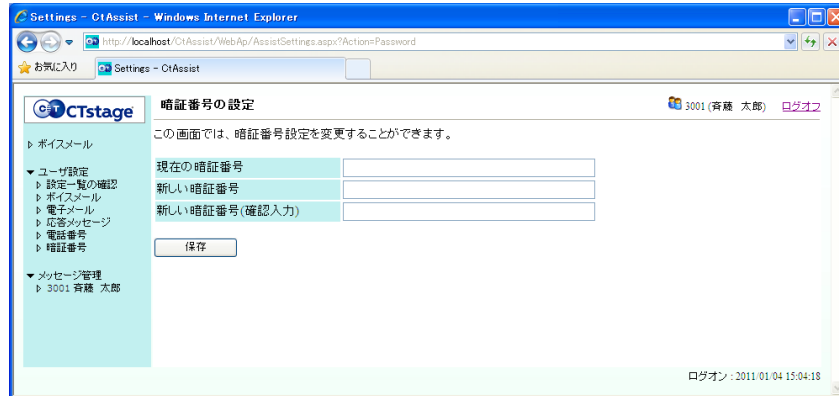
3

[新しい暗証番号] 欄に設定する暗証番号を入力します。

- 暗証番号を初めて設定する場合は、[新しい暗証番号] 欄に暗証番号を入力します。
- 暗証番号を変更する場合は、現在使用している暗証番号を [現在の暗証番号] 欄に、変更後の暗証番号を [新しい暗証番号] 欄にそれぞれ入力します。

MEMO

現在使用している暗証番号を忘れたときは、管理者にお問い合わせください。

**MEMO**

入力した暗証番号は、画面上は●として表示されます。

4

[新しい暗証番号(確認入力)] 欄に、新しい暗証番号をもう一度入力します。

5

[保存] をクリックします。

4-2 録音されたメッセージを再生 / 検索 / 転送する

メールボックスに録音(保存)されているメッセージを CTstage アシスタントで再生、検索、削除、転送(コピー)、移動することができます。ここでは、以下の操作方法について説明します。

- 「録音された通話録音や伝言メッセージを再生する」(→ P.48)
- 「録音されたメッセージにタイトル / コメントを付ける」(→ P.51)
- 「録音されたメッセージを検索する」(→ P.53)
- 「他のメールボックスにメッセージを転送する」(→ P.56)
- 「録音メッセージを削除する」(→ P.59)

録音された通話録音や伝言メッセージを再生する

CTstage アシスタントを使って、メールボックスに録音(保存)されているメッセージを聞くことができます。メールボックス内の録音メッセージは、音声ファイルとして保存されています。CTstage アシスタントでメッセージを再生する場合、以下の2つの方法があります。

- 「録音メッセージをパソコンで再生する」(→ P.48)
- 「録音メッセージを電話機で再生する」(→ P.49)

MEMO

パソコンで音声ファイルを再生するには、別途、音声再生ソフトウェア(サウンド再生ツールなど)が必要です。


録音メッセージをパソコンで再生する

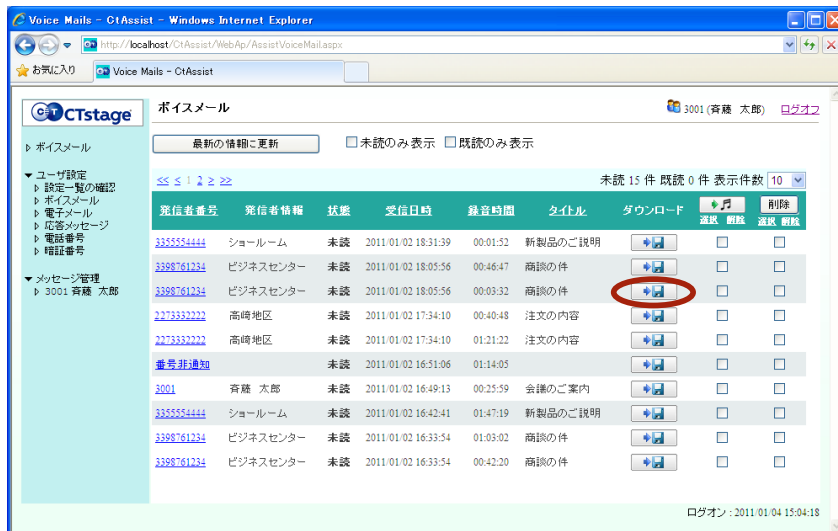
1

CTstage アシスタントを起動します。

参照) 「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(→ P.43)

2

[ダウンロード]列で、目的のメッセージのダウンロードボタン  をクリックします。

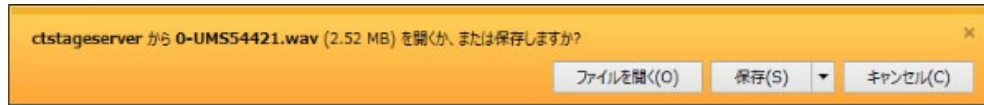


選択したメッセージ(ボイスメール)の音声ファイルが、メールセンターからパソコンへダウンロードされ、画面の下部に通知バーが表示されます。

MEMO

メッセージ一覧の行は、メッセージごとにグレーまたは白で示されます。同じ色の行が連続して表示されている場合は、1つのメッセージが複数の録音(例えば通話録音の途中での保留や転送による録音の分割)で構成されていることを示しています。

- 3** その場でメッセージを再生する場合は[ファイルを開く]をクリックします。
パソコンのローカルディスクに保存してから再生する場合は、[保存]をクリックしてファイルを保存してから、音声ファイル再生アプリケーションなどで開きます。





Windows で指定されているプレーヤーで、メッセージが再生されます。

録音メッセージを電話機で再生する


MEMO

この機能を使用するには、あらかじめメッセージを再生する電話機(電話番号)を指定しておく必要があります。メッセージを再生する電話機の指定方法については、「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(→ P.71)を参照してください。

- 1** CTstage アシスタントを起動します。
参照》「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(→ P.43)
- 2** 目的のメッセージの再生チェックボックス( の列)を選択し、再生ボタン  をクリックします。



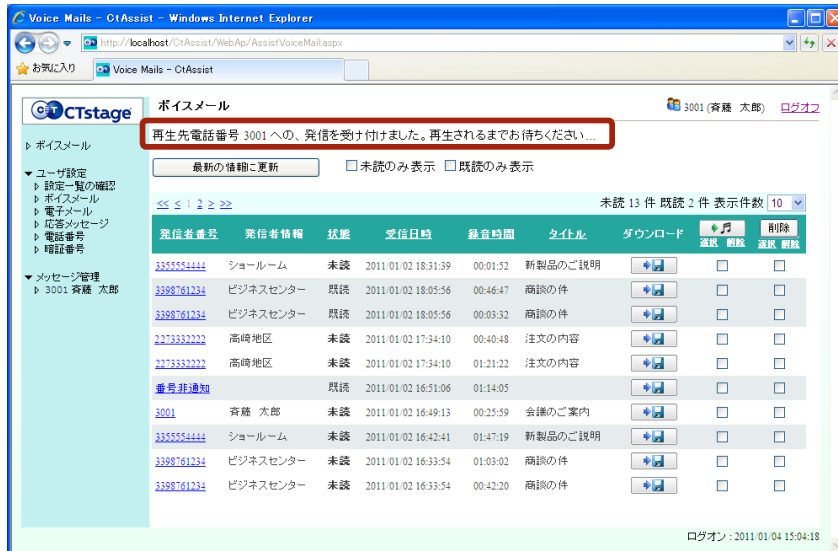
MEMO

 の下にある[選択]リンクをクリックすると、表示されているすべてのメッセージのチェックボックスがチェックされます。
[解除]リンクをクリックすると、表示されているすべてのメッセージのチェックがはずれます。

3 確認メッセージが表示されたら、[OK]をクリックします。



指定した電話機(電話番号)からの再生を受け付けたことを示すメッセージが表示されます。指定方法は「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(➡ P.71)を参照してください。



指定した電話機に着信します。

4 着信した電話機の手話器を上げます。

ガイダンスに従って電話機のボタンを操作します(ダイヤルボタンを押す場合は、4、6、8、0以外のボタンを押してください)。

選択したメッセージの再生が開始され、電話機で聞くことができます。

すべてのメッセージの再生が終わると、通話は自動的に切断されます。

録音されたメッセージにタイトル / コメントを付ける

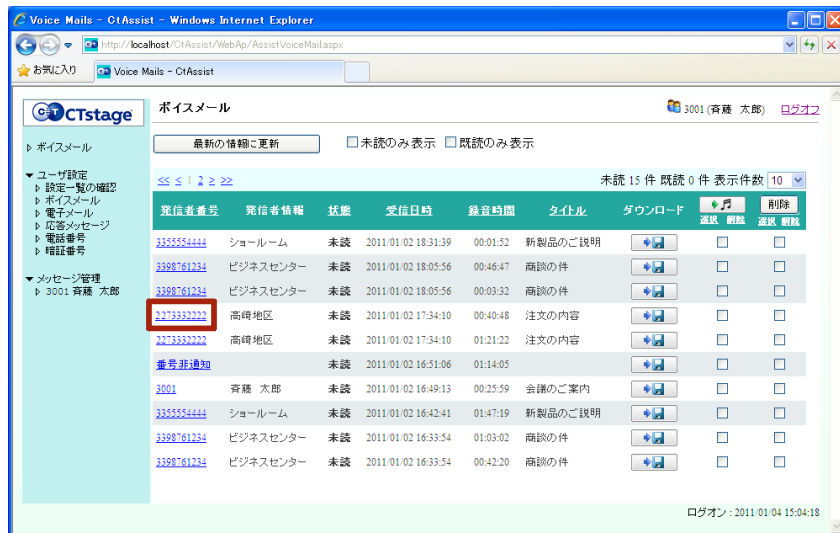
CTstage アシスタントを使って、保存されたメッセージごとに内容や件名(タイトル / コメント)などの情報を追加することができます。メッセージにタイトル / コメントなどを追加することでメッセージの検索時に便利に利用することができます。

MEMO

タイトル / コメントは、通話録音時や伝言メッセージの録音時に、多機能電話機から (コメント) を押すことにより、録音メッセージに付加することもできます。電話機から操作した場合は、各 (コメント) にあらかじめ登録されたタイトル / コメント情報のみ、付加することができます。

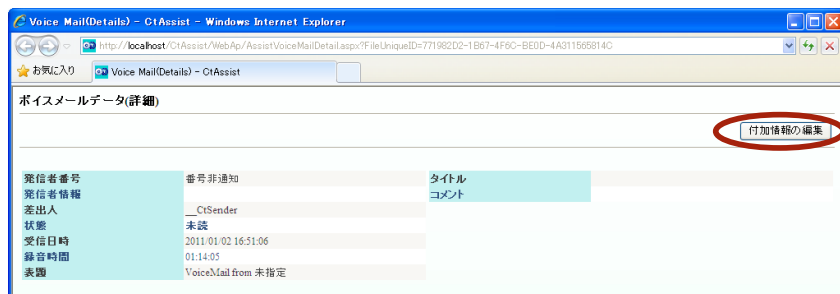
録音されたメッセージにタイトルやコメントを追加する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照》「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(▶ P.43)
- 2 [発信者番号] (CTstage 6Mi Lite では[差出人])列で、目的のメッセージの発信者番号リンクをクリックします。



選択したメッセージ(ボイスメール)の[ボイスメールデータ(詳細)]画面がポップアップ表示されます。

- 3 [付加情報の編集]をクリックします。



[ボイスメールデータ(詳細)]画面が別のウィンドウで開きます。

4 [タイトル]と[コメント]に、選択したメッセージに対応するタイトルやコメントを入力します。

ボイスメールデータ(詳細)

保存 キャンセル

発信者番号	番号非通知	タイトル	緊急連絡 1
発信者情報		コメント	緊急の連絡です。
差出人	CTSender		
状態	未読		
受信日時	2011/01/02 16:51:06		
録音時間	01:14:05		
表題	VoiceMail from 未指定		

MEMO

タイトルは半角 / 全角 40 文字以内、コメントは半角 / 全角 255 文字以内で入力してください。入力文字なし (0 文字) の状態は、タイトルやコメントがない状態です。すでに登録されているタイトル / コメントを削除する場合は、欄内の文字を削除して空の状態にしてください。また、入力文字数が多くなっても、途中で改行を入れないでください。

5 [保存] をクリックしたあと、ウィンドウの右上の [X] をクリックして、[ボイスメールデータ (詳細)] 画面を閉じます。

MEMO

[キャンセル] をクリックすると処理を中止できます。

6 元の画面で、[最新の情報に更新] をクリックします。

手順 4 で入力したタイトル情報が反映されます。

CTstage ボイスメール

3001 (斉藤 太郎) ログアウト

最新の情報に更新 未読のみ表示 既読のみ表示

未読 15 件 既読 0 件 表示件数 10

発信者番号	発信者情報	状態	受信日時	録音時間	タイトル	ダウンロード	削除
3355554444	ショールーム	未読	2011/01/02 18:31:39	00:01:52	新製品のご説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 18:05:56	00:46:47	商談の件	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 18:05:56	00:03:32	商談の件	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2273333333	高碑地区	未読	2011/01/02 17:34:10	00:40:48	注文の内容	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2273333333	高碑地区	未読	2011/01/02 17:34:10	01:21:22	注文の内容	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
番号非通知		未読	2011/01/02 16:51:06	01:14:05	緊急連絡 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3001	斉藤 太郎	未読	2011/01/02 16:49:13	00:25:59	会議のご案内	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3355554444	ショールーム	未読	2011/01/02 16:42:41	01:47:19	新製品のご説明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 16:33:54	01:03:02	商談の件	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 16:33:54	00:42:20	商談の件	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ログイン: 2011/01/04 15:23:35

7 入力したコメント情報を確認するには、再度 [発信者番号] (CTstage 6Mi Lite では [差出人]) 列で発信者番号リンクをクリックします。

[ボイスメールデータ (詳細)] 画面が表示されます。コメント欄をご確認ください。

MEMO

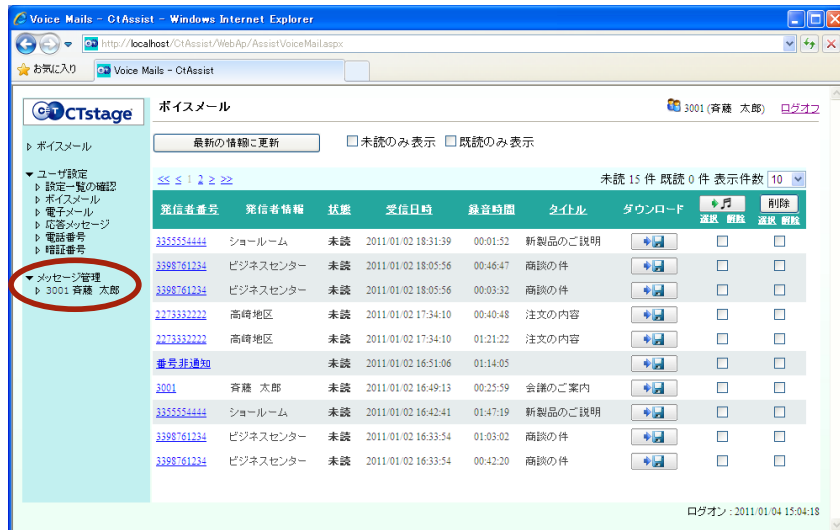
タイトル / コメントはメッセージを転送 (コピー) した際にも、そのメッセージに自動的に反映されます。

録音されたメッセージを検索する

CTstage アシスタントを使って、録音(保存)されたメッセージを検索することができます。

録音メッセージを検索する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照)「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(➡ P.43)
- 2 左メニューの [メッセージ管理] の下にあるメールボックス番号 (ユーザ番号) をクリックします。



[メッセージ管理] 画面が表示されます。



3 [メッセージ管理] 画面で、以下の方法で検索条件を入力します。

■ 簡易検索の場合

[検索文字列] 欄に検索条件を入力します。



MEMO

[検索文字列] 欄の検索条件には、所属ユーザ番号(メッセージが保存されているメールボックス番号)、メッセージの差出人(名前や内線番号)、表題(電子メール転送時の表題)、タイトル、コメントのいずれかを入力します。

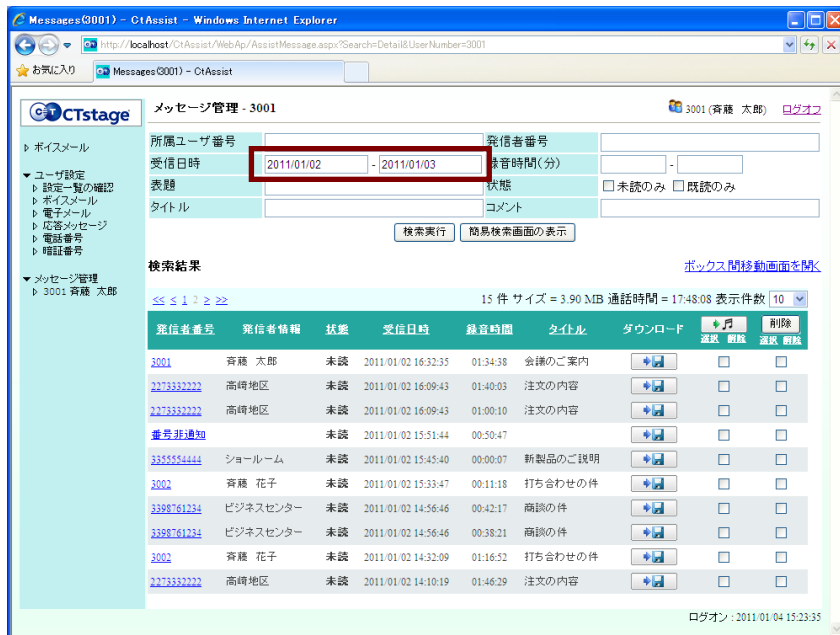
※所属ユーザ番号での検索は、CTstage アシスタントに、ユニファイドグループの管理者ユーザでログインしたときのみ可能です。この場合、管理者と同じユニファイドグループに所属するユーザを検索することができます(他のユニファイドグループに所属するユーザは検索できません)。ユニファイドグループについては、管理者にお問い合わせください。

■ 詳細検索の場合

[詳細検索画面の表示] をクリックします。

検索条件を発信者のユーザ番号(内線番号およびメールボックス番号)や受信日時などの詳細な条件で指定できます。

※下の図は受信日時で条件を絞り込んでいるところです。



検索項目	内容
所属ユーザ番号	メッセージが保存されているメールボックス番号
発信者番号	メッセージの差出人のユーザ番号またはメールセンタ(9999)
受信日時	受信日時の範囲。 範囲指定の片方を空欄にすることで、指定日時より前に開始された通話、指定日時よりあとに終了した通話などの検索も可能です。 形式: 「YYYY/MM/DD」または「YYYY/MM/DD HH:mm:ss」 例 : 2011年3月21日の12時20分35秒の場合 2011/03/21 12:20:35 ※日時として認識できない文字列を指定した場合、日時の条件は無視されてしまいますので、ご注意ください。
録音時間(分)	メッセージの録音時間(分)の範囲。 範囲指定の片方を空欄にすることで、指定時間以内、指定時間以上などの検索も可能です。 ※「秒」では検索できません。
表題	メッセージを電子メールに添付して転送するときのタイトル(表題)
状態	[未読のみ]または[既読のみ]のいずれかを選択(チェック)します。 選択すると同時に選択したメッセージのみが表示されます。
タイトル	ボイスメールに付加されたタイトルまたはコメント
コメント	参照)「録音されたメッセージにタイトル/コメントを付ける」(→P.51)

4 [検索実行]をクリックします。

The screenshot shows the 'Messages (3001) - CtAssist - Windows Internet Explorer' window. The search criteria are: 所属ユーザ番号 (empty), 発信者番号 (empty), 受信日時 (2011/01/02 - 2011/01/03), 録音時間(分) (empty), 表題 (empty), 状態 (未読のみ), and タイトル (empty). The '検索実行' button is circled in red. Below the search criteria, the search results are displayed in a table with columns: 発信者番号, 発信者情報, 状態, 受信日時, 録音時間, タイトル, ダウンロード, 追加, 削除. The results show 15 items, with the first few being unread messages from various senders like 高崎地区 and ショールーム.

条件と一致する録音メッセージが一覧表示されます。

※上記画面は、詳細検索の場合です。

● 他のメールボックスにメッセージを転送する

CTstage アシスタントを使って、保存されているメッセージを他のメールボックスに転送(コピーまたは移動)することができます。

注意

この操作では、転送先のメールボックス番号(ユーザ番号)の最大受信件数の設定に関係なく、転送(コピーまたは移動)を実行できます。

録音メッセージを他のメールボックスに転送(コピーまたは移動)する

1

CTstage アシスタントを起動します。

参照)「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(→ P.43)

2

左メニューの[メッセージ管理]の下にあるメールボックス番号(ユーザ番号)をクリックします。

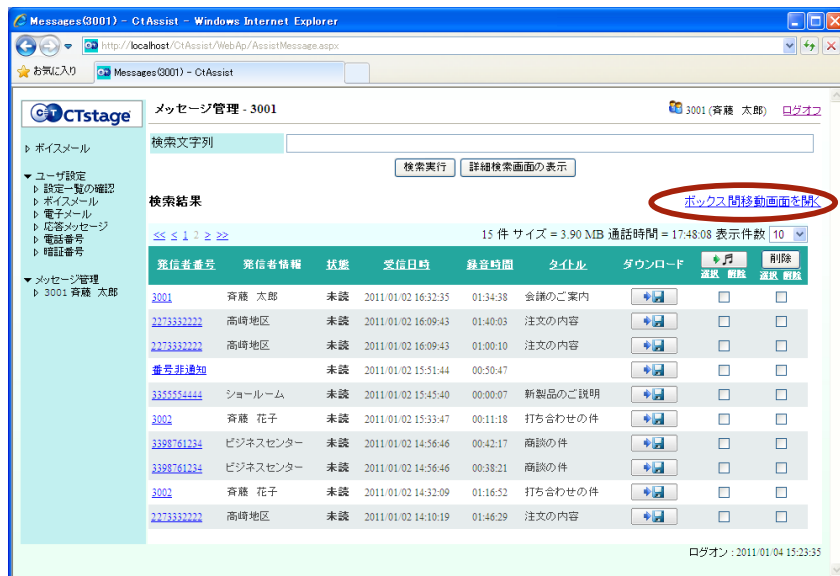


[メッセージ管理] 画面が表示されます。

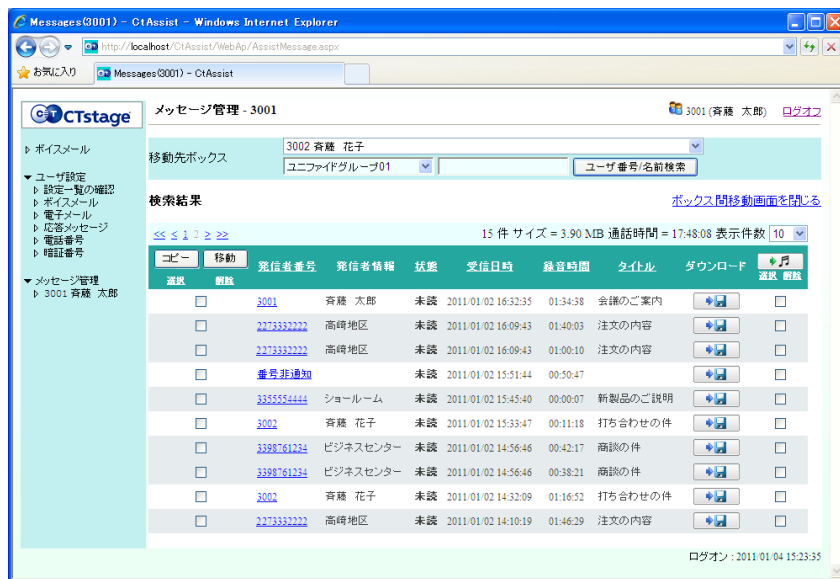


3 転送するメッセージを検索して、一覧表示します。
参照「録音されたメッセージを検索する」(→ P.53)

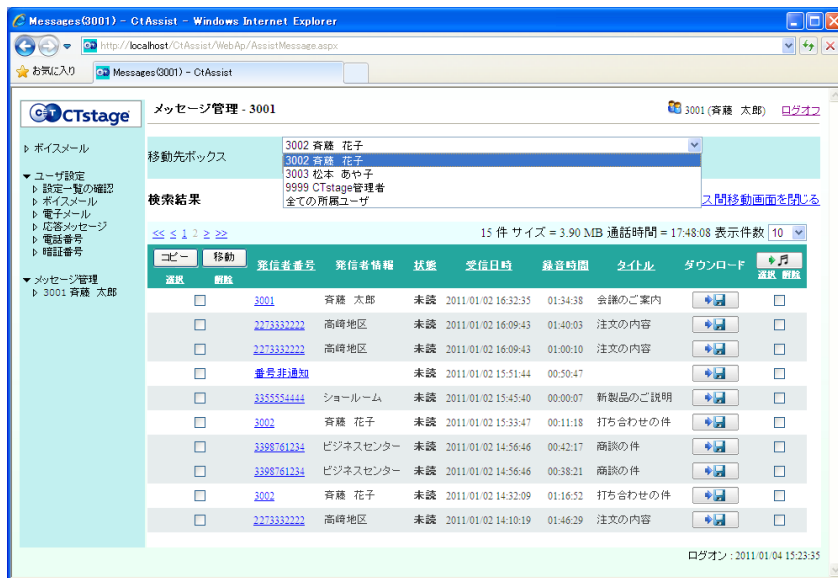
4 [ボックス間移動画面を開く]をクリックします。



[移動先ボックス]の各欄が表示されます。



5 [移動先ボックス]で、転送先のメールアドレス番号(ユーザ番号)を選択します。

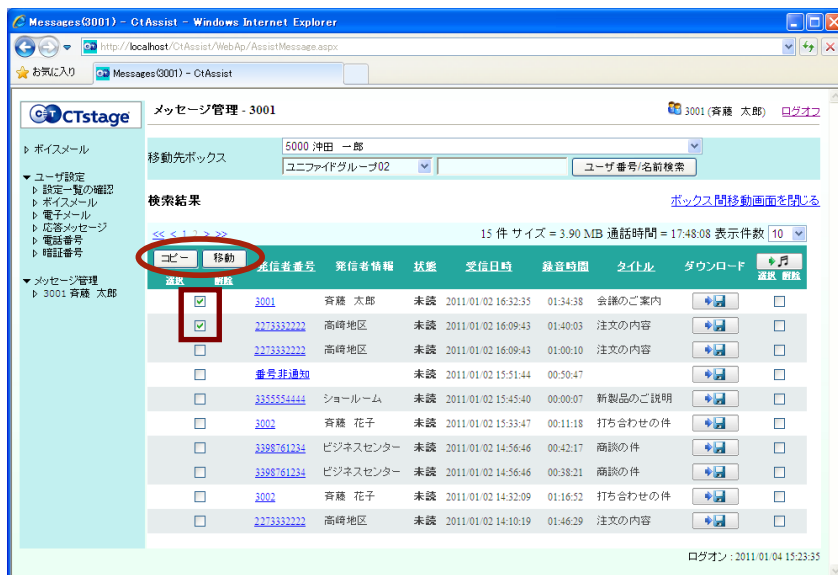


MEMO

ユニファイドグループ名のドロップダウンリストから、設定済みのユニファイドグループを選択すると、ボックス内で選択可能なユーザをグループ別に絞り込むことができます。ユニファイドグループについては、管理者にお問い合わせください。

また、検索フィールドにメールアドレス番号(ユーザ番号)の一部を入力して[ユーザ番号 / 名前検索]をクリックすると、入力した条件に一致するメールアドレス番号(ユーザ番号)を検索できます。

6 転送するメッセージのチェックボックスをチェックして、[コピー]または[移動]をクリックします。



7 次の画面が表示されるので、[OK]をクリックします。



[コピー]をクリックした場合



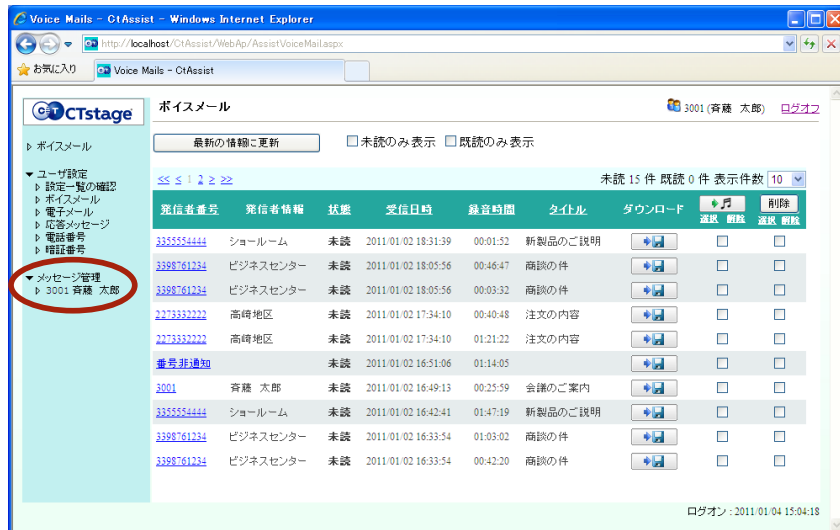
[移動]をクリックした場合

録音メッセージを削除する

CTstage アシスタントを使って、録音(保存)されているメッセージを削除することができます。

保存されているメッセージを削除する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照)「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(⇒ P.43)
- 2 左メニューの [メッセージ管理] の下にあるメールボックス番号 (ユーザ番号) をクリックします。



[メッセージ管理] 画面が表示されます。



3 目的のメッセージを検索します。

参照「録音されたメッセージを検索する」(⇒ P.53)

検索したメッセージが一覧表示されます。下の図は、「既読のみ」を検索条件に設定したときの画面です。この場合、再生が終わっているメッセージのみが一覧表示されます。

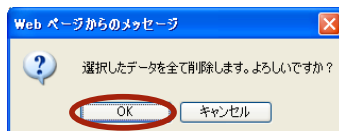


4 画面の右側にある[削除]列で、削除するメッセージのチェックボックスをチェックして、[削除]をクリックします。



- [削除] ボタンの下にある [選択] リンクをクリックすると、表示されているすべてのメッセージの削除チェックボックスがチェックされます。この状態で [削除] をクリックすると、表示されているメッセージをすべて一度に削除することができます。
- [削除] リンクをクリックすると、表示されているすべてのメッセージのチェックボックスのチェックがはずれます。

5 削除の確認メッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。



選択したメッセージが削除されます。

4-3 メールボックスの各種設定を確認 / 設定する

CTstage アシスタントで、メールボックスに関する各種設定項目を確認 / 設定することができます。ここでは、以下の設定項目の内容の確認と、設定変更の方法について説明します。

- [電子メールへの自動転送] (録音メッセージの電子メールへの自動転送)
- [最大件数を越えた場合] (録音メッセージの数が最大限度を越えた場合の処理)
- [読み上げ順] (メッセージ再生時の順序)
- [受信時の処理] (新しいメッセージが録音されたときの通知方法)
- [着信設定] (不在時の電話の着信設定)
- [通話録音時の保存先ユーザ番号]
- [応答メッセージ]
- [通知先電話番号]
- [再生先電話番号 (アシスタント)]
(CTstage アシスタント (パソコン) から操作したときにメッセージを再生する電話機の電話番号)
- [再生先電話番号 (モバイルアシスタント)] (※)
(CTstage モバイルアシスタント (携帯電話) から操作したときにメッセージを再生する電話機の電話番号)
- [発信者番号情報 (メールボックスのアクセス先)]
- [発信者番号情報 (通話録音時の保存先)]

■ 内容の確認

「メールボックスの設定内容を確認する」(➡ P.62)

■ 設定変更の方法

「ボイスメールの各種設定を変更する」(➡ P.65)

「メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する」(➡ P.79)

「留守番電話機能の応答メッセージを変更する」(➡ P.69)

「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(➡ P.71)

「トールサーバ着信や折返し自動発信を利用する」(➡ P.73)

「特定の電話番号から着信したときの動作を設定する」(➡ P.76)

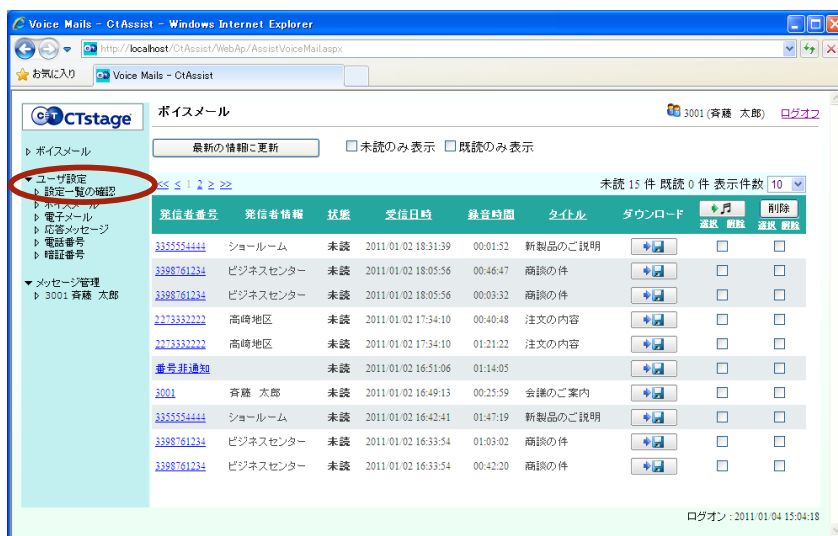
(※)CTstage モバイルアシスタントは CTstage 6Mi Lite では未サポートです。

● メールボックスの設定内容を確認する

CTstage アシスタントで、メールボックスの設定内容を一覧表示して確認できます。

メールボックスの設定情報を確認する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照》「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(➡ P.43)
- 2 左メニューから [ユーザ設定] - [設定一覧の確認] をクリックします。



[設定一覧の確認] 画面が表示されます。

- 3 [設定一覧の確認] 画面で、設定内容を確認します。

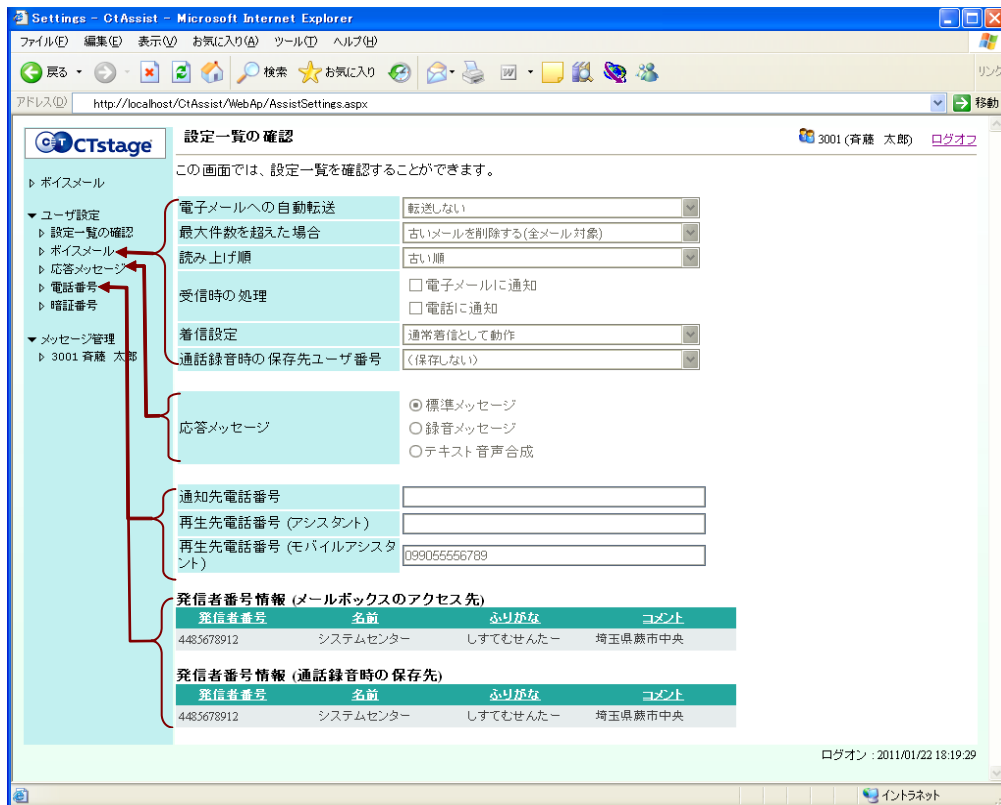
MEMO

[設定一覧の確認] 画面の項目と内容については、次ページの説明を参照してください。

[設定一覧の確認] 画面

MEMO

この画面では設定内容を編集することはできません。対応する左メニューから編集してください。



項目	内容	参照先
[電子メールへの自動転送]	メールボックスにメッセージが録音されたときに、音声ファイルとして電子メールに添付して転送するかどうか、また転送する場合は元のメッセージをメールボックスに残しておくかどうか指定されています。	「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65) 「メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する」(⇒ P.79)
[最大件数を越えた場合]	保存されているメッセージの数が、設定されている最大数を越えた場合に、新しく録音されたメッセージをどのように処理するかが指定されています。	「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)
[読み上げ順]	メッセージを再生する(読み上げる)ときに、どのような順序で再生するかが指定されています。	「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)
[受信時の処理]	メールボックスに新しいメッセージが録音された(ボイスメールが受信・着信した)とき、どのような方法で通知を受け取るかを指定します。(電子メールに通知、電話機に通知、など)	「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)
[着信設定]	外出先からメールセンターに電話をかけたときの処理が設定されています。(通常着信、トールサービス着信、折返し自動発信、の処理が選べます)	「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)
[通話録音時の保存先ユーザ番号]	通話録音時の保存先のメールボックス番号(=ユーザ番号)が設定されています。	「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)
[応答メッセージ]	留守番電話機能を利用するときに流れる応答メッセージの種類が設定されています。	「留守番電話機能の応答メッセージを変更する」(⇒ P.69)
[通知先電話番号]	メールボックスにメッセージが録音されたことを通知する電話番号が設定されています。	「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(⇒ P.71)
[再生先電話番号(アシスタント)]	CTstage アシスタントでメッセージを再生するとき、パソコンからではなく電話機から聞くときの、電話番号が指定されています。	「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(⇒ P.71)

項目	内容	参照先
[再生先電話番号(モバイルアシスタント)](※)	CTstage モバイルアシスタント(※)でメッセージを再生するとき、パソコンからではなく電話機(携帯電話等)から聞くときの、電話番号が指定されています。	「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(➡ P.71)
[発信者番号情報(メールボックスのアクセス先)]	トールサーバ着信、折返し自動発信を利用する際の発信者番号を特定する電話番号が指定されています。	「トールサーバ着信や折返し自動発信を利用する」(➡ P.73)
発信者番号情報(通話録音時の保存先)	特定の発信者番号からの通話録音内容が、このメールボックスに自動的に保存されるようにする場合、発信者の発信者番号が指定されています。	「特定の電話番号から着信したときの動作を設定する」(➡ P.76)
(※)CTstage モバイルアシスタントは CTstage 6Mi Lite では未サポートです。		

ボイスメールの各種設定を変更する

CTstage アシスタントから、次の 6 つの設定項目を変更する方法について説明します。

- [電子メールへの自動転送] (録音メッセージの電子メールへの自動転送)
- [受信時の処理] (新しいメッセージが録音されたときの通知方法)
- [最大件数を越えた場合] (録音メッセージの数が最大限度を越えた場合の処理)
- [読み上げ順] (メッセージ再生時の順序)
- [着信設定] (不在時の電話の着信設定)
- [通話録音時の保存先ユーザ番号]

注意

メッセージが録音された通知(ボイスメールの着信通知)や録音メッセージの電子メールへの転送を指定する場合は、通知先 / 転送先の情報が指定されていないと、通知や転送はされないので注意してください。

参照》「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(➡ P.71)

参照》「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」の「ボイスメール着信時の着信通知を設定 / 解除する」(➡ P.32)

CTstage アシスタントでボイスメールの設定を変更します。

ボイスメールの設定を変更する

1 CTstage アシスタントを起動します。

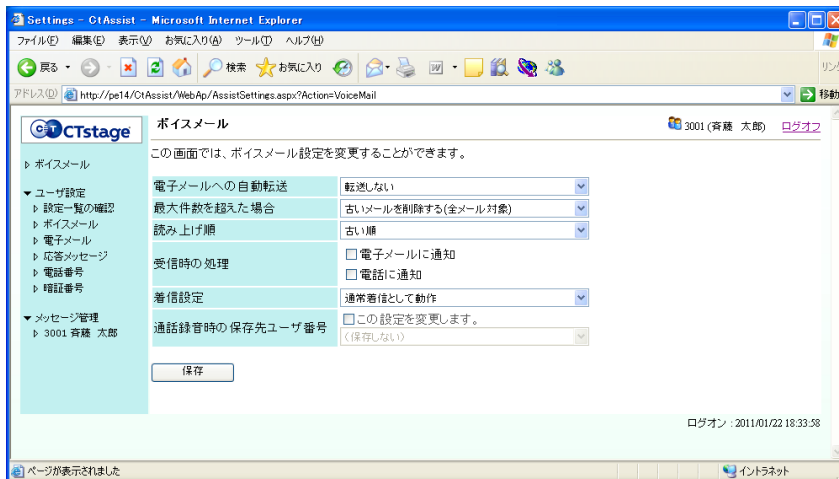
参照》「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(➡ P.43)

2 左メニューから [ユーザ設定] - [ボイスメール] をクリックします。

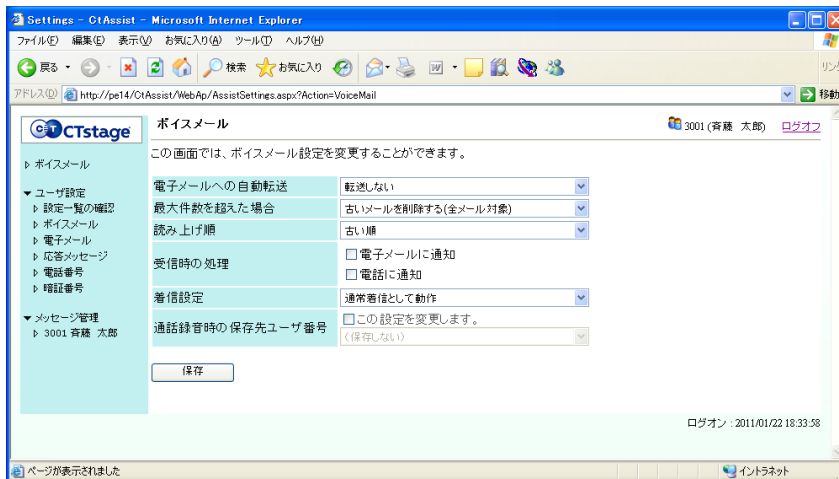
The screenshot shows the CTstage Voice Mail interface in a web browser. The left sidebar menu has 'ボイスメール' (Voice Mail) selected, which is circled in red. The main content area displays a list of voice mail messages with columns for '発信者番号' (Sender Number), '発信者情報' (Sender Information), '状態' (Status), '受信日時' (Received Date/Time), '録音時間' (Recording Time), 'タイトル' (Title), 'ダウンロード' (Download), '削除' (Delete), and '履歴' (History). The list includes messages from 'ショールーム', 'ビジネスセンター', and '高碑地区'.

発信者番号	発信者情報	状態	受信日時	録音時間	タイトル	ダウンロード	削除	履歴
335554444	ショールーム	未読	2011/01/02 18:31:39	00:01:52	新製品のご説明			
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 18:05:56	00:46:47	商談の件			
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 18:05:56	00:03:32	商談の件			
2273332222	高碑地区	未読	2011/01/02 17:34:10	00:40:48	注文の内容			
2273332222	高碑地区	未読	2011/01/02 17:34:10	01:21:22	注文の内容			
番号非通知		未読	2011/01/02 16:51:06	01:14:05				
3001	斉藤 太郎	未読	2011/01/02 16:49:13	00:25:59	会議のご案内			
335554444	ショールーム	未読	2011/01/02 16:42:41	01:47:19	新製品のご説明			
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 16:33:54	01:03:02	商談の件			
3398761234	ビジネスセンター	未読	2011/01/02 16:33:54	00:42:20	商談の件			

[ボイスメール] 画面が表示されます。



3 [ボイスメール] 画面で、必要に応じて、各項目を選択します。



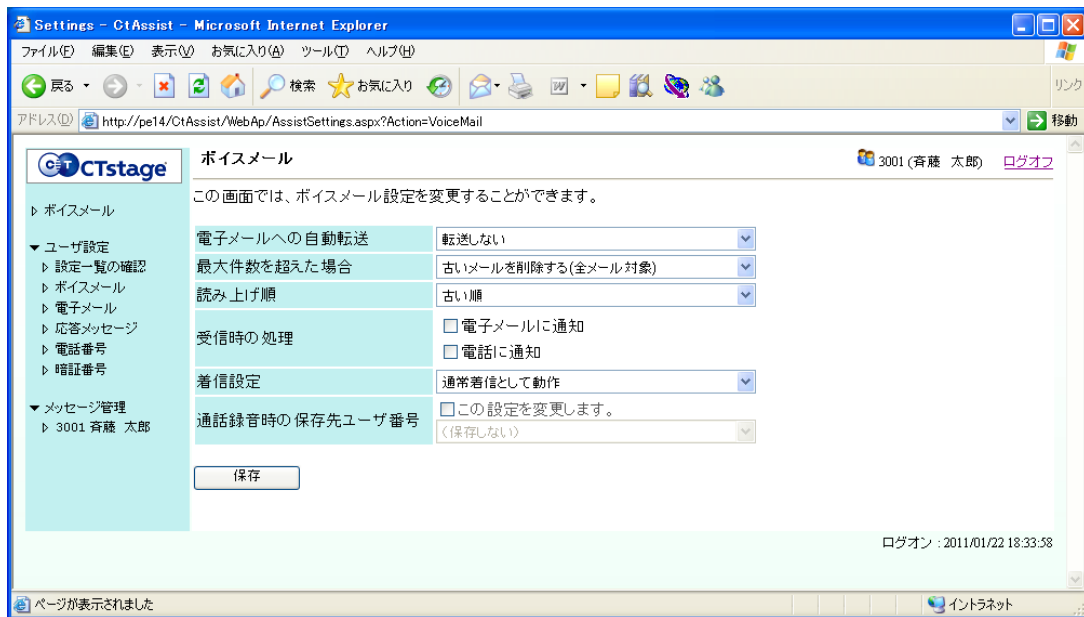
MEMO

[ボイスメール] 画面の設定項目と内容については、次ページの説明を参照してください。

4 [保存] をクリックします。

入力した設定が保存されます。

[ボイスメール]画面



[電子メールへの自動転送]

この設定項目では、メールボックスにメッセージが録音されたとき、メッセージを音声ファイルとして電子メールに添付して転送するかどうか、また転送する場合は元のメッセージをメールボックスに残しておくかどうかを指定します。

MEMO

「電子メールへの自動転送」は、CTstage オペレーションセンタ (OPC) で、[メールシステム] に [使用する] が選択されている場合に設定できます。OPC の設定については、管理者にお問い合わせください。また、OPC でメールシステムが使用できるように設定されている場合は、CTstage アシスタントで電子メールアドレスとサーバの設定 (変更) が可能です。

参照) 「メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する」(➡ P.79)

選択項目	設定内容
[転送しない]	録音されたメッセージをメールボックスに保存します。
[転送する (元のメールは残す)]	録音されたメッセージを音声ファイルとして電子メールに添付して転送し、元のメッセージもメールボックスに保存します。 この項目を選択した場合は、このあと、電話機、CTstage アシスタント (モバイルアシスタント (※))、メールクライアントのどれからでも、保存された録音メッセージを再生することができます。
[転送する (元のメールは削除)]	録音されたメッセージを音声ファイルとして電子メールに添付して転送し、元のメッセージはメールボックスから削除します。 この項目を選択した場合は、このあと、メッセージはメールクライアントからしか再生できないようになります。以後、電話機や CTstage アシスタント (モバイルアシスタント (※)) から再生することはできません。また、以下の [受信時の処理] の設定項目は、無効になります。

(※)CTstage モバイルアシスタントは CTstage 6Mi Lite では未サポートです。

[最大件数を越えた場合]

この設定項目では、メールボックスに保存されているメッセージの数が、設定されている最大限度数を越えた場合、メッセージが新しく録音されたときに、メッセージをどのように処理するかを指定します。

選択項目	設定内容
[システム設定に従う]	これを選択すると、管理者が CTstage オペレーションセンタ (OPC) の [ボイスメール管理] で設定した内容に従って、メッセージが処理されます。OPC の設定については、管理者にお問い合わせください。
[新規メールを受け付けない]	これを選択すると、新しいメッセージを受け付けず、保存されません。
[古いメールを削除する (既読対象)]	再生済み (既読) のメッセージがあるときのみ、古い既読メッセージを削除して、新しいメッセージを保存できるようにします。
[古いメールを削除する (全メール対象)]	再生済み (既読) か未再生 (未読) かを問わず、古いメッセージを削除して、新しいメッセージを保存できるようにします。

【読み上げ順】

この設定項目では、録音メッセージを再生（読み上げ）するとき、どのような順序で再生するかを指定します。

選択項目	設定内容
[システム設定に従う]	これを選択すると、管理者がCTstage オペレーションセンタ(OPC)の[ボイスメール管理]で設定した内容に従って、メッセージが再生されます。OPCの設定については、管理者にお問い合わせください。
[新しい順]	これを選択すると、新しいメッセージから先に再生されます。
[古い順]	これを選択すると、古いメッセージから先に再生されます。

【受信時の処理】

この設定項目では、メールボックスに新しいメッセージが録音された(ボイスメールを受信 / 着信した)とき、どのような方法で通知を受け取るかを指定します。

選択項目	設定内容
[電子メールに通知]	指定した電子メールアドレスに、メールボックスにメッセージが録音されたことが通知されます。
[電話に通知]	あらかじめ指定した電話番号の電話に、メールボックスにメッセージが録音されたことが通知されます。電話に应答すると、メッセージが届いていることを知らせるアナウンスが聞こえます。

MEMO

- [受信時の処理]の項目は、複数選択することができます。
- [電子メールに通知]は、CTstage オペレーションセンタ(OPC)で、[メールシステム]に[使用する]が選択されている場合に設定できます。OPCの設定については、管理者にお問い合わせください。また、メールシステムが使用できるように設定されている場合は、CTstage アシスタントで電子メールアドレスとサーバの設定(変更)が可能です。
参照「メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する」(▶ P.79)
- [電話に通知]を選択する前に、CTstage アシスタントの左メニューの[ユーザ設定] - [電話番号]の[通知先電話番号]に、通知先の電話番号を設定してください。この項目は、[通知先電話番号]に電話番号が設定されている場合に利用できます。
参照「着信通知先や再生先の電話番号を指定する」(▶ P.71)

【着信設定】

外出先からメールボックスへの新着メッセージがあるかどうかを確認するために、メールセンターに電話をかけたときの動作を設定します。

選択項目	設定内容
[通常着信として動作]	これを選択すると、外出先からメールセンターに電話をかけた際に、新着のメッセージがあるかないかに関係なくメールセンターが応答します。
[トールサーバ着信として動作]	これを選択すると、外出先からメールセンターに電話をかけた際に、新着のメッセージがない場合はメールセンター側で一定時間応答しないようになり、電話料金がかからないようになります。
[折返し自動発信として動作]	これを選択すると、外出先からメールセンターに電話をかけた際に、新着のメッセージがある場合は、電話を切ったあとにメールセンター側から折返し電話がかかってきます。これにより、外出先で使用する電話側での電話料金がかからないようになります。

【通話録音時の保存先ユーザ番号】

通話録音内容の保存先のメールボックス番号 (= ユーザ番号) を設定します。

通話録音を行う内線番号と異なるメールボックスに通話録音内容を保存する場合に、[この設定を変更します]をチェックして、保存先のメールボックス番号を設定します。

また、通話録音内容を自動的にメールボックスに保存しないように、事前にメールボックスを[指定しない]という設定も選択できます (この設定を行うには、管理者にご相談ください)。

MEMO

[指定しない]を選択すると、通話録音開始時には保存先が決定されずに録音が始まります。この場合、録音ファイルを保存したいときだけ保存先メールボックスを指定することで、通話録音ファイルを残すことができます。録音中に、手動で保存先メールボックスを指定しなかった場合は、通話録音は保存されずに破棄されます。

留守番電話機能の応答メッセージを変更する

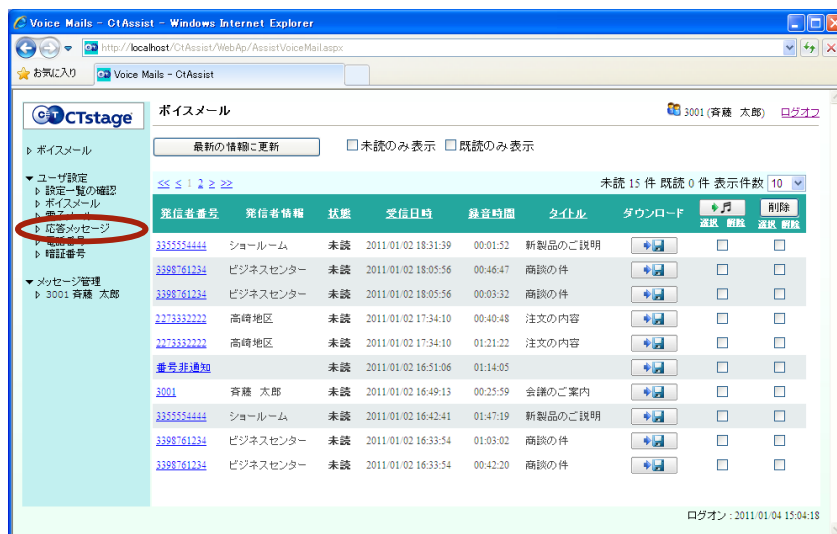
留守番電話機能(代行機能)を設定しているときの応答メッセージの種類を、CTstage アシスタントで変更することができます。

MEMO

留守番電話機能の利用と設定については、「2-3 留守番電話として利用する(不在代行)」の「留守番電話機能を設定する」(→ P.24)を参照してください。

応答メッセージを変更する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照》「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(→ P.43)
- 2 左メニューから「応答メッセージ」をクリックします。



[応答メッセージの設定] 画面が表示されます。

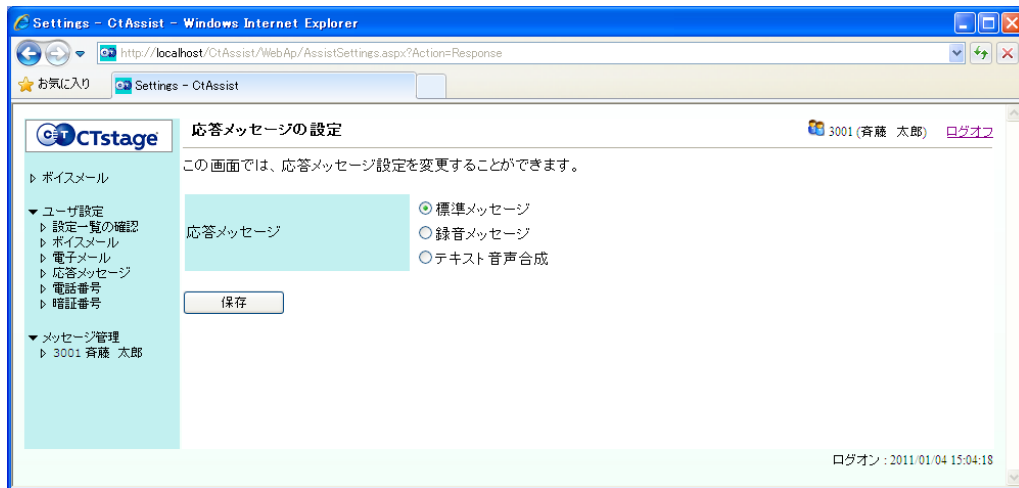
- 3 [応答メッセージの設定] 画面で、必要に応じて、各項目の設定内容を選択します。

MEMO

[応答メッセージの設定] 画面の設定項目と内容については、次ページの説明を参照してください。

- 4 [保存] をクリックします。

[応答メッセージの設定]画面



設定項目	設定内容
[標準メッセージ]	<p>この項目を選択すると、不在時の応答メッセージとして、「ただいま席を外しております…」というシステム標準の応答メッセージが再生されます。</p> <p>MEMO</p> <p>標準メッセージの内容は代行種別ごとに内容が異なります。詳細は以下の「標準メッセージで流れるメッセージと代行種別」を参照してください。</p>
[録音メッセージ]	<p>この項目を選択すると、不在時の応答メッセージとして、ユーザが電話機から録音した音声再生されます。</p> <p>MEMO</p> <p>電話機から録音されたメッセージがない場合は、この項目を選択しても標準メッセージが再生されます。</p>
[テキスト音声合成]	<p>この項目を選択すると、不在時の応答メッセージとして、テキスト入力欄に入力した文字列が音声合成で読み上げられます。選択するとテキスト入力欄が表示されるので、音声合成するメッセージを 255 文字以内で入力します。</p> <p>MEMO</p> <p>この項目を選択した場合は、テキスト入力欄に応答メッセージのメッセージ文を必ず入力してください。</p>

標準メッセージで流れるメッセージと代行種別

代行種別	応答メッセージ
[外線着信代行]	「ただいま担当者が席を外しているため電話に出ることができません。ご用件のある方は、発信音のあとにメッセージをお残してください」
[不在代行]	「ただいま席を外しております。発信音のあとにメッセージをどうぞ」
[話中代行]	「ただいま通話中のため、電話に出ることができません。ご用件のある方は、発信音のあとにメッセージをお残してください」
[圏外代行]	「ただいま電波の届かない場所にあるか、電源が入っていないためかかりません。ご用件のある方は、発信音のあとにメッセージをお残してください」
[応答遅延代行]	「ただいま電話に出ることができません。ご用件のある方は、発信音のあとにメッセージをお残してください」

MEMO

応答メッセージの録音と代行種別については、「2-3 留守番電話として利用する(不在代行)」の「応答メッセージを録音 / 設定する」(→ P.27)を参照してください。

● 着信通知先や再生先の電話番号を指定する

新しいメッセージが着信したことを知らせる、通知先の電話の番号を設定します。また、保存されているメッセージを CTstage アシスタントや CTstage モバイルアシスタント(※)で、電話機を使って再生するときの、再生先の電話機の電話番号を登録します。

参照》「ボイスメールの各種設定を変更する」(➡ P.65)の[受信時の処理] - [電話に通知]

参照》「録音メッセージを電話機で再生する」(➡ P.49)

参照》「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(➡ P.32)

(※)CTstage モバイルアシスタントは CTstage 6Mi Lite では未サポートです。

着信通知先や再生先の電話番号を設定する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
参照》「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(➡ P.43)
- 2 左メニューから[ユーザ設定] - [電話番号]をクリックします。



[電話番号の設定]画面が表示されます。

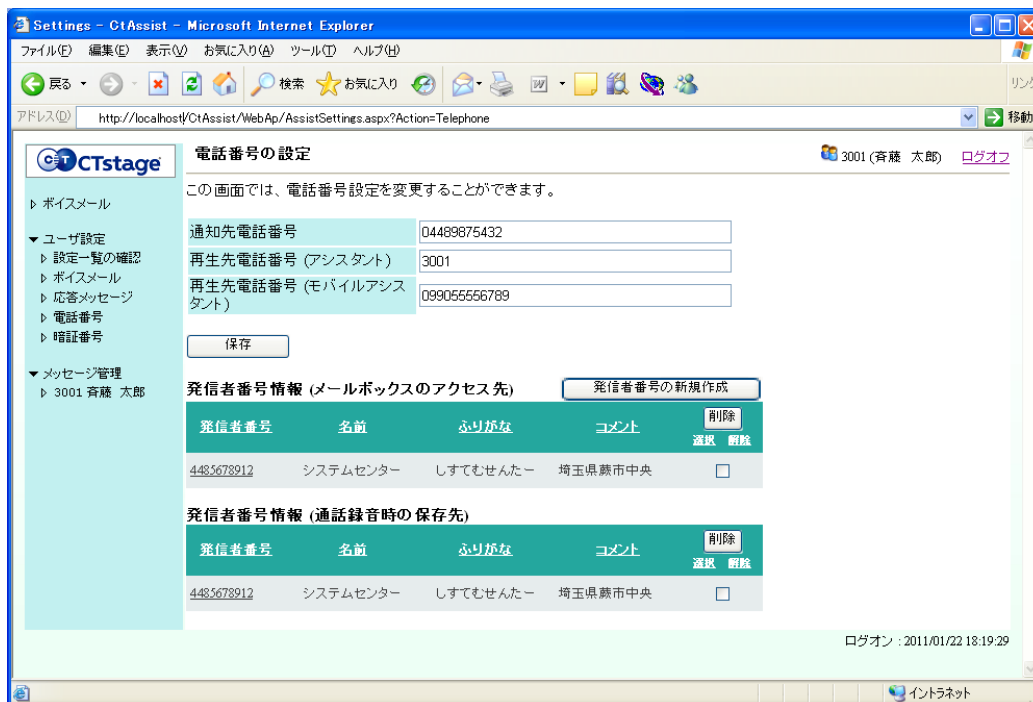
- 3 [電話番号の設定]画面で、メッセージの着信通知先や保存されているメッセージの再生先の電話番号を入力します。

MEMO

[電話番号の設定]画面の設定項目と内容については、次ページの説明を参照してください。

- 4 [保存]をクリックします。

[電話番号の設定] 画面



項目	設定内容
[通知先電話番号]	このメールボックスにメッセージが録音されたことを通知する電話番号を入力します (64 桁以内の数字)。 参照「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)の[受信時の処理] - [電話に通知]
[再生先電話番号 (アシスタント)]	CTstage アシスタントで、保存されているメッセージを再生するとき、指定した電話機から再生することができます。ここでは、再生するとき使用する電話機の電話番号を入力します (64 桁以内の数字)。 参照「録音メッセージを電話機で再生する」(⇒ P.49)
[再生先電話番号 (モバイルアシスタント)] (※)	CTstage モバイルアシスタント(※)で、保存されているメッセージを再生するとき、指定した電話機から再生することができます。ここでは、再生するとき使用する携帯電話等の電話番号を入力します (64 桁以内の数字)。 操作方法の詳細は、管理者にお問い合わせください。

(※)CTstage モバイルアシスタントは CTstage 6Mi Lite では未サポートです。

注意

通知先 / 再生先の設定で、社外の電話番号 (外線、携帯電話等) を指定する場合は、電話番号の先頭に自動選局特番 (例えば 0) を合わせて設定する必要があります。

特番の初期設定は「A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧」(⇒ P.82) を参照してください。

トールサーバ着信や折返し自動発信を利用する

トールサーバ着信や折返し自動発信の機能では、外出先からメールセンターに接続する電話機の電話番号によってメールボックスを特定しています。そのため、この機能を利用する前に、電話番号を登録しておく必要があります。ここでは、その設定方法について説明します。

参照「3-3 外出先からメッセージを確認する」の「外出先から呼出回数でメッセージ録音の有無を確認する(トールサーバ機能)」(⇒ P.38)

参照「3-3 外出先からメッセージを確認する」の「メッセージ聞き取り時の折返し自動発信を行う」(⇒ P.39)

参照「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)の[着信設定]

トールサーバ着信や折返し自動発信を利用する電話番号を設定する

1 CTstage アシスタントを起動します。

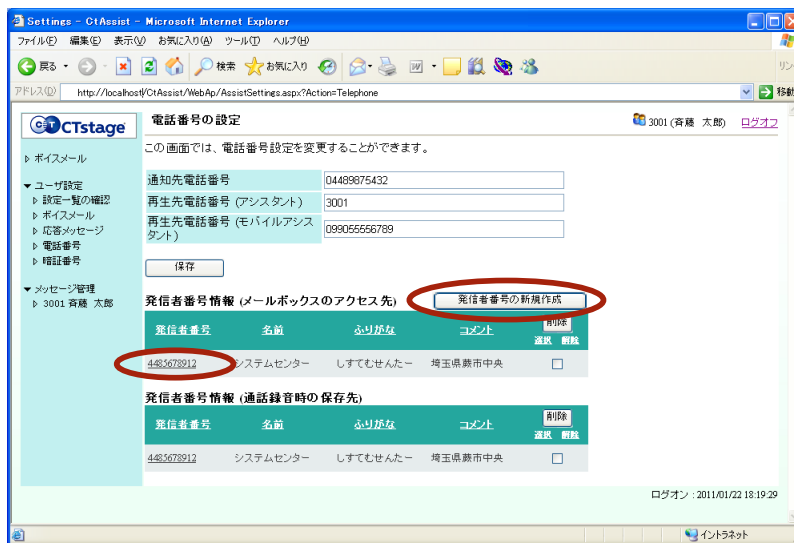
参照「CTstage アシスタントを起動する(ログオン)」(⇒ P.43)

2 左メニューから[ユーザ設定] - [電話番号]をクリックします。

[電話番号の設定]画面が表示されます。

3 [発信者番号の新規作成]または発信者番号リンクをクリックします。

- 外出先から利用する携帯電話の電話番号などを新しく追加する場合は、[発信者番号の新規作成]をクリックします。
- 登録されている電話番号を変更する場合は、該当する発信者番号リンクをクリックします。



発信者番号を設定する画面が表示されます。

4 [発信者番号]欄に発信者番号を入力して、[検索]をクリックします。

外出先から利用する電話の電話番号(自分の携帯電話の電話番号など)を入力して、[検索]をクリックします。

MEMO

電話番号の前に、自動選局特番(例えば 0)は必要ありません。

名前やふりがなを入力できる状態になります。

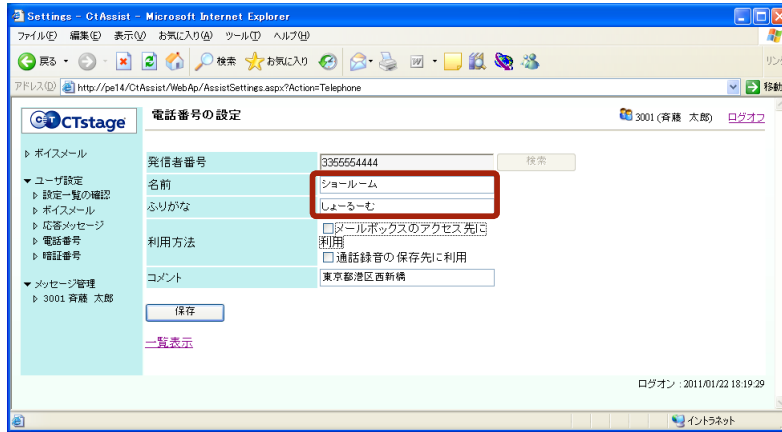
MEMO

[発信者番号]欄に発信者番号を入力して[検索]ボタンをクリックしたとき、すでに管理者によってその発信者番号の情報がボイスメールシステムに登録されている場合は、その内容が画面に表示されます。表示された内容を変更することもできます。

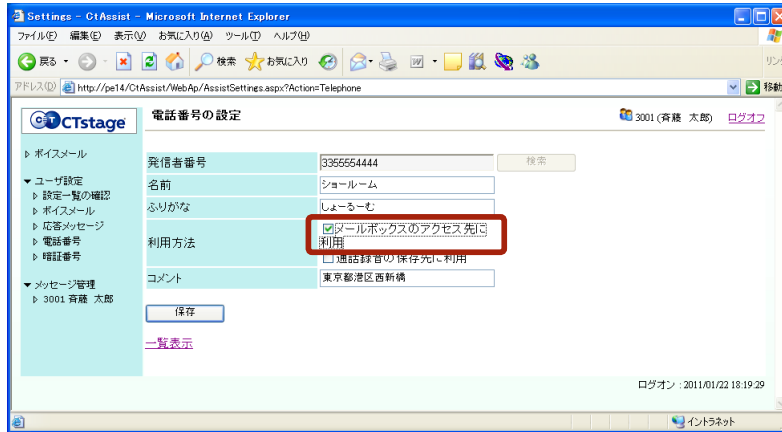
5

[名前] 欄と [ふりがな] 欄に入力します。

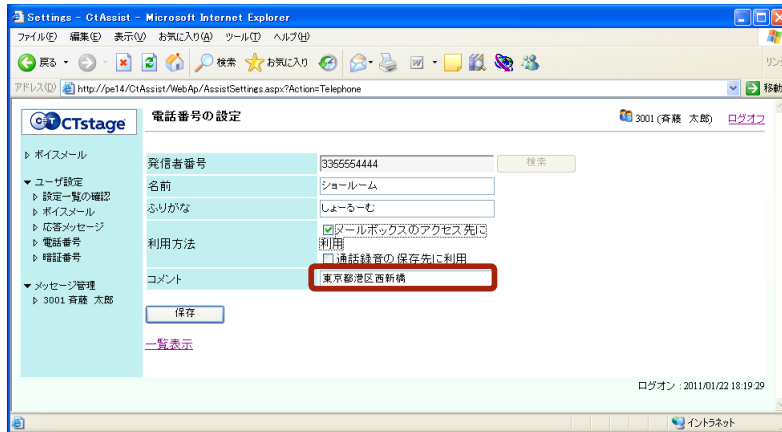
外出先から利用する電話の場所の名前や、自分の携帯の名前などを入力します。



6

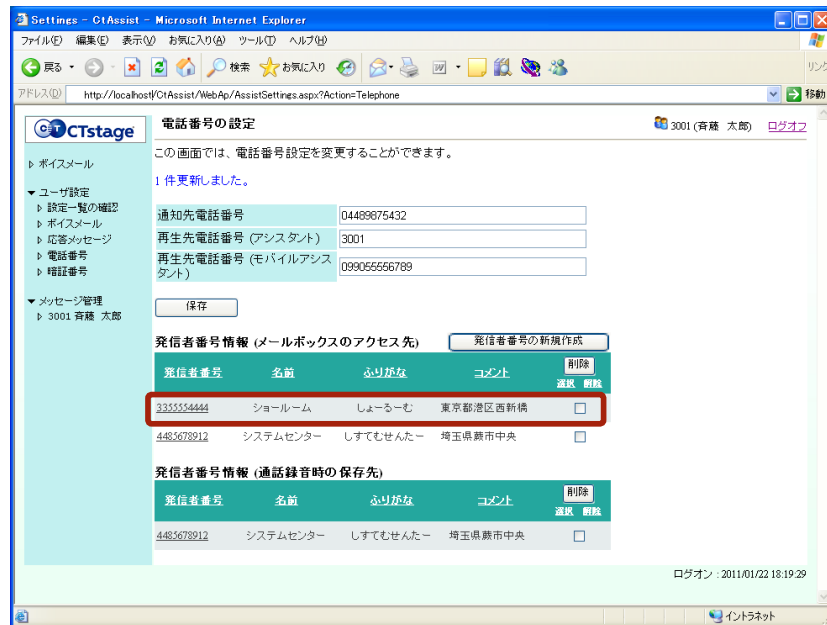
[メールボックスのアクセス先に利用] をチェックします。

7

必要に応じてコメントを入力します。

8 [保存]をクリックします。

このメールボックスに対して、トールサーバ着信や折返し自動発信を利用できる電話番号が追加されます。



MEMO

- ここでの設定は、電話番号のみです。実際に、トールサーバまたは折返し自動発信の機能を利用するには、[ユーザ設定] - [ボイスメール] をクリックして表示される [ボイスメール] 画面の [着信設定] 欄で、[トールサーバ着信として動作] または [折返し自動発信として動作] を選択する必要があります。

参照「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65) ([着信設定] 項目の設定)

- トールサーバおよび折返し自動発信の機能の詳細と電話機からの操作手順については、以下を参照してください。

参照「3-3 外出先からメッセージを確認する」の「外出先から呼出回数でメッセージ録音の有無を確認する(トールサーバ機能)」(⇒ P.38)

参照「3-3 外出先からメッセージを確認する」の「メッセージ聞き取り時の折返し自動発信を行う」(⇒ P.39)

● 特定の電話番号から着信したときの動作を設定する

CTstage アシスタントで、特定の発信者番号から着信したときの動作を設定して、発信者番号ごとに通話録音を行う際に、このメールボックスを保存先として選択できるようにします。このように設定すると、設定した電話番号からかかってきたすべての通話内容をこのメールボックスに保存することができます。
 参照)「ボイスメールの各種設定を変更する」(→ P.65)の「通話録音時の保存先ユーザ番号」

MEMO

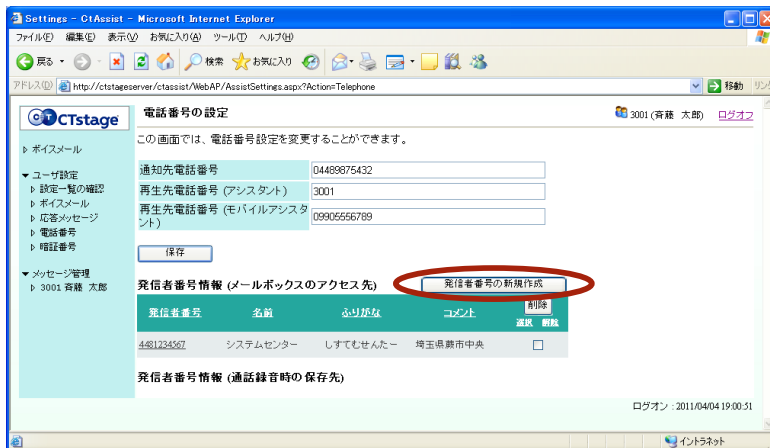
発信者ごとに通話録音の保存先を設定するには、あらかじめ管理者による設定が必要です。利用可能かどうかについては、管理者にお問い合わせください。

特定の電話番号から着信したときの動作を設定する

- 1 CTstage アシスタントを起動します。
 参照)「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(→ P.43)
- 2 左メニューから[ユーザ設定] - [電話番号]をクリックします。
 [電話番号の設定]画面が表示されます。
- 3 [発信者番号の新規作成]をクリックします。

MEMO

このメールボックスに通話録音を保存する発信者番号を新しく追加する場合は、[発信者番号の新規作成]をクリックします(発信者番号ごとの通話録音の保存先メールボックスの指定)。
 登録されている電話番号を変更する場合は、該当する発信者番号リンクをクリックします。

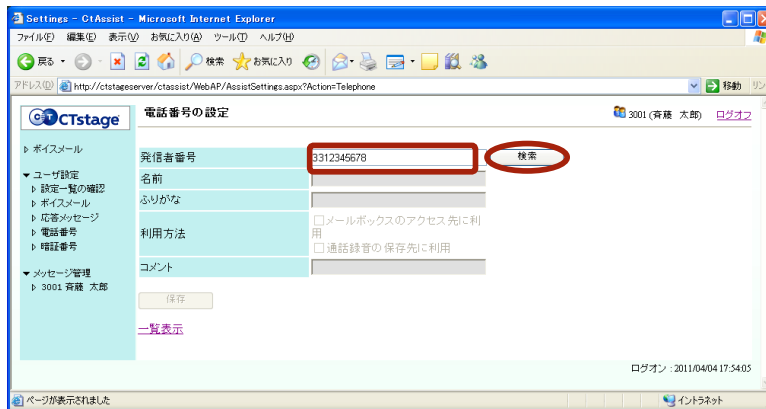


発信者番号を設定する画面が表示されます。

4

[発信者番号] 欄に発信者番号を入力して、[検索] をクリックします。

このメールボックスに通話録音を保存する発信者番号 (電話番号) を入力して、[検索] をクリックします。



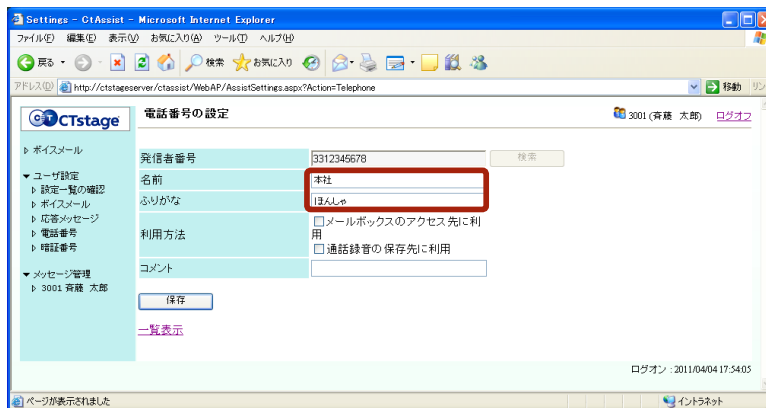
名前やふりがなを入力できる状態になります。

MEMO

[発信者番号] 欄に発信者番号を入力して [検索] ボタンをクリックしたとき、すでに管理者によってその発信者番号の情報がボイスメールシステムに登録されている場合は、その内容が画面に表示されます。表示された内容を変更することもできます。

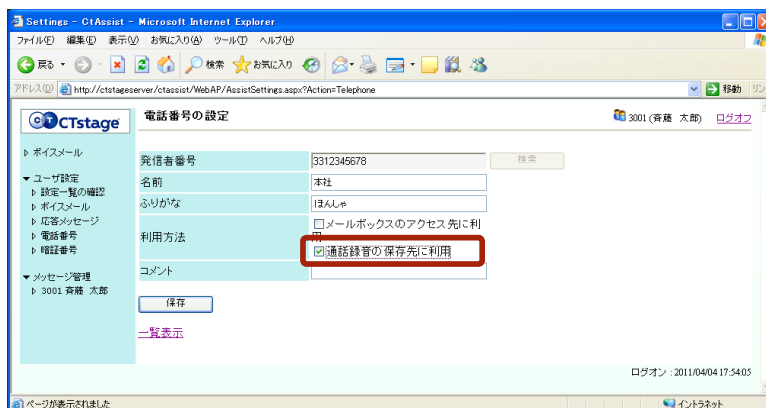
5

発信者の名前とふりがなを入力します。



6

[通話録音の保存先に利用] をチェックします。



7 必要に応じてコメントを入力します。

Settings - CtAssist - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://ctstageserver/ctassist/WebAP/AssistSettings.aspx?Action=Telephone

CTstage 電話番号の設定 3001 (斉藤 次郎) ログアウト

発信者番号 3312345678 検索

名前 株式会社

ふりがな ほんしや

利用方法 メールボックスのアクセス先に利用 通話録音時の保存先に利用

コメント 東京

保存

一覧表示

ログイン : 2011/04/04 17:54:05

8 [保存] をクリックします。

発信者番号が登録され、登録した電話番号からの着信時の通話録音は、すべてこのメールボックスに自動保存されるようになります

Settings - CtAssist - Microsoft Internet Explorer

アドレス http://ctstageserver/ctassist/WebAP/AssistSettings.aspx?Action=Telephone

CTstage 電話番号の設定 3001 (斉藤 次郎) ログアウト

この画面では、電話番号設定を変更することができます。
! 件更新しました。

通知先電話番号 04489875432

再生先電話番号 (アシスタント) 3001

再生先電話番号 (モバイルアシスタント) 09905556789

保存

発信者番号情報 (メールボックスのアクセス先) 発信者番号の新規作成

発信者番号	名前	ふりがな	コメント	選択	削除
4481234567	システムセンター	しすてむせんたー	埼玉鴻巣市中央	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

発信者番号情報 (通話録音時の保存先)

発信者番号	名前	ふりがな	コメント	削除
3312345678	株式会社	ほんしや	東京	<input type="checkbox"/>

ログイン : 2011/04/04 17:54:05

メッセージ転送先 / 通知先の電子メールアドレスを設定する

メールボックスに録音されたメッセージを音声ファイルとして電子メールに添付して転送することができます。また、メールボックスに新着のメッセージが着信したときに、電子メールに通知することができます。ここでは、CTstage アシスタントを利用して、録音メッセージの転送先および着信通知先の電子メールアドレスを設定(変更)する方法について説明します。

参照「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)の[電子メールへの自動転送]

参照「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)の[受信時の処理]-[電子メールに通知]

参照「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(⇒ P.32)

注意

この機能を利用するには、事前に管理者による登録が必要です。登録の有無については管理者にお問い合わせください。

MEMO

この機能は、CTstage オペレーションセンタ(OPC)で、[メールシステム]に[使用する]が選択されている場合に設定できます。OPC の設定については、管理者にお問い合わせください。

CTstage アシスタントで電子メールアドレスを設定する

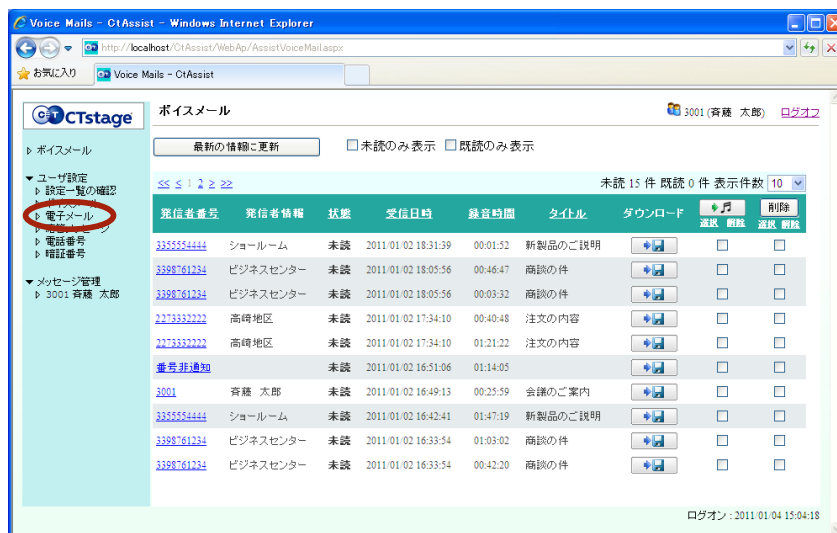
1 CTstage アシスタントを起動します。

参照「CTstage アシスタントを起動する (ログオン)」(⇒ P.43)

2 左メニューから[電子メール]をクリックします。

MEMO

[電子メール]メニューは、あらかじめ管理者により電子メールが利用できるように登録されていない場合は、表示されません。



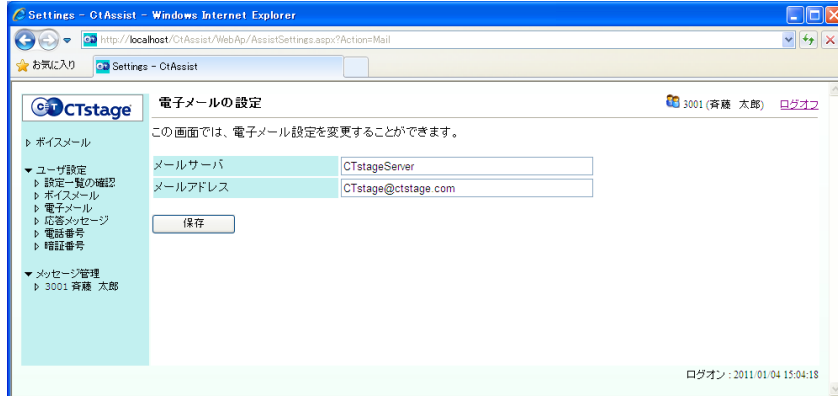
[電子メールの設定]画面が表示されます。

3 [電子メールの設定]画面で、各項目に入力します。

メールサーバの名前とメールアドレスを半角で入力します。

MEMO

各項目には CTstage オペレーションセンタ (OPC) で管理者が設定した内容がすでに入力されています。変更したい場合のみ入力してください。



注意

[メールサーバ]と[メールアドレス]には全角文字を入力できません。

4 [保存]をクリックします。

これで、転送先の電子メールアドレスが設定されました。

電子メール関連の各種設定については、それぞれ以下を参照してください。

- メールボックスに新着のメッセージが着信したときに電子メールに通知する設定：
参照》「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)
- メールボックスにメッセージが録音されたときに電子メールに添付して転送する設定
(メッセージは音声ファイルとして添付)：
参照》「ボイスメールの各種設定を変更する」(⇒ P.65)の「電子メールへの自動転送」
参照》「3-2 ボイスメール着信通知機能を利用する」(⇒ P.32)

付録 A

A-1 外部ボイスメール機能で使用するオートダイヤルボタン

電話機ごとに□□□(オートダイヤル)に特定の機能や電話番号などを割り付けて使用することができます。オートダイヤルボタンに機能を登録するには、**保留** + **0** のあと、機能を登録する□□□を押して、機能種別番号に続けて**確定**を押します。付加情報が必要な場合は、続けて電話機のディスプレイに入力画面が表示されるので、付加情報の番号を押して、**確定**を押します。詳細は、『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンに機能や番号を割り付ける」を参照してください。

機能種別 No.	機能名	付加情報 1	範囲	付加情報 2	範囲	備考
12	不在	—	—	—	—	不在時の着信をメールボックスに転送することで、音声メッセージを残してもらうことができる
29	通話録音	—	—	—	—	外線と通話中に押すと通話録音を開始する。通話録音中に押すと通話録音を取り消す。 また、内線から録音メッセージを残すことができる
30	メールアクセス	—	—	—	—	メールアクセス機能を登録する
31	録音終了	—	—	—	—	通話録音を終了し、録音した通話をメールボックスに保存する
32	一時停止	—	—	—	—	通話録音を一時停止する。再度押すと録音を再開する
33	録音転送	—	—	—	—	外線通話中に、通話相手に伝言メッセージを残してもらう場合に使用する
37	コメント	コメント番号	01 ~ 20	—	—	録音中に押すことで録音メッセージにタイトルかコメントを登録できる
53	メールボックス	共通内線番号 (1 ~ 8 桁)	00000000 ~ 99999999	表示種別	1: 詳細 2: 一覧 ※「1: 詳細」のみ有効です。	メールセンターにアクセスする(ワンタッチログオン)。 メールアクセス / 通話録音 / 伝言録音でメールボックス番号を指定する。 [ファンクション割付]メニューではなく、[メールボックス割付]メニューで登録 (『取扱説明書(多機能電話機編)』の「1-6 電話機への機能の登録」の「オートダイヤルボタンにメールボックスを登録する」を参照)

A-2 外部ボイスメール機能で使用する特番一覧

オートダイヤルボタンのない電話機でも、以下のような機能の操作ができます。

工事設定

特番の初期値が設定されていない機能を利用する場合や、すでに設定されている特番の初期値を変更する場合には、工事設定が必要になります。詳しくは販売店にご相談ください。

呼種別 No.	特番名	初期値	付加データ	特番入力後に入力する情報
12	自動選局	0	—	—
46	メールアクセス	91	—	—
77	自動録音	—	—	自動録音モード 0:解除、1:設定

索引

C

CTstage アシスタント	5, 42
ログオフ	45
ログオン	43
CTstage モバイルアシスタント	5, 42

あ

暗証番号の設定 / 変更(メールボックス)	
CTstage アシスタントから	46
電話機から	16

お

応答遅延代行	25, 28
[応答メッセージの設定]画面	70
オートダイヤルボタン	
PB 信号	3
一時停止	3
コメント	3
設定方法	81
通話録音	3
不在	26
メールアクセス	12
メールボックス	3, 12
録音終了	3
録音転送	22
折返し自動発信	39

か

外線着信代行	25, 28
--------	--------

け

圏外代行	25, 28
検索(録音された通話やメッセージ)	53

こ

構成図	
ボイスメールシステム	2

さ

[再生先電話番号]	72
再生したメッセージへの返信	19
再生中にできる操作	18
再生(録音された通話やメッセージ)	
CTstage アシスタント(電話機で)	49
CTstage アシスタント(パソコンで)	48
電話機から	17
[最大件数を越えた場合]	67

削除(録音された通話やメッセージ)

CTstage アシスタントから	59
電話機から	19

し

[受信時の処理]	68
----------	----

せ

設定	
暗証番号(CTstage アシスタントから)	46
暗証番号(電話機から)	16
応答メッセージ	69
ボイスメールの各種設定	65
メールボックス	61
[設定一覧の確認]画面	63

た

タイトル / コメントを付ける	
CTstage アシスタントから(録音済みメッセージ)	51
電話機から(通話録音時)	10

ち

[着信設定]	68
注意事項	6

つ

[通知先電話番号]	72
通話料金の節約	
折返し自動発信の利用	39
トールサーバ機能の利用	38
通話録音	7
自動通話録音の設定 / 解除	9
発信者番号別の保存先	76
[通話録音時の保存先ユーザ番号]	68

て

[テキスト音声合成](応答メッセージ設定)	27, 70
伝言録音	20
電子メールアドレスの指定	
ボイスメール着信通知先	34
メッセージの転送先 / 通知先	79
[電子メールへの自動転送]	67
転送(録音された通話やメッセージ)	
CTstage アシスタントから	56
電話機から	23
[電話番号の設定]画面	72

と

トールサーバ機能	38
特番一覧	82

は

[発信者番号]	51
発信者番号 通話録音の保存先メールアドレス指定	76

ひ

標準メッセージ	27
[標準メッセージ] (応答メッセージ設定)	70

ふ

[付加情報の編集] タイトル / コメントの追加	51
不在代行	24, 28

ほ

[ボイスメール] 画面	67
ボイスメールシステム 概要	1
構成図	2
ボイスメール着信通知 解除	33
設定 (CTstage アシスタントから)	65, 68
設定 (電話機から)	32
通知先電話番号設定 (CTstage アシスタントから) ..	71
通知先電話番号設定 (電話機から)	34
ボイスメール (メッセージ) の録音 相手のメールアドレス	20
複数のメールアドレス	21
ボイスメール録音	21

む

無応答代行	25, 28
-------------	--------

め

メールセンター接続番号 (外線用)	4, 35
メールセンターへの接続	12
外出中の通話相手を接続させる	37
接続から切断までの流れ	13
ワンタッチログオン	15
メールボックスの各種設定 (CTstage アシスタント) ..	61
メールボックス用電話帳	40
メールボックスログオン中に内線電話をかける ..	30
[メッセージ管理] 画面	53, 54

ゆ

[ユーザ設定]	46
---------------	----

り

利用方法 電話機から	3
パソコンから	5

る

留守番電話	24
応答メッセージの録音と設定	27
設定方法	24
留守番電話の応答メッセージを利用 外出先からのアクセス	36

ろ

録音転送	22
録音に必要なオートダイヤルボタン	3
[録音メッセージ] (応答メッセージ設定)	70

わ

話中代行	25, 28
ワンタッチログオン	15



リチウムイオン電池の
リサイクルに
ご協力ください

この装置は、クラス A 情報技術装置です。
この装置を家庭環境で使用すると電波障害を引き起こすことがあります。この場合は、使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

本製品は、外国為替及び外国貿易法で定める規制対象貨物・技術に該当する製品です。
この製品を輸出する場合または国外に持ち出す場合は、日本国政府の輸出許可が必要です。

This product designed for use in Japan is a strategic product regulated under the Japanese Law. When you plan to export or take this product out of Japan, please obtain a permission from the Japanese Government.

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です)

お 買 い 上 げ 日	年	月	日	品番	
販 売 店 名				電話 ()	-
お 近 く の 販 売 会 社				電話 ()	-

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、まずお買い上げの販売店へお申し付けください。

パナソニック システムソリューションズ ジャパン株式会社

1315BT 173-2 D